

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	福西 由美子					科目ナンバ-	U73190
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者分析とアパレル商品企画のプロセスを身につける。						
授業の概要	アパレル商品企画において必要となる消費者ニーズ、ファッション生活を観察することを通じて、ファッション市場の特性や動向を分析する力、商品企画に関する基本的な知識を身につける。消費者の様々な生活スタイルやシーズン、ファッションタイプ、トレンド感性を理解した上で、トレンド情報の収集、市場調査の分析を行う。具体的な商品企画のステップに沿って、自らが企画・立案したオリジナル・ブランドの商品企画書を作成する。						
到達目標	(1)アパレル商品の種類と特性を説明することができる。【知識・理解】 (2)商品企画の背景、意図、商品化までのプロセスを理解し、企画構想に繋げることができる【汎用的技能】 (3)新規のアパレル商品企画・提案をすることができ、企画書として表すことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 消費者行動とファッション表現 第2回 ライフスタイルとファッション 第3回 ファッションイメージ、トレンド感性の分類 第4回 感覚年齢（マインドエイジ）の分析 第5回 アパレル産業の仕組みとアパレル商品知識 第6回 ファッションマーケティングと商品企画 第7回 アパレル商品企画の基本ステップ 第8回 ターゲット企画 第9回 情報企画 第10回 商品コンセプト企画 第11回 コーディネート企画 第12回 アイテム企画 第13回 オリジナルのアパレルブランド企画(1)プロモーション 第14回 オリジナルのアパレルブランド企画(2)企画書のまとめ 第15回 プレゼンテーションと講評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：ファッション雑誌、小売店の店頭ディスプレイ等を日常的にリサーチすること、ファッション分野だけでなくアートやカルチャーにも視野を広げ、「トレンドを捉える」意識をもつこと。 収集した情報、切り抜きなどの資料をストックし、各課題の材料とする。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。＜2時間＞						
授業方法	講義・実習形式で行う。 各回の授業内容をふまえたグループワークや参考事例、収集した資料・情報分析、自由な発想をもとに各自でアパレルのオリジナル・ブランドを企画・立案する。商品企画書を作成、プレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内課題 70%：レポート、企画書の内容、完成度を評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業態度 30%：グループワークの取り組み、参加度、積極性を評価する。 課題のフィードバック方法：グループワークの課題や企画書については、授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業回数の2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失うものとする。 20分以上の遅刻・早退の場合は、欠席とする。 スマートフォン等は使用指示がない限り、机上に置かないようにする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「ファッション・マーケティング」菅原正博・本山光子共著ファッション教育社 ISBN978-4-7952-4177-0C2063 「ファッションビジネス[1]改訂版」日本ファッション教育振興会 ISBN978-4-931378-28-5-C2034 「文化ファッション大系 ファッション流通講座7 コーディネートテクニク演出編」文化服装学院編 ISBN978-4-579-10941-8C5377						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	U22120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカートの設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。(知識・理解)(汎用的技能)						
授業計画	第1回 オリエンテーション(スカートの基礎知識、採寸) 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート(基本形)の実物大製図(自己サイズ) 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断(表地の各パーツの裁断) 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ(へらorチャコペーパー) 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習: 欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編 ISBN-10 : 4579112318 ISBN-13 : 978-4579112319						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレル生産実習						
担当教員	戸田 賀志子					科目ナンバ-	U22120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解する。						
授業の概要	衣服制作における技術の習得と、アパレル製品が仕上がるまでの諸工程を理解することを目的とする。そのために、アパレル製品とこれを着装する人体との関係を把握し、人体の立体構造を平面製図に起こすことにより立体と平面の関わりを知り、パターンの特性を理解する。本実習では人体の構造、計測方法、パターン製作についての理解を深め、自分の身体にぴったりと合ったサイズの衣服制作へと展開させ、実物制作・基礎縫いを通して、基礎的な縫製技術を修得する。						
到達目標	セミタイトスカート設計・縫製過程を理解し、完成させるまでの技術を身につけることができる。(知識・理解)(汎用的技能)						
授業計画	第1回 オリエンテーション(スカートの基礎知識、採寸) 第2回 基礎縫いⅠ 第3回 タイトスカート(基本形)の実物大製図(自己サイズ) 第4回 タイトスカートからセミタイトスカートへ展開 第5回 セミタイトスカートの仮縫い 第6回 セミタイトスカートの補正 第7回 セミタイトスカートの裁断(表地の各パーツの裁断) 第8回 セミタイトスカートの縫製①印つけ(へらorチャコペーパー) 第9回 セミタイトスカートの縫製②伸び止めテープ貼り、ダーツ縫い、縫い代のしまつ 第10回 セミタイトスカートの縫製③後ろ中心を縫う、ファスナーつけ、基礎縫いⅡ 第11回 セミタイトスカートの縫製④脇縫い、基礎縫いⅢ、裾のしまつ、ベルト作り 第12回 セミタイトスカートの縫製⑤ベルトつけ 第13回 セミタイトスカートの縫製⑥カギホックつけ、アイロン仕上げ 第14回 実習内容の総括 第15回 レポート、スカートを着装して講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 衣服について日頃から関心を持ち、デザイン・縫製・着心地など自分なりに考察しておくこと。 また本実習ではミシンを使用するので、家庭用ミシン程度は使えるように自己学習しておくこと。 授業後学習: 欠席すると制作が遅れます。また、授業に出席していても宿題となる部分が多くあります。授業内で詳しく説明するので、宿題は必ず各自進めておくこと。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品課題60% レポート20% 実習取り組み態度 20%						
履修上の注意	・10回以上の出席がないと受講資格を失います。実習のため遅刻や欠席をすると作業が大幅に遅れます。遅れている部分は、次週までに必ず進めておくこと。 ・課題作品は期限内に必ず提出すること。 ・質問は授業の前後で受け付けます。不明なままにしないこと。						
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座②『スカート・パンツ』文化服装学院編 ISBN-10: 4579108388 SBN-13: 978-4579108381						
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①『服飾造形の基礎』文化服装学院編						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	井上 裕之					科目ナンバ-	U73200
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	アパレルデザインに関する表現方法や素材、デザイン、色彩などの基本的な知識を身につける。						
授業の概要	私たちが普段着用、購入するアパレル商品は様々なデザイン要素の組み合わせで成り立っている。本講義では、アパレルデザインに関する基本的な知識を身につけ、現在販売されているアパレル商品がどのようにデザインされているか考える。アパレルデザインの提案へと発展させていく。						
到達目標	アパレル商品の機能性、審美性、表現方法を知り、服飾デザインの基本について説明できる。【知識・理解】適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるバリエーションを提案することができる。【汎用的技能】アパレルデザインにより、更に質の高い衣生活のあり方を提案し、表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 アパレルとは、アパレルの商品企画 第3回 ファッションビジネスとは、ブランドについて 第4回 ファッションの変遷① パリモードの変遷 第5回 ファッションの変遷② 日本のファッションの変遷 第6回 衣服デザインの基礎① 形態 第7回 衣服デザインの基礎② 衣服のディテール 第8回 衣服デザインの基礎③ 色彩 第9回 衣服デザインの基礎④ 素材 第10回 流行とは何か、ファッションとテイスト 第11回 現在のファッションのトレンドについて 第12回 現代ファッションが取り組む問題 第13回 デザイン課題① 情報の収集と分析 第14回 デザイン課題② デザイン 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	[授業前準備学習：2時間] SNS、ファッション情報サイト、ファッション雑誌等で、積極的に情報収集し、授業の理解に繋げる。内容の理解につなげる。 [授業後学習：2時間] 授業での内容をまとめ、理解できない事柄について復習し、必要であれば、次回授業での質問事項としてまとめる。						
授業方法	講義 授業内容に応じて、レポート、実際にデザインを考案する等の課題を課す。 課題にはディスカッション、グループワークを含む。						
評価基準と評価方法	課題70% 授業態度30% デザインやレポート、リサーチ等各課題を総合的に評価する。						
履修上の注意	提出物の期限を厳守すること。 10回以上の出席がないと、受講資格を失う。						
教科書	改訂 アパレルデザインの基礎 日本衣料管理協会 03-3437-6416 発行 日本印刷株式会社（ISBNなし）						
参考書	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨ 服飾デザイン 文化服装学院編 文化出版局 03-3229-2474 発行 ISBN 978-4-579-11049-0						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U11010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目指す。具体的に扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服と社会とを関係づけることができる【知識・理解】 ・被服のなりたちについて説明することができる【知識・理解】 ・被服と人の心身とを関係づけることができる【知識・理解】 						
授業計画	第1回 人と被服との関わりについて考える 第2回 被服の起源 第3回 被服の歴史と文化 和服の歴史 第4回 被服の歴史と文化 洋服の時代へ 第5回 被服の未来 機能性とデザイン 第6回 民族と衣生活 第7回 レポート課題とmanaba小テスト 第8回 自然環境と被服 第9回 ライフスタイルと被服 衣生活の現状 第10回 ライフスタイルと被服 TPOとフォーマルウェア 第11回 ライフスタイルと被服 ライフサイクルから見た衣服設計 第12回 衣服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 まとめ 期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んで予習しておく（60分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する。（120分）						
授業方法	講義、動画視聴等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点 40%、試験とレポート課題 60% 平常点は、各回提出のリアクションペーパーの内容、記述の的確さ等を評価する。						
履修上の注意	出席を重視する						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）ISBN 978-4-254-60633-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	インテリア・コーディネート実習						
担当教員	山本 嘉寛					科目ナンバ-	U12150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア・コーディネートの概要を実習を通して確実に理解し、表現力の基礎を身につける。						
授業の概要	映像を利用した講義の後、内容に即した実習課題に取り組む。ほぼ毎回この流れで授業が進行する。ライフスタイル別のインテリア・コーディネートから開始し、カラーコーディネート、課題空間のゾーニングから家具計画、照明計画、窓装飾計画へと進める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インテリアにまつわるスタイル、エレメント、コーディネートについて理解できる。【知識・理解】 2. 漠然としたイメージから具体的な空間を構想することができる。【汎用的技能】 3. 構想した空間を表現することができる。【汎用的技能】 4. 表現した空間を他者に伝えることができる。【汎用的技能】 						
授業計画	第1回：授業のガイダンスとスタイル（様式）についての概説 第2回：各自のテーマとなる言葉の検討と、その言葉から連想される空間の実例集め 第3回：床仕上材の概説とそのコーディネート 第4回：壁・天井仕上材の概説とそのコーディネート 第5回：外部建具の概説とそのコーディネート 第6回：窓装飾の概説とそのコーディネート 第7回：内部建具の概説とそのコーディネート 第8回：給排水衛生設備の概説とそのコーディネート 第9回：照明器具の概説とそのコーディネート 第10回：家具の概説とそのコーディネート 第11回：建築図面とインテリア模型の概説 第12回：インテリア模型の製作(1)床・壁・天井・建具 第13回：インテリア模型の製作(2)仕上 第14回：仕様書・仕上表とコンセプトテキストの製作 第15回：製作した課題のプレゼンテーションと総評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	仕様書・仕上表・インテリア模型は、授業外の時間もできるだけ活用して製作を進め、より質の高い作品を目指す事が望ましい。						
授業方法	実習・演習形式で行う。 インテリアを着想する手がかりとして空間的なイメージを帯びた言葉を選び、連想する空間イメージをブラウザの画像検索やPinterestを用いて収集する。仕様書・仕上表はExcelにて製作し、毎回の授業終了時にDropboxを用いて提出する。収集したイメージやExcelデータはDropboxにて共有し、受講生間での考え方の違いや共通点を認識しながら課題を進める。スチレンボードその他の材料を用いてインテリア模型を製作する。製作した課題の要旨をテキストにまとめる。仕様書・仕上表とインテリア模型を用いてプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	仕様書・仕上表50%、インテリア模型30%、プレゼンテーション10%、コンセプトテキスト10% 仕様書・仕上表：課題主旨とテーマの整合性、テーマとデザインの整合性、内容の充実度、独自性を評価する。 インテリア模型：模型と仕様書・仕上表の整合性、完成度、独自性を評価する。 プレゼンテーション：デザインしたアイデアを他者に分かりやすく伝達できているかを評価する。 コンセプトテキスト：テーマとテキストの整合性、デザインしたアイデアを他者に分かりやすく伝達できているかを評価する。						
履修上の注意	■カッターナイフ、カッターナイフ替刃、ものさし（鋼尺推奨）、糊、はさみ、紙袋（17x17x6[cm]の模型が入る奥行）を各自用意する。 ■その他、必要に応じて各自画材を用意する場合がある。 ■Microsoft Excel、Webブラウザ(Internet Explorer、Microsoft Edge、Google Chrome等)の基本的な操作知識が必要である。 ■実習のため毎回出席することが原則である。出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。30分以上遅刻・途中退出・早退の場合は欠席とする。						
教科書	なし						
参考書	■100 Interiors Around The World (Bibliotheca Universalis) / 編集：Balthazar Taschen, Laszlo Taschen / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836557269 ■1000 Chairs (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell, Peter Fiell / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836563697 ■1000 Lights (Bibliotheca Universalis) / 編集：Charlotte Fiell, Peter Fiell / 出版社：Taschen America Llc / ISBN-13: 978-3836546768 ■図解テキスト インテリアデザイン / 著者：小宮 容一、片山 勢津子、塚口 真佐子、西山 紀子、加藤 力、ペリ						

参考書	一史子 / 出版社：井上書院 / ISBN-13: 978-4753015870
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U73240
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	香りのさまざまな心理学的効用の考察						
授業の概要	<p>においは人が生活していくうえで身の周りにあふれている。この授業では、香りの心理学的および生理学的メカニズムについて知ることがを目的とする。香りの人間に対する作用のなかには、自律神経系、免疫系、認知機能など心身に対する影響があり、香りを用いた研究例をもとに理解する。また、精油を実際に使いながらそれらの心理的効用を理解する。</p>						
到達目標	<p>1. 嗅覚の仕組みに関する用語を理解し、それを用いて嗅覚の特徴を説明できる。[知識・理解] 2. 香りの心理学的効用を複数説明でき、生活の中で用いられる場面と関係づけて自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 実際に精油に触れ、それらの違いを識別でき、特徴や心身に対する作用をわかりやすい言葉で表現することができる。[知識・理解]</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 香りとう自己表現 3. 嗅覚の仕組み 4. 香りの鎮静覚醒作用 5. 香りとストレス 6. 香りと睡眠 7. 香りと疲労 8. 精油の種類と特徴 9. 精油の心理的作用 10. 精油の生理的作用 11. 香りと免疫 12. 香りと認知 13. 香りと記憶 14. 嗅覚の個人差 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回の授業で取り上げる香りの効用について参考書などで予習する。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で実際に嗅いだ香りの特徴と効用を配布用紙に記入、もしくは、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）</p>						
授業方法	<p>主に講義形式でおこなう。各回精油の香りを実際に嗅ぎ、グループで香りの特徴についてディスカッションし、各回のテーマについて解説・講義をおこなう。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)：香りの特徴を表現する力、生活のなかでの香りに関する自分の考えを表現する力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(60%)：嗅覚の仕組み、香りの特徴や効用に関する知識に関する理解度を評価する。到達目標1および3に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。</p>						
教科書	<p>なし。適宜、プリントを配布する。</p>						
参考書	<p>「〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療」 NHK出版新書 ISBN: 978-4140883853 「アロマセラピーの教科書」 新星出版社 ISBN: 978-4405091658</p>						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族関係学						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U72030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学的観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学的観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	(1) 高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2) 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。【汎用的技能】 (3) 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族（グループワーク） 第3回 家族の概念と定義 第4回 少子化とその原因分析（グループ発表） 第5回 子どもの発達と親の役割 第6回 家族関係を分析する理論－役割理論 第7回 家族関係を分析する理論－ジェンダー理論 第8回 家族関係を分析する理論－ライフコース理論 第9回 家族関係を分析する理論－コーホート理論 第10回 高齢社会と家族 第11回 共生社会と福祉（高齢者福祉・児童福祉）（グループワーク） 第12回 家族とグローバリゼーション（グループ発表） 第13回 夫婦関係と法律 第14回 親子関係と法律 第15回 家族生活と社会、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマの箇所を教科書を読んで予習し、事前に指定した箇所を下調べする。＜2時間＞ 授業後学習：グループディスカッションした結果と官公庁統計データをもとに、女性のライフコースについての発表資料を作成する。またわが町の人口変動（少子化・高齢化）と子育て支援や高齢者福祉についての統計データを調べ、自治体の対策の現状と今後の課題についてレポートを作成する。＜2時間＞						
授業方法	講義：女性のライフコースおよび高齢者福祉についてのグループワークを行う。グループワークの結果と統計資料や自治体の施策についてのフィールドワーク（授業外学習）の結果を合わせてプレゼンテーションを行う。グループワークの結果およびプレゼンテーションについては松蔭manabaを活用する。						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業外小レポートと授業中の小レポート60%、期末試験40%） レポートは、到達目標(3)に示されたグループワークの結果を基にして、到達目標(2)の自治体の支援サービスについて調べた結果をまとめる能力を測定する。評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価結果は松蔭manabaでフィードバックする。 期末試験は到達目標(1)に示された家族社会学の専門用語の理解、到達目標(2)に示された現代家族の問題解決についての理論的知識、汎用的技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果は解説とともに返却する。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない者は、原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークを実施しその結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『よくわかる現代家族〔第2版〕』、神原文子・杉井潤子・竹田美知編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623076833						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族文化演習						
担当教員	白坂 文					科目ナンバ-	U73120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ブライダル・ビジネスの現状を理解し、業種や実態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスに関する内容を学ぶ。また、婚礼企画やブライダル・アイテムの制作も行う。						
授業の概要	家族構成の変化としては、結婚、出産、エンディングといったライフステージの変化があるが、本授業では特に「結婚」についてをピックアップし、ブライダル・ビジネスを取り上げる。人々の結婚観や価値観の多様化や個性化と専門結婚式場の事業拡大や異業種からの参入などの実態を考察する。また、本学の理念であるキリスト教の愛の精神と結婚式の関係を理解した上で、ブライダル・ビジネスの業種や業態、ブライダルの歴史や慣習、挙式・披露宴、附帯するサービスについての基礎的な知識とマーケティングやサービスに関する授業を演習形式で行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブライダルに関する基礎知識を習得し、ブライダルの形体に応じた特徴を説明できる。【知識・理解】 2. 結婚式や披露宴の内容について調査し、各自オリジナルのブライダル・プランの企画を提案できる。【汎用的技能】 3. 各自が提案するブライダル・プランに沿ったブライダル・アイテムを制作できる。【汎用的技能】 4. ブライダル・プランやブライダル・アイテムについて自身の提案を発表して皆で議論し、最終授業では作品のプレゼンテーションができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>【ブライダルの基礎知識】</p> <p>第1回 ブライダル・マーケットの現状と顧客ニーズ</p> <p>第2回 ブライダルの歴史と現代のブライダル・トレンド</p> <p>第3回 本学での結婚式について ※(キリスト教センター：チャプレン、桑さん協力)</p> <p>第4回 日本の挙式会場の特徴と披露宴スタイル (ホテル・専門式場・ゲストハウス・レストラン)</p> <p>【ブライダル企画】</p> <p>第5回 ターゲット設定・コンセプト設定</p> <p>第6回 ブライダル衣装、ウェディングケーキ、ブライダル・アイテム</p> <p>第7回 ディスカッション</p> <p>第8回 オリジナルのブライダル・プランの作成 (提案・発表)</p> <p>第9回 オリジナルのブライダル・プランの作成 (まとめ・発表)</p> <p>第10回 プレゼンテーション</p> <p>第11回 ザ・ヒルサイド神戸 結婚式場ウェディングの学外研修 ※(学外見学)</p> <p>【ブライダル・コーディネーター】</p> <p>第12回 ブライダル・アイテムの制作 (提案・発表)</p> <p>第13回 ブライダル・アイテムの制作 (まとめ・発表)</p> <p>第14回 プレゼンテーション、レポート作成</p> <p>第15回 ホテル ラ・スイート神戸 ホテルウェディングの学外研修 ※(学外見学)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>事前学習：授業の最後に次週の授業テーマについてアナウンスするので、そのテーマについて調べておく。また、平素より結婚式や披露宴についての最近のトレンドや、神戸ウェディングの特徴についても意識してまとめるようにしておく。(学習時間2時間)</p> <p>事後学習：授業の内容は毎時各自でまとめ、ブライダル・プランの立案に役立てるようにして、授業の中で自身の意見を提案し、皆で議論していく。最終的には自身で制作したブライダル・プランやブライダル・アイテムのプレゼンテーションを行う。(学習時間2時間)</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	<p>授業態度：30% 授業への取り組み、積極性、プレゼンテーションを総合的に評価する。</p> <p>レポート・作品：70% レポートの内容や作品の完成度で評価する。レポート・作品の評価後は、返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席とする。</p> <p>授業は実習を伴うため、各自必要なものを持参し忘れ物をしないこと。</p> <p>各自、配布プリントをファイリングするファイル(A4サイズ)と、ブライダル・プランの制作用のポケットファイル(B4サイズ)を準備する。</p> <p>※学外研修を2回予定しているが、日時については土・日や補講期間中になる可能性がある。交通費については実費負担となる。詳細は授業内に伝達することとする。</p>						
教科書	配布資料をテキストとする。						

参考書	適宜、プリントを配布する。
-----	---------------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家族文化論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U73110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	少子化社会における家族文化について概説し、子どもが育つ環境を整備し支援していくための社会的支援について考える。家族がそのライフコースにおけるターニングポイントにおいて通過儀礼として経験する結婚、出産、死などに関して生活学の視点から考察をする。結婚、生(命)の誕生と終焉の場面において、家族や地域に受け継がれてきた儀礼が特定サービス産業に担われるに従い、変化を余儀なくされている。当事者本人と家族が、生(命)の選択や誕生、終焉に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。						
授業の概要	家族がそのライフステージにおいて経験する家族や地域に受け継がれてきた文化について考察する。当事者本人と家族が、結婚、生(命)の選択や誕生、子育て、青年期のアイデンティティ確立に対して自由な選択肢を持つとともにリスクを持つといった葛藤に直面していることに焦点を当て解決策を考える。また格差社会における子育てにも焦点を当てるとともに、グローバル化が進んだ社会における多文化共生社会についても概説し、多様な家族文化の中で起こる問題点を解決する社会的支援について説明する。						
到達目標	(1) 親や家族の関わり方についての歴史を概観し、近代社会における子育ての文化を理解できる。【知識・理解】 (2) 子ども(乳幼児)の発達と生活についての基本的な知識を理解する。【知識・理解】また、保育観察を通して、子ども(乳幼児)と関わるためのコミュニケーションについて、実践的に学ぶ。【態度・志向性】 (3) 多文化共生社会に育つ子どもの社会化を学び、家族文化の多様性を認識できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 晩婚化ー結婚に関する家族文化の変化ー(グループワーク) 第2回 生殖技術のもたらすもの 第3回 子どもの社会化と文化 第4回 母性神話と3歳児神話 第5回 育児とジェンダー 第6回 ひとり親家族と社会的支援 第7回 子どもの運動機能の発達・基本的生活習慣、保育観察事前指導 第8回 保育観察(次回までに保育観察記録作成) 第9回 地域社会における子育て支援 第10回 子どもの遊びと社会性の発達・地域子育てセンター事前指導 第11回 地域子育てセンター観察(次回までに保育観察記録作成)(学外見学・フィールドワーク) 第12回 日本のマイノリティー家族 第13回 家族の国際化と子ども(プレゼンテーション) 第14回 多文化共生社会における子どものアイデンティティ 第15回 子どもと社会・文化環境、期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 授業の前に次回授業に関する内容について参考書や新聞記事などを示すので、そのテーマに沿って下調べをする。<2時間> 授業後学習: 結婚に関して、その歴史の変遷や現代の結婚が儀式として家族文化の中にどのように捉えられてきたかに関して、グループワークを行う。地域の子育て支援をフィールドワークし、その観察記録を作成し、地域社会における子育てについてレポートを作成する。<2時間>						
授業方法	講義: 結婚に関する家族文化についてはグループワークを行い、女性のライフコースの中でどのような価値観によって、結婚の時期、配偶者選択、結婚式という文化が形成されるか、グループ討議を行い発表する。また子育ての文化については、ジェンダーに基づく価値観がどのように浸透し、今日の育児の文化が形成されてきたかを理論的に検討する。検討結果をもとにフィールドワークを行い、地域における子育て支援の現状を把握し、格差社会における子育ての課題を考え、対策について松蔭manabaを使ってプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験(小レポート60%、期末試験40%) 小レポート: 到達目標(1)に関して、親や家族の関わり方について結婚を取り上げ、晩婚化の中で近代社会における子育て文化の変化を理解しているか、プレゼンテーションにおいて到達度の確認をする。レポートに関しては、地域における子育て支援センターのフィールドワークの体験記録作成、自治体の施策の調査によって、到達目標(2)と(3)を確認する。レポートは評価基準を事前にルーブリック評価として示し、松蔭manaba上で評価結果を示し、その都度フィードバックする。 期末テスト: 主に、到達目標(2)を確認するために、結婚に関する文化および子育て文化の歴史の変遷とその文化的背景についての理解度を評価する。試験結果は解説とともに返却する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 学外に出て、データを集めたりフィールドワークをし、その結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。						
教科書	その都度配布物を渡します。						
参考書	『グローバル化と子どもの社会化: 帰国子女・ダブルスの国際移動と多文化共生』、竹田美知、学文社、2015、ISBN978-4762024986						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	福田 博也					科目ナンバ-	U72150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な家電情報機器の役割や仕組みについて学ぶ						
授業の概要	生活と技術との関係について、生産、家庭生活、教育の視点から考察する。家庭生活に関わる機器、情報通信技術と各種ソフトウェアに関する基礎的な知識を得る（知識・内容の理解）。家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェア、情報セキュリティ等について関心を持つ（関心・意欲）。情報通信技術と各種ソフトウェアに関する諸問題について、倫理的な見方や考え方を身につける（態度）。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアの仕組みがわかるようになる。（知識・理解） ・適切な製品を選択できるようになる。（知識・理解） ・機器を安全かつ有効に使用できるようになる。（知識・理解） 						
授業計画	<p>授業計画は以下のとおり</p> <p>第1回 食生活と機器 第2回 衣生活と機器 第3回 住生活と機器 第4回 電気・機械の基礎知識 第5回 家庭用のエネルギー 第6回 技術と環境問題 第7回 エネルギー変換、電池 第8回 情報機器のしくみ・デジタル AV 機器 第9回 情報機器のしくみ・家庭用パーソナルコンピュータ 第10回 情報ネットワークの仕組み 第11回 情報の収集、処理、分析、発信 第12回 通信ネットワーク、インターネットの現状と近未来 第13回 個人情報とプライバシー、情報セキュリティ 第14回 家庭の省エネルギー 第15回 まとめと期末試験</p> <p>※受講生の理解度に応じて、授業テーマの順番を変更することがある</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：次回の授業で扱うテーマや専門用語について下調べをする（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容について整理し、各回ごとにレポートとしてまとめる（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	講義または、学生による発表						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 60%、提出物 20%、平常点 20% 程度の割合で総合的に評価する</p> <p>平常点は、授業中に行う演習問題、発表内容などをもとに評価する</p>						
履修上の注意	<p>全授業回数の 2/3 以上に出席しなければ、期末試験を受験した場合でも「不可」となる</p> <p>※毎回の積み重ねが求められる授業です。身の回りの「エレクトロニクス」など、実用例を交えながら講義しますので、最後まで受講を続けて下さい</p> <p>※普段から、身の回りの「電気」「電子」「機械」「情報」に目を向けるようにして下さい</p>						
教科書	初回の授業で指示する						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント演習						
担当教員	藤田 佳子					科目ナンバ-	U23460
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来カフェ経営や企画業務を目指す者にとって必要な基礎知識を、実践しながら将来の出店も可能であるように修得できるように学ぶ。						
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェの意義をなが考えながら、自らのイメージ店舗開店のシュミレーションまで行う。さらに、開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。これからのカフェマネジメントにより近い形で実践する。						
到達目標	(1) 前期での書面上のシュミレーションをもとに、レイアウトやテーブルセッティングを習得し、実践する。【汎用的技能】 (2) フィールドリサーチを行い、現代のニーズとテーマをコンセプトにカフェ経営における必要なメニュー作成、コーヒー紅茶の淹れ方の実践を行い、修得する。【汎用的技能】 (3) 社会に向けて提案できるようなカフェ経営における販売促進や、イベントを企画し、発表する【汎用的技能】						
授業計画	第1回 カフェコンセプト、店舗イメージ、カラーと素材の設定 第2回 テーブルコーディネートとセッティング 第3回 テーブルコーディネートとセッティング 第4回 コーヒーの淹れ方演習1 第5回 コーヒーの淹れ方演習2 第6,7回 カフェコンセプトとコーディネートのフィールドリサーチ (校外学習を1日土曜日に開催予定) 第8回 フードメニューと構成 第9回 紅茶の淹れ方 演習1 第10回 紅茶の淹れ方 演習2 第11回 実践ドリンクとフードメニューの作成と計画レポート 第12回 開店イベント企画 プレゼンテーション準備 第13回 開店イベント企画 プレゼンテーション準備 第14回 カフェイベント (グループ発表) 開催 第15回 カフェイベント (グループ発表) 開催						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	復習をすることで最終発表の際の到達度をあげていくこと グループ課題レポートの完成 プレゼンテーションや企画イベント準備は授業外に学習 4時間						
授業方法	グループワーク ディスカッション プレゼンテーション フィールドワーク 実習						
評価基準と評価方法	授業態度や実習への取り組み40% レポート30% プレゼンテーション30%						
履修上の注意	30分以上の遅刻の場合は欠席とする 出席回数が2/3に満たないものは、原則単位認定を行わない						
教科書	プリントを配布する						
参考書	ホームパーティーのためのテーブルコーディネートとマナー 丸山洋子著 ISBN978-4-901359-76-4 C0077						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	カフェマネジメント論						
担当教員	藤田 佳子					科目ナンバー	U73510
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来カフェ経営や企画業務を目指す者にとって必要な基礎知識を学修する						
授業の概要	カフェのオープンに必要な準備やオープンまでのプロセス、開店後のマネジメント管理やイベント開催での集客についても考える。カフェとは何か。カフェの歴史、現在のカフェ事情、将来的に開業を目指す場合の手順や準備すべき内容を理解する。自分が考えるカフェをイメージし、店舗開店のシュミレーションまで行う。開店後のマネジメント管理、販売促進についての手法についても考えていく。						
到達目標	(1) カフェに関する歴史、一般基礎、開店準備までの知識を習得する【知識・理解】 (2) 知識をもとに、校外リサーチをおこない、自らの店舗の開店シュミレーションを起こす。 (3) シュミレーションしたカフェを開店後、マネジメント管理、販売促進について企画し、現実化を社会にアピールするようにプレゼンテーション能力を高める。						
授業計画	第1回 カフェの歴史 第2回 コーヒー・紅茶の歴史と基礎知識 第3回 食空間、食文化の基礎知識 第4/5回 多様化するカフェのフィールドワーク（情報収集のための校外学習を1日土曜日に開催予定） 第6回 テーブルコーディネート、コンセプトメイキング 第7回 カフェコンセプトの設定方法とカフェ事情日欧比較 第8回 店舗設計、平面計画についての基礎知識 第9回 物件事情と設計依頼、人材教育と管理について 第10回 開業手順の基礎知識、リサーチのための準備 第11回 カフェ開業のための経営基礎 1 第12回 カフェ開業のための経営基礎 2 第13回 店舗開店シュミレーションとプレゼンテーション 第14回 店舗開店シュミレーションとプレゼンテーション 第15回 店舗開店後販売促進企画						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間内で指定したレポートを提出（時間内に完成できなかった人は次の回までに完成させておくこと） 知識に関するレポート、校外リサーチのレポート、自らの店舗企画案、販売促進のためのプレゼンテーションを授業外に準備すること 4時間						
授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション フィールドワーク						
評価基準と評価方法	授業態度20% 授業内レポート50% 最終プレゼンテーションとレポート30%						
履修上の注意	授業内容を理解し、レポートを提出すること その理解の上で、リサーチを行うこと リサーチ後は知識をもとにシュミレーションを行い、プレゼンテーションを完成させていく 出席回数が開講の2/3に満たないものは原則単位認定を行わない フィールドワークではリサーチを行い、交通費、飲食代などは実費負担						
教科書	プリント配布するが、可能なかぎり参考書持参						
参考書	カフェ開業 パーフェクトマニュアル 竹谷稔彦著 商店建築者 04466-02 4910044660282 03241 テーブルコーディネート 改訂版 丸山洋子著 978-4-901359-69-6 C2077						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	官能評価演習						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U23480
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒトの五感(味覚、嗅覚、視覚、聴覚、触覚)を用いて食品を評価する手法の種類と方法を修得する。食品の鮮度やおいしさの指標となる項目を学び、食品の鑑別方法を修得する。						
授業の概要	講義と演習(一部実験)を行い、食品のおいしさや品質についての専門的な評価能力を養う。						
到達目標	1) 代表的な食品の鮮度判定ができる。【汎用的技能】 2) 食品のおいしさや品質に大きな影響をおよぼす各種反応について理解し、その原理を説明できる。【知識・理解】 3) 食品企業などで行われる市場調査や嗜好調査に用いられる基本的な官能評価を実施することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 食品の官能評価とは(講義) 第2回 官能評価の実施法(講義) 第3回 パネル選定のための味覚感度テスト 第4回 2点比較法 味噌汁の塩分濃度の識別 第5回 2点比較法 ココアの嗜好試験 第6回 3点識別試験法 チョコレートの識別 第7回 配偶法 紅茶の識別 順位法 スポーツドリンク嗜好の一致性 第8回 うまみの相乗効果 官能評価(ゲストスピーカー招へい予定) 第9回 評点法 クッキーの嗜好調査 第10回 食品の品質と鑑別方法(講義) 第11回 りんごの酵素的褐変 第12回 アミノカルボニル反応 第13回 果実のおいしさ 糖度と酸度測定 第14回 卵の鮮度判定 第15回 野菜に含まれるクロロフィルの変色、 レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	原則として授業時間内にデータ整理、考察などの学習を行う。 事前学習: 各回に行う官能評価の方法について教科書を読み、検定方法について理解しておく。(学習時間90分) 事後学習: 文献調査などを行い、データおよび検定結果をまとめ、レポートを作成する。(学習時間90分)						
授業方法	講義、演習、実験 演習では官能評価の調査員側とパネルメンバーを交代で行う。 実験は結果についてグループごとにディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(30%): 演習・実験に対する積極性、協調性などで評価する。到達目標3)に関する確認。 レポート(70%): 演習・実験データのまとめ方、図表の作成の仕方、考察の的確さなどで評価する。到達目標1) 2) 3)に関する確認。						
履修上の注意	食品を扱うので衛生面には留意すること。演習・実験の時は白衣着用のこと。 食品アレルギーのある学生は事前にその旨連絡してください。						
教科書	三訂食品の官能評価・鑑別演習 フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0506-8 その他 プリント配布						
参考書	なし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	共生社会論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U72050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「共生」「多文化」「格差」をキーワードに社会的諸問題について考える						
授業の概要	本講義は、共生社会のあり方を理解することを目的とする。共生社会とは、男女、世代、地域、民族など、さまざまな生活習慣や文化を持つ集団に属する人々が、互いの違いを認め対等な関係を築く社会である。21世紀は、グローバル化が加速し、多様な資源が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に、人々が、共に尊重し合いながら、生活するためにどのようなことが必要であるか考える。さらに、具体的な事例を通して、自らの価値観や行動を振り返ることで、共生社会を生きる生活者に必要な基礎的教養および態度を身につける。						
到達目標	(1) 「共生」「多文化」「格差」をめぐる諸問題について、自らの視点から考えを述べることができる。【汎用的技能】 (2) これらの問題に対する専門用語について理解ができる。【知識・理解】 (3) 各種学習活動について、積極的な姿勢で取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業形態と個人発表日程決め） 第2回 あいさつと多文化 第3回 祭り・労働から考える多文化 第4回 環境問題と多文化 第5回 都市化・過疎化と共生 第6回 都市化・過疎化に対する政策 第7回 動物との共生①（社会生活における動物との関わり） 第8回 動物との共生②（伴侶動物を中心に） 第9回 日本を客観視する ※ゲストスピーカーによる講演 第10回 外国人との共生 第11回 環境資源と共生 第12回 こどもを取り巻く格差①（相対的貧困率や社会的排除を中心に） 第13回 こどもの取り巻く格差②（我が国の施策を中心に） 第14回 万人との共生 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：話題提供レポートは、各自で責任をもって必ず発表すること。詳細は、第1回目の講義で案内する。<2時間> 授業後：講義資料は、毎回松蔭manabaで公開するので、適宜チェックすること。自分が理解不足だと感じる点についてはmanabaの講義資料をもとに必ず復習しておくこと。<2時間>						
授業方法	講義 ・松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 ・本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
評価基準と評価方法	・話題提供レポート：着眼点、体裁、テーマとの対応関係、内容の発展性、引用・参考文献の記入状況等<30%> →到達目標(1)に対応 ・終講課題：専門用語を用いて自らの考えを述べられているか<20%> →到達目標(1)～(3)に対応 ・授業のワークシート記入及び受講態度などの平常点：ノートに必要事項を整理できているか、他者と協働的に学ぶことができているか、取り組んだ内容を適切な方法でプレゼンできているか、など<50%> →到達目標(2)および(3)に対応						
履修上の注意	・話題提供の順番を変更する場合は、個別に日程調整を図り日程が決定し次第報告すること。 個別の調整が難しい場合は必ず事前に相談すること。 ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	起業マネジメント論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U73580
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	企(起)業家精神の広がりを歴史的・社会的背景と関連させながら、次世代リーダーに求められる資質とスキルの必要性について理解を深める。						
授業の概要	2011年は大手証券会社や電機メーカー、製薬メーカーなど、複数の著名な企業で初の女性役員が誕生した。男女雇用機会均等法を受けて大手企業に女性の総合職が初めて登場した1980年代半ば以降、女性の社会進出が奨励され、女性を活用したCSRやプロジェクトが目立つようになってきた。その過程として、1990年代後半には、ダイバーシティ推進部や経済雑誌などに登場する女性看板部長が出現してきた。しかし実態としては、厚生労働省の調べによると日本企業の助成役員の比率は諸外国に比べるとまだまだ低い。女性の管理職登用が他国に比べて遅れている日本において、どのような知識と仕組みが必要なのかを理解していく。						
到達目標	①地域で変化を起こす先導的な役割を果たす人たちの特徴をつかむことができる。(態度・志向性) ②アントレプレナーシップを実践するためのプロセスを描くことができる。(汎用的技能) ③基本的な知識を体系的に習得することができる。(知識・理解)						
授業計画	第1回 アントレプレナーシップの基礎理論 第2回 アントレプレナーシップの社会的意義 第3回 アントレプレナーシップの倫理教育(必要なスキル!) 第4回 独立アントレプレナー(起業への影響要因と起業プロセス) 第5回 個人事業と会社設立 第6回 個人事業を開業するための準備①税金の仕組み 第7回 個人事業を開業するための準備②申告書の提出と納税 第8回 個人事業を開業するための準備③ケーススタディ(視察予定) 第9回 会社設立をするための準備 第10回 成長期のアントレプレナーシップと外部資源(ディスカッション・ディベート) 第11回 成長期のアントレプレナーシップと内部資源(ディスカッション・ディベート) 第12回 長寿企業とアントレプレナーシップ(プレゼンテーション) 第13回 アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ(フィールドワーク) 第14回 グローバル・アントレプレナーシップ(フィールドワーク) 第15回 アントレプレナーシップとエコシステムとまとめ(期末試験)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【授業前】アップルやFacebook、ユニクロなど各創業者・起業者の歴史を授業で紹介するので、資料を集め、読んでまとめる(学習時間:2時間) 【授業後】新聞・雑誌必読しつつ、授業で指示された課題をレポート作成すること。松蔭manabaで提出(学習時間:2時間)						
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・ディスカッションやディベート、プレゼンテーション、フィールドワークも取り入れる。						
評価基準と評価方法	中間テスト(20%)、レポート(2回)manabaで提出(20%)、期末試験(60%)によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①GoogleやLINE、また女性の起業家の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング(プレゼンテーション、ディベート・ディスカッション等)を積極的に取り入れる。 ④フィールドワークを取り入れるため(起業視察を検討)、交通費等自己負担となる。						
教科書	毎回資料を配布しながら、随時紹介をする。						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U12120
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養について科学的に理解し、乳児期から高齢期までの各ステージにおける栄養に応用できる。						
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。本講義ではまず、「栄養とは何か」、その意義について理解する。次いで、主に各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。具体的には、①栄養の概念、②5栄養素と消化・吸収・体内動態、③食品の機能性、④ライフステージと栄養、⑤生活習慣と健康などについて解説する。						
到達目標	1) 5大栄養素の消化・吸収、代謝の過程と、体内での役割が記述できる。【知識・理解】 2) 主要なライフステージでの栄養の特徴が答えられる。【知識・理解】 3) 食品の機能性について列挙できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 健康と栄養：健康概念と栄養・食生活 第2回 食事と栄養物質(1)：炭水化物の栄養 第3回 食事と栄養物質(2)：脂質の栄養 第4回 食事と栄養物質(3)：タンパク質の栄養(たんぱく質の構造とアミノ酸) 第5回 食事と栄養物質(4)：タンパク質の栄養(たんぱく質の代謝) 第6回 食事と栄養物質(5)：ビタミン・ミネラルの栄養 第7回 食事と栄養物質(6)：エネルギー代謝 小テスト 第8回 食事と健康 第9回 健康づくりのための政策・指針 第10回 健康とダイエット 第11回 ライフステージと栄養(1)：胎児・妊娠・授乳期 新生児期・乳児期 第12回 ライフステージと栄養(2)：幼児期・学童期・思春期 第13回 ライフステージと栄養(3)：成人期・高齢期 第14回 生活習慣病と栄養 第15回 免疫と栄養 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 グループディスカッションに必要な資料を集め、発表用パワーポイントを作成する。 (学習時間：2時間) 授業後：配布プリントでの復習やグループディスカッション時の質問内容を整理し、学習内容をノートにまとめる(学習時間：2時間)。						
授業方法	講義 ライフステージ栄養学(第11回～第13回)授業時にはグループディスカッションと発表を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)： グループディスカッションでの協調性・積極性および質問に対する回答の的確性で評価する。 到達目標2)に関する確認。 小テスト(30%)、期末テスト(50%)： 到達目標1) 2) 3)に関する確認。						
履修上の注意	教科書の購入を早めにしておいてください。 積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	三訂 栄養と健康第2版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社ISBN 978-4-7679-0661-4			その他適宜プリント配布			
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションとキャンパス探検 大学での学び方 図書館オリエンテーション 文献資料収集・整理の方法 資料の読み方 引用・参考文献の書き方 レポートの構成 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） フィールドワークの計画 フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況（授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど）、受講姿勢・態度（学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など）＜40%＞ →到達目標(2)に対応 作成したレポート（学科共通資料に示されたルーブリックに基づいたもの）、プレゼンテーションに用いた資料（学科共通資料に示す事項に基づいたもの）など＜60%＞ による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ＜BYOD対象科目・PC必携のこと＞ 						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションとキャンパス探検 大学での学び方 図書館オリエンテーション 文献資料収集・整理の方法 資料の読み方 引用・参考文献の書き方 レポートの構成 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） フィールドワークの計画 フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況（授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど）、受講姿勢・態度（学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など）＜40%＞ →到達目標(2)に対応 作成したレポート（学科共通資料に示されたルーブリックに基づいたもの）、プレゼンテーションに用いた資料（学科共通資料に示す事項に基づいたもの）など＜60%＞ による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ＜BYOD対象科目・PC必携のこと＞ 						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションとキャンパス探検 大学での学び方 図書館オリエンテーション 文献資料収集・整理の方法 資料の読み方 引用・参考文献の書き方 レポートの構成 レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） フィールドワークの計画 フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況（授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど）、受講姿勢・態度（学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など）＜40%＞ →到達目標(2)に対応 作成したレポート（学科共通資料に示されたルーブリックに基づいたもの）、プレゼンテーションに用いた資料（学科共通資料に示す事項に基づいたもの）など＜60%＞ による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ＜BYOD対象科目・PC必携のこと＞						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U0106A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジュメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	(1) 図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。【汎用的技能】 (2) 学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに主体的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 大学での学び方 3. 図書館オリエンテーション 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. フィールドワークの計画 11. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 12. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 13. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 14. フィールドワークのまとめ（グループワークと発表） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業によって出される課題（例：資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備など）を次の講義まで行う。＜2時間＞ 事後学習：個々の課題に応じた補充的学習（例：資料の要点をまとめる、PCの操作復習など）を推奨する。＜2時間＞						
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。＜BYOD対象科目＞						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況（授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど）、受講姿勢・態度（学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など）＜40%＞ →到達目標(2)に対応 ・作成したレポート（学科共通資料に示されたルーブリックに基づいたもの）、プレゼンテーションに用いた資料（学科共通資料に示す事項に基づいたもの）など＜60%＞ による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準（評価ルーブリック）は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ＜BYOD対象科目・PC必携のこと＞ 						
教科書	学科共通資料を配付する。また必要に応じて授業毎にプリントを配付する。						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	(1) 各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 (2) 学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表) 2. クラス別課題探求 (ローテーション授業に向け各クラスで設定された演習を行う) 3~14: ローテーション形式による各種演習 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 稲見「家族社会学入門」 奥井「生活経営学入門」 長谷川「人間科学入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p> <p>※「研究倫理に関する指導」は演習全体を通じて実施する。 特に各種資料作成時における引用・参考文献の記入の仕方については指導を徹底する。</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	長谷川	稲見	奥井	7~10回	奥井	長谷川	稲見	11~14回	稲見	奥井	長谷川		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	長谷川	稲見	奥井																													
7~10回	奥井	長谷川	稲見																													
11~14回	稲見	奥井	長谷川																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 授業によって出される課題(例: 資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 事後学習: 個々の課題に応じた補充的学習(例: 資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2時間>																															
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目>																															
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況(授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど)、受講姿勢・態度(学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など)<40%> →到達目標(2)に対応 作成した各種成果物(プレゼンテーションに用いた資料など)<60%> による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。 																															
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 <BYOD対象科目・PC必携のこと> 																															

教科書	必要に応じて授業毎にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	(1) 各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 (2) 学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション授業に向け各クラスで設定された演習を行う)</p> <p>3~14: ローテーション形式による各種演習 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 稲見「家族社会学入門」 奥井「生活経営学入門」 長谷川「人間科学入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p> <p>※「研究倫理に関する指導」は演習全体を通じて実施する。 特に各種資料作成時における引用・参考文献の記入の仕方については指導を徹底する。</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	長谷川	稲見	奥井	7~10回	奥井	長谷川	稲見	11~14回	稲見	奥井	長谷川		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	長谷川	稲見	奥井																													
7~10回	奥井	長谷川	稲見																													
11~14回	稲見	奥井	長谷川																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 授業によって出される課題(例: 資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 事後学習: 個々の課題に応じた補充的学習(例: 資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2時間>																															
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目>																															
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況(授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど)、受講姿勢・態度(学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など)<40%> →到達目標(2)に対応 作成した各種成果物(プレゼンテーションに用いた資料など)<60%> による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 <p>※レポートの評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。</p>																															
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 <p><BYOD対象科目・PC必携のこと></p>																															

教科書	必要に応じて授業毎にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	(1) 各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 (2) 学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表)</p> <p>2. クラス別課題探求 (ローテーション授業に向け各クラスで設定された演習を行う)</p> <p>3~14: ローテーション形式による各種演習 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 稲見「家族社会学入門」 奥井「生活経営学入門」 長谷川「人間科学入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p> <p>※「研究倫理に関する指導」は演習全体を通じて実施する。 特に各種資料作成時における引用・参考文献の記入の仕方については指導を徹底する。</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	長谷川	稲見	奥井	7~10回	奥井	長谷川	稲見	11~14回	稲見	奥井	長谷川		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	長谷川	稲見	奥井																													
7~10回	奥井	長谷川	稲見																													
11~14回	稲見	奥井	長谷川																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 授業によって出される課題(例: 資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 事後学習: 個々の課題に応じた補充的学習(例: 資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2時間>																															
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目>																															
評価基準と評価方法	・授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況(授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど)、受講姿勢・態度(学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など)<40%> →到達目標(2)に対応 ・作成した各種成果物(プレゼンテーションに用いた資料など)<60%> による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 ※レポートの評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。																															
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 <BYOD対象科目・PC必携のこと>																															

教科書	必要に応じて授業毎にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U0106B																									
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	(1) 各専門領域の入門的内容についての基礎的知識を身につける。【知識・理解】 (2) 学習テーマについて、自らの考えをもち、他者にわかりやすく説明することができる。【汎用的技能】 (3) 主体的な姿勢で講義に参加することができる。【態度・志向性】																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告 I (夏休みの報告・神戸フィールドワークレポートの発表) 2. クラス別課題探求 (ローテーション授業に向け各クラスで設定された演習を行う) 3~14: ローテーション形式による各種演習 (○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す)</p> <p>各教員のテーマ 稲見「家族社会学入門」 奥井「生活経営学入門」 長谷川「人間科学入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3~6回</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7~10回</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> <td>稲見</td> </tr> <tr> <td>11~14回</td> <td>稲見</td> <td>奥井</td> <td>長谷川</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ 青谷「マーケティング入門」 川口「食生活入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3~8回</td> <td>川口</td> <td>青谷</td> </tr> <tr> <td>9~14回</td> <td>青谷</td> <td>川口</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p> <p>※「研究倫理に関する指導」は演習全体を通じて実施する。 特に各種資料作成時における引用・参考文献の記入の仕方については指導を徹底する。</p>								UL①	UL②	UL③	3~6回	長谷川	稲見	奥井	7~10回	奥井	長谷川	稲見	11~14回	稲見	奥井	長谷川		UB①	UB②	3~8回	川口	青谷	9~14回	青谷	川口
	UL①	UL②	UL③																													
3~6回	長谷川	稲見	奥井																													
7~10回	奥井	長谷川	稲見																													
11~14回	稲見	奥井	長谷川																													
	UB①	UB②																														
3~8回	川口	青谷																														
9~14回	青谷	川口																														
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 授業によって出される課題(例: 資料収集、プレゼンテーション準備など)を次の講義まで行う。<2時間> 事後学習: 個々の課題に応じた補充的学習(例: 資料の要点をまとめる、PCの操作復習など)を推奨する。<2時間>																															
授業方法	ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、各回設定のテーマについて演習を行う。<BYOD対象科目>																															
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内のリアクションペーパーやワークシート記入状況(授業内容を理解しているか、指定された要件を満たしているかなど)、受講姿勢・態度(学びに向かう主体的な姿勢、他者と協働して学ぼうとする態度など)<40%> →到達目標(2)に対応 作成した各種成果物(プレゼンテーションに用いた資料など)<60%> による総合評価 →到達目標(1)および(3)に対応 <p>※レポートの評価基準(評価ルーブリック)は、共通資料に掲載するので、各自取り組みの参考にされたい。</p>																															
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 出席及び授業への参加態度を重視する。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 <p><BYOD対象科目・PC必携のこと></p>																															

教科書	必要に応じて授業毎にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	金融商品学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U73100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	金融商品の体系的知識を習得するとともに、生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を学ぶ。						
授業の概要	金融に関する基本的な理解やそれぞれの金融商品のメリットやリスクの理解、証券税制や金融商品全体の体系的な知識を学ぶ。特に金融商品の持つさまざまなリスクや金融トラブルを回避するための基礎知識と対処法、金融商品や金融機関に関する法律などについて理解を深める。具体的には、生活者の立場から金融商品の選び方・組み合わせ方、金融商品を巡る環境の変化と自己責任、ライフプランに合った金融商品の選択、金融機関破綻と金融商品保護について学ぶ。						
到達目標	(1)「ライフプランニングの中に金融商品がどのように位置付けられ、その重要性がどのようなものであるか」ということを理解できるようになる【知識・理解】 (2)「金融商品の体系的な知識を習得し、その具体的な説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場からライフプランに合った金融商品の選び方を身近なものとして認識できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 金融・経済の基本①：GDP、経済成長率、景気動向指数、CIとDI 第3回 金融・経済の基本②：日銀短観、マネーストック、物価指数、金融市場と金利変動、金融政策、財政政策 第4回 セーフティネットと関連法規：預金保険制度、投資保護基金、消費者契約法、金融商品販売法、金融商品取引法、その他の法規 第5回 貯蓄型金融商品①：金利の基礎知識、銀行の金融商品 第6回 貯蓄型金融商品②：ゆうちょ銀行の金融商品、信託銀行の金融商品 第7回 債券：債券の基本、債券の利回り、債券のリスク 第8回 株式：株式の基本、株式取引、信用取引、株式ミニ投資と株式累積投資(るいとう)、株式指標 第9回 第2～8回のまとめと中間試験 第10回 投資信託：投資信託の基本、投資信託の分類、主な投資信託の種類、投資信託のディスクロージャー、トータルリターン通知制度、投資信託取引 第11回 外貨建て金融商品：外貨建て金融商品の基本、主な外貨建て金融商品 第12回 その他の商品：金融派生商品(デリバティブ)、金投資 第13回 ポートフォリオ理論：ポートフォリオ理論の基本、ポートフォリオ理論で用いる指標、ポートフォリオの期待収益率とリスク 第14回 金融商品と税金：預貯金と税金、債券と税金、株式と税金、投資信託と税金 第15回 第10～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第2～8回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	経営学基礎演習						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U21140
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本講義では、経営学全般について概観した上で、「人的資源管理」「組織論」「リーダーシップ論」のうち、リーダーシップ論の基礎を実践的な書籍を通じて学ことにより、経営学の入門編を学びとすることを目的とする。						
授業の概要	経営学の基礎知識を概観した上で、企業の中で「ヒト」をどのように育てるか、購入はどのように自分の能力やスキルを高めることについて考える、自身が企業に入社した場合にどのように成長して、より良い企業人生を送るのかを自らの視点で学んでほしい。						
到達目標	①リーダーシップ論の基本的な知識を修得する。(知識・理解) ②企業における人材開発の基本部分を理解できる。(知識。理論) ③自己の能力やスキルの発揮について身近な課題に結びつけて考えることができる(知識・理解)						
授業計画	第1回 経営学理論の外観導入とリーダーシップ概観 第2回 人的資源管理、組織論、リーダーシップ論の概略説明 第3回 リーダーシップ論の行動理論 第4回 リーダーシップの実践的な取り組み内容 第5回 元AKBの高橋みなみ氏の「リーダー論」1 (事例研究：傾聴) 第6回 元AKBの高橋みなみ氏の「リーダー論」2 (事例研究・コミュニケーション術) 第7回 元AKBの高橋みなみ氏の「リーダー論」3 (事例研究。スピーチ) 第8回 企業の教育・訓練 第9回 OJTと自己啓発 第10回 経営者のリーダーシップ例 第11回 中間管理職のリーダーシップ例 第12回 メンタリングとコーチング 第13回 女性のリーダーシップ論 第14回 男女雇用均等法による女性の働き方の変化 第15回 女性活躍推進など、リーダーシップの総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	企業の人的資源管理に関する新聞などの情報について感覚を磨くこと。 受講者各自のトピックスの発表も予定している(各自の学習時間：4時間の授業時間以外は学習) 終盤の授業では、小テストを実施する(事後学習：4時間の授業時間以外の学習)						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート(40%)、試験(60%)で総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2分の3の出席が確保できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席と判定。 学外実習に伴う交通費や入館料は、自己負担である。						
教科書	随時紹介する。						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	化粧心理学						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U73250
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察						
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また実際の生活場面に適した自己表現としての化粧について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の心理的意味について自分の考えを述べるができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた自己表現方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 化粧と自己表現 3. 社会と自己表現 4. 化粧と自己愛 5. 化粧と対人魅力 6. 肌とストレス 7. 肌の視覚的認知 8. 肌状態による印象の違い 9. 顔における年齢・性別の印象 10. 表情と感情・身体 11. 表情の視覚的特徴 12. 化粧と感情 13. 化粧による印象の違い 14. 医療分野や高齢者における化粧の心理的効果 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題をレポートとして作成、または、松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。顔写真や化粧品などを用いて評価し、グループでディスカッションし、レポートを作成する授業回もある。manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物および松蔭manabaへの投稿(40%)：化粧行動に関連する自分の考えを表現する力や自己表現としての化粧の方法を考える力を評価する。到達目標2および3に関する到達度の確認。 試験(60%)：化粧や化粧行動の心理学的意味に関する理解度を評価する。到達目標1および2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。						
参考書	「顔の百科事典」 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学 化粧する人間のこころと行動」 北大路書房 ISBN: 978-4-7628-2226-1						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	公衆衛生学						
担当教員	竹市 仁美					科目ナンバ-	U72410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人の健康と環境衛生・法律や制度・疾病について学び、疾病予防の必要性とその方法を学ぶ						
授業の概要	「公衆」の健康を保持増進するための理論と方法について学ぶ。地域社会における生活者としての公衆衛生部分を重視する。「健康」とは何か。公衆衛生学とわが国の公衆衛生の現状を踏まえ、衛生統計・衛生行政の基礎と現・疾病と受療状況・保健医療対策などの諸問題について取り上げながら、予防の概念の重要性を講義する。また、身の回りで起こる事象に対して、どのように活用しているかをクラスで討議する。						
到達目標	(1)健康と疾病に関わる統計資料を活用し、その傾向性を把握できる【知識・理解】【汎用的技能】 (2)健康の保持増進のための対策を理解できる【知識・理解】 (3)保健、医療、福祉の制度を理解できる。【知識・理解】 (4)疾病予防の重要性を理解し、具体的に取組もうとする【態度・志向性】						
授業計画	第1回 公衆衛生の概念と歴史 第2回 健康と予防医学の概念 第3回 保健統計(人口、衛生環境) 第4回 保健統計(疾病) 第5回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅰ(食事と運動) 第6回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅱ(飲酒、喫煙、口腔保健) 第7回 日本人の生活習慣の現状と対策Ⅲ(休養、睡眠、ストレス) 第8回 健康日本21(第2次)と健康づくり 第9回 母子保健と施策 第10回 老人保健と施策 第11回 産業保健と環境保健 第12回 感染症の現状と予防対策 第13回 疫学概念と方法 第14回 地球環境と食糧事情・食環境の整備と街づくり 第15回 授業内容のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回授業の内容箇所の教科書予習し、関連のトピックについて下調べをする(学習時間90分) 授業後学習:授業内容の復習と要点箇所の整理、課題作成(学習時間90分)						
授業方法	講義や検索課題を取り入れながら、各回設定テーマに沿った解説・講義を行う						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 20%:各課題に対する取り組み内容 中間試験20%:基礎となる知識を理解できているか教科書の内容について確認する 期末試験60%:講義の知識を理解し、健康や疾病予防について自らの考えを述べるができるか確認する						
履修上の注意	1.欠席しないよう心がける。小テストなど欠席の場合は加点しない。 2.食品環境や健康と疾病などの身の回りのテーマに意識を向け、課題に取り組むこと。 3.授業回数の3分の1以上欠席した者は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2022年版(医歯薬出版) 柳川 洋(編集)、尾島 俊之(編集) ¥2,860 ISBN: 9784263708170						
参考書	厚生労働統計協会/図説 国民衛生の動向 2021/2022						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習I						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U22010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的な実験手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5. グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、班分け 2. レポートの書き方(1)－構成－ 3. レポートの書き方(2)－図表の作成－ 4. ミュラーリヤアの錯視(1)－解説－ 5. ミュラーリヤアの錯視(2)－実験の実施－ 6. ミュラーリヤアの錯視(3)－データの整理－ 7. 鏡映描写(1)－解説と実験－ 8. 鏡映描写(2)－データの整理－ 9. 自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験－ 10. 自由再生における系列位置効果(2)－データの整理－ 11. 要求水準(1)－解説と実験－ 12. 要求水準(2)－データの整理－ 13. 認知的葛藤(1)－解説と実験－ 14. 認知的葛藤(2)－データの整理－ 15. 講評 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとおしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：レポートを作成し、松蔭manabaに提出する。(学習時間：2時間)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80%(締め切り厳守)：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験における協調性、積極性、粘り強さを評価する。 到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにする。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを期限までに松蔭manabaに提出することが必須である。						
教科書	なし。プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	行動科学基礎演習Ⅱ						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U22020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得						
授業の概要	行動科学の基本となる心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学ぶ。少人数のグループに分かれ、心理検査、イメージの測定、社会的態度尺度の作成法などの心理学の基礎的な検査や調査を、実験者および被験者のいずれの立場にもなって実施し、データを集計し、図表を作成し、統計的解析、考察を加え、レポートを作成する。このような一連の実験研究過程の経験を通して、科学的論理思考と実証方法を身につける。3年時の演習、4年時の卒業研究に向けた知識と技法を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基礎的な実験、検査・調査手法を説明できる。[知識・理解] 2. エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。[汎用的技能] 3. データに基づいて考察を記述することができる。[汎用的技能] 4. 図表を含めたレポートを作成できる。[汎用的技能] 5. グループのメンバーと協力して実施することができる。[態度・志向性] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方、班分け 2. 状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 3. YG性格検査(1)－解説－ 4. YG性格検査(2)－受検と評点－ 5. SD法によるイメージの測定(1)－解説と実験－ 6. SD法によるイメージの測定(2)－データの整理－ 7. SD法によるイメージの測定(3)－解析－ 8. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－ 9. 社会的態度尺度の構成 サーストンの態度尺度構成法(2)－整理と解釈－ 10. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(1)－解説と評定－ 11. 社会的態度尺度の構成 リッカート法による態度測定(2)－整理と解釈－ 12. 一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験－ 13. 一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理－ 14. 一対比較による好悪の尺度化(3)－解析－ 15. 講評 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：参考書の該当実験のページに目をとっておく。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：実験・調査のレポートをまとめ松蔭manabaに提出する。(学習時間：2<時間>)						
授業方法	実習形式でおこなう。 1つの実験、検査・調査をグループで実施する。グループで交互に実験者と被験者になり、取得したデータをグループでまとめる。考察は各自で考え、レポートとしてまとめたら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを松蔭manabaに提出する。						
評価基準と評価方法	レポート80% (締め切り厳守)：レポートの結果のまとめ方、図表の作成の仕方、考察の内容について評価する。 到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。 実験への取り組み20%：グループワークで実施する実験、検査・調査における協調性、積極性、粘り強さを評価する。到達目標5に関する到達度の確認。 レポートのフィードバックは松蔭manabaをとおして行う。						
履修上の注意	実験のため、毎回出席することが原則である。11回以上の出席がないと受講資格を失う。都合により欠席する場合は、次回までに自分で補っておくようにすること。15分以上の遅刻は欠席扱いにする。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	なし。プリントを配布する。						
参考書	「実験とテスト＝心理学の基礎 実習編」心理学実験指導研究会 編 培風館						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸の食と文化						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U73640
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。						
授業の概要	海と山に囲まれ自然と豊富な食材に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋食・パン・洋菓子・中国料理やインド料理、ベトナム料理など、日本独自の料理に限られることのない多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。 近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。 現在も神戸は日本を代表する「グルメ都市」として、さまざまな食のトレンドを牽引している。 その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深めるとともに、あたらしい神戸の食の魅力創造にもスポットを当てる。						
到達目標	(1)「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2)和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。(知識・理解) (3)魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 ガイダンス この授業で何を学ぶか 第2回 神戸の食、の現在進行系～最前線 第3回 神戸～兵庫県の地勢、自然と恵まれた食材 第4回 神戸の食を「和食」から見てみる＝「上方(摂津の)料理」の伝統 第5回 灘の生一本。日本酒づくり 第6回 神戸開港と洋食文化。 第7回 神戸の洋食とその系譜 第8回 「パン・スイーツの街・神戸」の歴史と展開 第9回 世界を魅了する「神戸ビーフ」 第10回 神戸の外国人コミュニティと食 第11回 神戸の中国料理 第12回 神戸の各国料理(インド・ベトナム・イスラム圏など) 第13回 神戸のお好み焼き、明石焼き・たこ焼き 第14回 神戸観光とグルメ 第15回 この授業のまとめと試論提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前、授業後にmanabaおよび神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する(90分)。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店、中国・インド料理店など、そして長田区のお好み焼き店集中エリアを意識して訪ね、食べるなど実体験する(90分)。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する(60分)。						
授業方法	講義は毎回manabaにコース・コンテンツを挙げます。 毎回、レジュメや資料を配布し講義します。 授業中のその都度の質問と応答、そして毎回の講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験として1200字程度の試論を提出40%。 各回授業のあとに書いて提出するリアクションペーパー40%。 授業中のコール&レスポンス20%。						
履修上の注意	出席が授業回数数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。						
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『神戸と居留地』神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343003159 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343010575 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280 『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』神戸新聞出版センター ISBN-10: 487521325 『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343002055 『日本外食全史』阿古真理著、亜紀書房 ISBN-9784750516837						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な事例によって学ぶ。続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツ、そして社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい都市生活を送るための知識を習得する。最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。(知識・理解) (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と2回の開港。古代から 第3回 慶応3年(旧暦)1868年開港が決定づけた神戸 第4回 開港と外国人の居住による文化 第5回 近代建築でまちをとらえる 第6回 神戸の洋食〜欧米料理 第7回 神戸のパン、スイーツ 第8回 神戸と中国人、中華街の南京町 第9回 神戸の観光 第10回 神戸の地勢、自然 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 阪神間モダニズムについて 第13回 災害と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ…から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。						
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 授業中のノートパソコン持ち込み使用を推奨します。 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論(1200字)50%。各回提出のリアクションペーパー(manabaのレポートに記入)30%、質問応答(コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。						
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN: 9784343010575 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『灘の歴史』田辺真人監修、灘区80年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006455 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210						

参考書	481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネス						
担当教員	平井 拓己					科目ナンバ-	U72540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの実態と環境変化を学ぶ						
授業の概要	ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えるときに何か起こるのか、国際ビジネスの実態とその環境変化を学ぶ。具体的には、世界的な企業や特色のある企業を取り上げ、ケーススタディなどにより、成功や失敗の要因を考察する。そのために、国際ビジネスに必要な基本的なビジネス英語と経営・金融知識の基礎を学ぶ。また、日本と関係が深い、アメリカ、アジア、ヨーロッパ地域の経済やビジネスの特徴について理解を深める。						
到達目標	基本的な知識や事例の理解をもとに、国際ビジネスが生活のあらゆる部分に関わることを説明できる。(知識・理解)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 国際ビジネスについて 2. ビジネスの基礎 3. 国際ビジネスの基礎 (1) 株式会社の仕組み 4. 国際ビジネスの基礎 (2) 上場・株式公開 5. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション (1) 世界の多国籍企業 6. ヨーロッパにおけるビジネス (1) 多国籍企業の実例 7. ヨーロッパにおけるビジネス (2) タイバーシティ 8. アジアにおけるビジネス (1) 日本のグローバルビジネス: 実例 9. アジアにおけるビジネス (2) 世界市場での競争 10. アメリカにおけるビジネス (1) ITビジネスの発展 11. アメリカにおけるビジネス (2) GAFAをめぐる課題 12. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション (2) 異文化理解 13. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション (3) 国際ビジネスに必要な語学 14. 今後の国際ビジネス 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習: 経済紙などを読み、毎回の授業時に提出する質問項目(キーワード)を考えまとめる。(学習時間: 1時間)</p> <p>授業後学習: 授業中に示す「お題」(授業内容に関連する自主研究)についてまとめて、次回授業時に提出する。(学習時間: 3時間)</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>授業内で紹介する映像や新聞記事をもとに、それらの内容についての質問項目について考え、小レポートを作成、提出する。作成にあたり、テーマによってグループワークを行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点(毎回提出物があります) 40%</p> <p>中間レポート及び期末試験 60%</p>						
履修上の注意	<p>授業は定刻に開始するため受講者には時間厳守を求めます。遅刻は減点の対象となります。</p> <p>講義中の携帯電話などの使用は厳禁とします。</p> <p>教室内では帽子を脱いで下さい。</p> <p>以上守っていただけない場合及び他の受講者に迷惑となる行為を行う受講生は、退出していただきます。</p>						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	講義中に指示します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U2241A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、自分の抱く課題を教員の指導を受けながら自ら解明しようとする科目であり、課題を専門知識をマネジメント・スキルを駆使して論理的にほぐしながら、洞察力や思考力を訓練する。①都市生活の実態においてフィールドを通じて理解し、②持続可能な発展や地域活性化方策について多面的に考察する能力、③自ら企画立案し、創造的な研究を遂行していく能力、④論理的に思考し、討論する能力、効果的にプレゼンテーションできる技能、などである。						
授業の概要	都市生活というフィールドにおいて、全体的な説明を行なった後に各自が、自らの課題を設定して、地域活性化している地元の企業の役割について理解を深める。その後、課題を取りまとめて整理した上で、プレゼンを行う。						
到達目標	①都市生活という学外のフィールドに目を向けて関心を持つ。【態度・志向性】 ②自ら地域活性化などについて課題設定を行えるようになる。【態度・志向性】 ③グループ内での発言、プレゼンを効果的に行える力を養う。【態度・志向性】 学外に目を向けて自ら学びを発信する態度・志向性を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 都市生活についての理解1 (全体論) 第3回 都市生活についての理解2 (企業と地域活動) 第4回 都市生活についての理解3 (企業と消費者) 第5回 都市生活についての理解4 (企業と投資家) 第6回 都市生活についての理解5 (企業と労働組合) 第7回 都市生活についての理解6 (企業と従業員①) 第8回 都市生活についての理解7 (企業と従業員②) 第9回 都市生活についての理解8 (神戸の特色①) 第10回 都市生活についての理解9 (神戸の特色②) 第11回 各受講者の課題発見1 第12回 各受講者の課題発見2 第13回 各自の課題をもとにしたグループワーク 第14回 課題に基づいたレポートの作成 第15回 発表、全体のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	都市生活において、日頃から関心を持ち、課題意識を研ぎ澄ませること。 共通課題に対してのレポートの提出がある。(各自の学習時間:毎週時間の授業外学習) 受講者各自のトピックスの発表も予定している(各自の学習時間:約4時間の授業外の学習)						
授業方法	基本は教室で行い。一部、企業社会や地域活性化の専門家によるレクチャーなども取り上げている。 学外実習を実施することもある。						
評価基準と評価方法	出席・発表などの日常の取り組み(40%)、レポート(60%)評価						
履修上の注意	学外実習の際、交通費などは実費となる。 自らの課題を設定する、発表を行うなど、受け身ではなく主体的な取り組みとすること。						
教科書	随時、紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	産学連携プロジェクト演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U2241B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	産学連携プロジェクト演習Aでは、地域の諸問題を発見し、持続可能な生活や地域の活性化策について理解した上で、産学連携プロジェクト演習Bでは、地域と学生が共同参画できる取り組みについて模索し、より実践的な力を養うことを目的とする。実際にフィールドワークを通してより具体的に地域の諸問題を理解し、地元の食や環境など生活に関わるすべてのことから創造を膨らませ、自ら主体となって取り組める企画を立案し、実践できる力を養う。						
授業の概要	グループ議論を通じてグループごとに課題設定を行う。それをもとにフィールドを通して地域の諸課題、地元の諸問題、地元の食や環境について課題解決に向けて企画して実践することを目指す。一昨年度は、神戸の食ビジネス企業の現場で経営者や開発担当者などからレクチャーを受ける機会を設けた。						
到達目標	①都市生活に対する自らの課題設定を深める。【態度・志向性】 ②他の参加者との議論の中で、都市生活のフィールドでの視野を広げる。【態度志向性】 ③実際のフィールド活動の中で、自らの課題解決につけた実践力を養う。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入と全体説明 第2回 企業におけるコンプライアンス課題1 第3回 企業におけるコンプライアンス課題2 第4回 就活ルールについて 第5回 働き方改革1 第6回 働き方改革2 第7回 働き方改革3 第8回 お客様は神様です、は正しいか？1 第9回 お客様は神様です、正しいか？2 第10回 お客様は神様です、正しいか？3？（レポート作成） 第11回 企業と採用 第12回 就活の勘違い、学生と企業社会のギャップ 第13回 食ビジネスの地元経営者に対する質問形式 第14回 食育と企業経営、地元経営者のレクチャー（または現場でレクチャーを受けた。） 第15回 地元経営者のレクチャーに関するレポート作成、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	都市生活に対して、日頃から関心を持ち課題意識を研ぎ澄ませること。 ・共通課題に対しての提出がある（各自の学習時間：5時間程度） ・社外での授業に対する事前調査、取材準備（各自の学習時間：4時間程度）						
授業方法	授業は講義形式。						
評価基準と評価方法	出席。発表などの日常のは取り組み（40%）、地域活性化のレポート（60%）						
履修上の注意	自らの課題を設定する、フィールド先との共同参画						
教科書	特に定めない。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	(1) 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。【知識・理解】 (2) 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 インTRODククション：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ。（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する。（先行研究の検討）</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する。（質的変数・量的変数）</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成(1)：調査票の作成方法を学ぶ。（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）</p> <p>第10回 調査票の作成(2)：質問文を考える。（ワーディング）質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成(3)：回答形式を考える。（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成(4)：プリテストと調査票の再チェックを行う。</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。（実習）</p> <p>第14回 調査データの整理(1)：回収された調査票の点検、エディティング・コーディング、有効票・無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理(2)：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。（プレゼンテーション）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。＜2時間＞ 授業後学習：調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。＜2時間＞						
授業方法	演習：個人ごとにテーマを設定し、アンケート調査の調査票の作成、実施、データ整理、データの分析等の実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自で松蔭manabaを利用してレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業中の課題については、到達目標(1)に沿ったプリントを配布し、作成させる。その都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標(2)に従って評価する。						
履修上の注意	開講授業回数数の3分の1以上の欠席は、原則単位認定は行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。 社会調査に必要な資料やデータ収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						

参考書	『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623066544
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U22030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。						
授業の概要	この演習では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。						
到達目標	(1) 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画の仕方を習得する。【知識・理解】 (2) 資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 インTRODククション：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。</p> <p>第2回 問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ。（記述的な問いと説明的な問い）</p> <p>第3回 関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する。（先行研究の検討）</p> <p>第4回 仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。</p> <p>第5回 概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する。（質的変数・量的変数）</p> <p>第6回 調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差</p> <p>第7回 サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法</p> <p>第8回 調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 調査票の作成(1)：調査票の作成方法を学ぶ。（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）</p> <p>第10回 調査票の作成(2)：質問文を考える。（ワーディング）質問文を作成するときの留意点を学ぶ。</p> <p>第11回 調査票の作成(3)：回答形式を考える。（選択肢、尺度の設定）</p> <p>第12回 調査票の作成(4)：プリテストと調査票の再チェックを行う。</p> <p>第13回 調査の実施：実査の方法について学ぶ。（実習）</p> <p>第14回 調査データの整理(1)：回収された調査票の点検、エディティング・コーディング、有効票・無効票の区別、回収率について学ぶ。</p> <p>第15回 調査データの整理(2)：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。（プレゼンテーション）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。＜2時間＞ 授業後学習：調査票作成後は、プリテスト、データの入力、コーディング、データクリーニング、発表の準備などを授業外に行う。＜2時間＞						
授業方法	演習：個人ごとにテーマを設定し、アンケート調査の調査票の作成、実施、データ整理、データの分析等の実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自で松蔭manabaを利用してレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業中の課題については、到達目標(1)に沿ったプリントを配布し、作成させる。その都度翌週の授業で返還し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、仮説の作成、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標(2)に従って評価する。						
履修上の注意	開講授業回数数の3分の1以上の欠席は、原則単位認定は行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。 社会調査に必要な資料やデータ収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						

参考書	『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623066544
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	様々な質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。						
授業の概要	様々な質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー、会話分析、インタビュー、ライフストーリー分析他、質的調査の代表的な方法論を習得する。問題設定や仮説に基づき適切な技法を選択し、言説的データや非言説的データの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	(1) 社会調査の種類・方法を理解し、調査企画・設計・分析・報告の仕方を習得する。【知識・理解】 (2) 質的および質的調査に基づく社会調査の方法を習得する。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 質的研究および質的調査の意義と特質～様々な調査方法を学ぼう～：量的調査と質的調査の特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回 質的研究および質的調査の意義と方法～様々な調査方法を学ぼう～：様々な質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回 内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し分析する方法を学ぶ。データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回 内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回 内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認しよう。</p> <p>第6回 内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回 聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～：聞き取りを通じて得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフストーリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回 聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回 聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回 聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回 観察による分析(1)～視覚的データを分析しよう～：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。</p> <p>第12回 観察による分析(2)～視覚的データを分析しよう～：観察調査を実施する。（学外研修実施予定）</p> <p>第13回 観察による分析(3)～視覚的データを分析しよう～：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回 観察による分析(4)～視覚的データを分析しよう～：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回 分析結果のプレゼンテーション：報告書としてまとめた分析結果をレジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業の前に調査テーマに関する資料を図書館で調べ授業の時に持参する。＜2時間＞ 授業後学習：新聞記事の検索やトランスクリプトの作成のほか、各手法による分析が授業内にできなかったものについては、授業外に課題として取り組む。＜2時間＞						
授業方法	演習：個人ごとにテーマを設定し、調査の企画、実施、データ整理、データの分析等の実習を行い、結果のプレゼンテーションを行う。各自で松蔭manabaを利用してレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。 授業中の課題については、到達目標(1)に沿ったプリントを配布し、作成させる。その都度翌週の授業で返却し、解説する。 レポートについては、テーマの作成、関連調査の検討、調査の企画、調査の実施、分析、考察を含めた社会調査報告書を到達目標(2)に従って評価する。						
履修上の注意	開講授業回数数の3分の1以上の欠席は、原則単位認定は行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。 社会調査のために必要な資料やデータ収集のために学外で実習をするときは、入場料、交通費の実費負担がある。						
教科書	関連する資料を随時配布する。						

参考書	『よくわかる質的社会調査 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009、ISBN9784623052738 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』、谷富夫・山本努編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623058440
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査基礎演習Ⅱ						
担当教員	松原 千恵					科目ナンバ-	U22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査の意義と特質を理解し、説明することができる。企画・設計・分析・報告の手順を実施できる。質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法について応用できる。						
授業の概要	さまざまな質的データの収集や分析方法を修得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析他、質的調査の代表的な方法論を修得する。問題設定や仮説に基づき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。						
到達目標	調査の意義と特質を理解し、説明することができる。自分自身の経験や地域社会など周囲の環境から課題を見出し、社会調査の企画・設計・分析・報告（発表・公開）までの一連の流れを実施することができる。質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法について、他の調査報告に対してもその方法の選択や意図を理解し、自分自身の研究的な関心に沿って応用できる。						
授業計画	<p>第1回質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。</p> <p>第2回質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。</p> <p>第3回内容分析(1)～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。</p> <p>第4回内容分析(2)～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。</p> <p>第5回内容分析(3)～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。</p> <p>第6回内容分析(4)～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。</p> <p>第7回聞き取り調査による分析(1)～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティブ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第8回聞き取り調査による分析(2)～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。</p> <p>第9回聞き取り調査による分析(3)～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。</p> <p>第10回聞き取り調査による分析(4)～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第11回観察による分析(1)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。</p> <p>第12回観察による分析(2)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。</p> <p>第13回観察による分析(3)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。</p> <p>第14回観察による分析(4)～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。</p> <p>第15回分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>この授業は演習として社会調査の技法を実際に体験して学んでいくため、各自が作業を通して技法を学び取ることを重視している。そのため、毎回学習内容と作業内容は異なり、かかる時間についても個人差が大きいことが予想される。どの作業についても、毎回の授業中に出される課題にしっかり取り組み、苦手を感じたり理解が難しいことについて、授業時間以外の時間を用いて言語化・記録していくことが重要である。また、初めて調査を体験する学生が多いため、授業内で出された課題について授業時間内に終わられない場合がある。終わられなかった場合は、次の授業に作業がずれ込むことになる。そこで、授業時間以外に自分の状況を把握し、これらの課題について自主的に作業を進め完了させておく必要がある。病気やケガなどの事情で作業が遅れる場合は早めに連絡し、課題提出を先延ばしにしないことが、望ましい。欠席した場合は授業時間内の作業も加わるため、4時間以上の学習時間の確保が必要になる。</p> <p>その目安時間や内容については個々の進捗状況によるが、たとえば、 ・内容分析の単元ではパソコン（エクセル）での入力作業もしくは手書きでの白表への記入の作業のほか、グループでの分析のためのディスカッションの作業がある。エクセル操作が苦手な学生の場合作業に時間がかかり結果的に授業時間外に残りの作業を完了させるケースがある。作業時間は個々の状況による。必要な場合は、2時間程度かかることもあると予想される。 ・聞き取り調査の単元では実際に指定された対象者への聞き取り調査を録音する課題があり、授業に欠席した学生などについては授業時間外に各自で対象者を探して協力依頼をし、調査を実施することがある。また、聞き取</p>						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>りの音源はその次の回に書き起こし作業を行うが、これについてもパソコンでの入力もしくは手書きでの書き起こし作業を行う。また、パワーポイントを用いた発表会への準備も、授業時間外に自主的に行う必要がある。授業時間以内にほとんどの作業を終了できない場合は、4時間以上かけて調査を実施し、書き起こしを行い、発表会の準備を行うこともあると予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察法の単元では、写真撮影などの調査を各自授業時間外に実施し、その結果についての報告ポスター作成も授業時間外に行うことがある。このときには、パソコンでワードやパワーポイントを使用することもある。この単元についても、授業時間以内に作業が終了できなければ、時間外に1～2時間程度の学習時間を確保し、調査の実施と報告作成作業を行うこともあると予想される。 ・グループワークでは授業時間外での各自の進捗状況について同じチームのメンバーと連絡をとりあい、課題を共有する必要がある。欠席時の連絡はとくに丁寧に言い、人任せにしないことが重要である。連絡を取る方法と時間については各グループ、学生に任せる。 <p>これら多岐にわたる作業は、各自得意な作業やそのスピードは異なることと、苦手かつ時間がかかる学生については適宜代案を相談し進めているので、その都度教員に相談してほしい。わかったこと、わからなかったことなど、不明な点は次回授業までにメール等で教員に内容確認する必要があるが、連絡方法や時間については複数の方法を初回に示すため、学生各自に任せる。</p>
授業方法	演習
評価基準と評価方法	「内容分析」「聞き取り調査」「観察」という各技法の実施報告書作成とプレゼンテーションの内容（各単元の報告書について30%ずつ割り当てる）に加え、グループワークやディスカッションなどを含め、授業への参加姿勢、毎回授業後に提出するミニレポート（10%）によって、総合的に評価する。
履修上の注意	<p>授業へ参加することが重要なので出席を重視する。開講授業回数の3分の2以上の出席をすること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻2回で欠席1回とする。資料やデータ収集のため、学外実習を行う。交通費や入場料の実費負担がある。課題の提出や、作業の進捗状況の確認や準備しておく作業等について連絡をとるため、授業冒頭で連絡先（メール）を提出させることがある。時間外での質問や相談は基本的にメールで受け付ける。（ただし出席数や成績についての確認は直接授業の前後で行うこと。また、授業に欠席した場合は各自、初回に説明した方法で配布資料や課題などを確認しておくこと。</p>
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	<p>谷富夫・芦田徹郎編著、2009、『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。 谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。 轟亮・杉野勇編、2010、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社。 盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。</p>

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U21060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査ができるようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から現地調査の実施方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを量的・質的調査の双方について解説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基礎的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例をもとに、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているかということを理解する。次に社会調査史を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集の方法から分析までの諸過程に関する基礎的な知識と技術を習得させる。						
到達目標	(1) 社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。【汎用的技能】 (2) 公表された社会調査結果を読み解くことができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集一定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別 (学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査) 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別 (クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ) 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別 (地域調査・全国調査・国際比較調査) 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 グループでの報告と期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：前回の授業での小テストの内容を復習し、参考書などで社会調査の基礎知識を確認する。<5時間> 授業後学習：授業で示したテーマに沿って、過去の調査を検討しその結果を授業で示した指示に従って報告分を作成し松蔭manabaに提出する。<10時間>						
授業方法	講義：グループでいろいろな調査を比較検討し、松蔭manabaを利用して報告書にまとめ、その結果をプレゼンテーションすることによって到達目標(2)を確認する。また、各回での小テストを通して、社会調査の基礎的な知識を確認し到達目標(1)を達成する。						
評価基準と評価方法	授業内小テスト(30%)：到達目標(1)を確認するために、毎回小テストを行い社会調査の専門用語や技法についての理解度を見る。 授業外レポート(30%)：到達目標(2)を確認するために、グループでの過去の社会調査を検討し報告書を作成しプレゼンテーションをする。 期末テスト(40%)：到達目標(1)を総合的に確認するために、期末テストで社会調査の理論と技法について質問し理解度を見る。						
履修上の注意	グループ内での役割があるので、授業回数数の3分の1の欠席は期末テストの受験資格を失う。 学外にでてフィールドワークをすることがあるので交通費や入館料が発生することがある。 社会調査士を将来的に目指すことを目的としているので、この科目を受講した学生は引き続き「社会調査基礎調査Ⅰ」「調査集計演習」を受講することが望ましい。						
教科書	なし(各回のプリントで対応)						
参考書	『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623066544						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生涯発達論						
担当教員	加納 真美					科目ナンバ-	U11040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子供へ受け継がれる性質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し抱える心理的諸課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、このように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。[知識・理解] 2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。[知識・理解] 3. 遺伝、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べるることができる。[知識・理解][態度・志向性] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の紹介、恋愛の科学について 2. 新生児、乳児について 3. 胎児について、出生前診断について 4. 遺伝と環境について① 相関について、双生児研究 5. 遺伝と環境について② チンパンジー研究 6. 記憶のしくみについて 7. 記憶の障害について 8. 高次脳機能障害について 9. 性と性役割について 10. LGBTQと性スペクトラムについて 11. 愛着について① 愛着形成のパターン、ストレンジシチュエーション 12. 愛着について② 児童期以降の愛着について、虐待の問題 13. 発達障害について① 種類と症状について 14. 発達障害について② 対処方法、社会の取り組みについて 15. まとめ、縦断研究について 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で指定された課題についてレポートの作成（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式で授業を実施する。						
評価基準と評価方法	小レポート(30%)：授業中に視聴した資料のまとめや実験・演習のまとめと、それに対する自分の考えについて評価する。到達目標2,3に関する到達度の確認。 試験(70%)：授業で扱った内容に関する理解度とそれを生活に応用する力について評価する。到達目標1,2,3に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席が必須である。授業中、私語、電子機器の操作を禁止する。						
教科書	なし。プリントを適宜用いる。						
参考書	「生涯発達心理学」 金子書房、ISBN：4-7608-9211-7 「アタッチメント」 ミネルヴァ書房、ISBN:4-623-04107-7						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費行動論						
担当教員	杉林 弘仁					科目ナンバ-	U12100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	消費することなしに日々の生活は考えられません。ところが皆さんは、「なぜ、それを買ったのか」自分の消費行動について、あまり考えることはないと思います。この授業では「消費者心理」から捉えられる「消費者行動」と企業の「マーケティング行動」の2つの視点から、皆さんが普段考えることのない消費者行動について勉強します。「消費者行動を捉えるフレームの理解」がこの授業のテーマです。						
授業の概要	皆さんの多くは、数年後には企業の側にたつて製品やサービスを提供していく側になります。その前に、皆さんの毎日の生活は、企業が作り出す製品やサービスによって成り立っているということ、そして、企業からみれば皆さんは「市場にいる人々」ということを理解しておきましょう。 人々の消費行動は、不思議に打ち満ちた世界です。消費者行動論は、この不思議の「消費」について考える「道具」です。この不思議の解明に乗りだそうというのがこの講義の内容です。 授業の計画としては、3部構成です。最初は、「個人としての消費者」から入ります。「何故、あなたはそれを買ったのか!」消費者行動を理解するための理論や概念をつかみます。消費者行動論はマーケティングとの関わりは外せません。その次は、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか。企業のマーケティング視点から消費者行動論を捉えます。そして、最後は「社会的存在としての消費者」について考えていく予定でいます。						
到達目標	<p><知識・理解の観点から> 皆さんが、消費者心理に基づく消費行動を理解し、企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか、企業のマーケティング行動について説明できることを目標とします。</p> <p><態度・志向性の観点から> 教室の中や本の上でなく、市場におりましょう。今から自分をマーケターとして、市場をみる習慣、市場をみる目を養い、日常からの発見への工夫ができることを目標にします。</p> <p><汎用的技能の観点から> 自ら楽しくコミュニケーションを図る態度を身につけることを目標にします。</p>						
授業計画	<p>第1週 インTRODクッションとして、市場と企業の関わりについて考えます。みんなは消費者であること。最初に社会・経済・消費の構造を理解します。</p> <p>第2週 「消費者行動とは何なのか」まず、消費者行動論の全体像をつかみます。マーケティングの基礎的な理解をかねて、マーケティングと消費者行動の関わりを理解します。</p> <p>第3週 「消費者にとって現実とは何なのか」知覚のプロセスについて理解します。</p> <p>第4週 「消費者はどのように製品やサービスを学ぶのか」学習のプロセスを学習します。</p> <p>第5週 「人は何によって動かされるのか」消費者の情報処理と記憶のメカニズムを学習します。購買へと促す動機づけについて考えます。</p> <p>第6週 「なぜ好きと嫌いが生まれるのか」消費者の「態度」の形成について学習します。</p> <p>第7週 消費者は問題を解決する。「なぜ、それを買ったのか」消費者の購買意志決定のプロセスについて学習します。</p> <p>第8週 ここから企業の立場からの学習です。「消費者をどのように切り分けるのか」市場細分化について理解します。</p> <p>第9週 「消費者をどのように説得させるのか」企業のマーケティング・コミュニケーションについて学習します。</p> <p>第10週 店頭からのマーケティングとして、「売れる店舗レイアウト」と「売れる販売」、そして「マーチャンダイジングとは何か」を学習します。</p> <p>第11週 「買い物は自己表現なのか」「消費が自己のアイデンティティを示すのか」消費とアイデンティティについて考えます。</p> <p>第12週 「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定について考えます。</p> <p>第13週 我々は「社会的動物」としての個人です。個人に影響を与える「集団」について考えます。</p> <p>第14週 「なぜブランド品を選ぶのか、製品はライフスタイルの基礎か」社会階級とライフスタイル、「ステイタス」について考えます。</p> <p>第15週 「文化とは何か」、文化と消費者行動について考えます。消費者行動論の総復習として確認テスト、その解説と消費者行動論のポイントを振り返ります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業内容をテキストで復習してください。さらに、テキストや授業で得た知見から、実際の消費行動を企業のマーケティング活動に照らして、授業後に約2時間の「考えてみる時間」をとってください。そして、考えた内容にテーマについて、テーマフィールドにでて観察することです。現場で得た知見やアイデアを、ノートを作って記録していくようにしましょう。これには2時間以上の時間をかけてデータを収集し、自分の発見を整理して下さい。従って、この講義には、週あたり4時間以上の授業外学習が必要になります。						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業はパワーポイントを使って講義形式で進めますが、状況によって予定項目が変わる場合があります。 ・ 受講者数にもよりますが、双方コミュニケーションを図るため随時発言を求めます。 						
評価基準と評価方法	授業への取組みや積極性 15% 期中レポート(テスト)25% 期末テスト 60% 皆さんの授業の進行をみて、途中でレポートもしくはテストを行います。 授業への取組みは、授業での発言やコメントなど授業への貢献度を勘案します。						

履修上の注意	積極的な参加を求めます。
教科書	松井剛・西川英彦他(2020)『1からの消費者行動論 第2版』(碩学舎/中央経済社) 2,400円
参考書	皆さんの状況を見て随意、紹介していきますが、とりあえず、 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎他(2012)『消費者行動論 マーケティングとブランド構築への応用』他著(有斐閣) 2,200円 松井剛・大竹光寿・北村真琴訳(2015)『ソロモン消費者行動論』8,800円

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活コンサルティング論						
担当教員	井上 博子					科目ナンバ-	U73260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者が「消費者市民社会」の構築に積極的に参画するために、どうあるべきか？ 行政や企業に寄せられる様々な消費者トラブル事例から考察する。						
授業の概要	現実に直面するさまざまな消費者問題に目を向け、法ルールの基本原則や現代経済社会の仕組みを理解し、 批判的思考を働かせながら、「消費者市民」としての社会人基礎力を養う。						
到達目標	1. 各生活分野における消費者トラブルの現状や問題点を把握し、説明できる。(知識・理解) 2. 身近な財、サービスを取り上げて、個人またはグループで商品研究ができる。(知識・理解) 3. 消費生活相談事例を通して、消費生活コンサルティングの方法を記述することができる。(汎用的技能) 4. 消費者市民社会の構築に向けての消費者教育の具体例を提案できる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 現代社会と消費者問題(ガイダンス) 第2回 「消費者市民」と消費者教育(消費者基本法、消費者庁) 第3回 契約の基礎知識(消費者契約法、クーリングオフ制度) 第4回 消費者トラブルと消費者行政(消費生活センターの相談事例) 第5回 情報をクリティカルに読み解く(誇大広告と景品表示法) 第6回 食生活の相談事例のコンサルティング 第7回 食生活の消費者教育教材の作成(食品の表示について) 第8回 IT社会と契約トラブル(消費者関連法規) 第9回 若者の消費者トラブルとコンサルティング 第10回 高齢者の消費者トラブルとコンサルティング(住生活・生活用品の安全性) 第11回 消費者の安全を守るしくみ ーくらしの事故情報(リコール制度、製造物責任法と被害情報)ー 第12回 持続可能な社会とは ー地球環境の現状と温暖化対策ー 第13回 エネルギー問題と原発 第14回 SDGsとエシカル消費 第15回 授業内容のまとめ・総復習と講評						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心をもつこと。 新聞を読み、消費者庁や国民生活センターをはじめとする官公庁のHPをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。 授業前学習:教科書の該当箇所を読み、事前に指定するキーワードについて下調べをする。また、担当する発表の準備(パワーポイントや配付資料の作成)をする。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、配布プリントやレポートをまとめる。 詳細は授業内で指示(学習時間2時間)						
授業方法	講義を基本とするが、理解を深めるために視聴覚教材や新聞記事の解説、最新の消費生活相談の事例研究などを予定している。また、学生による発表やディスカッションを積極的に取り入れる。 知識の確認や応用に小テストを実施する。						
評価基準と評価方法	期末テスト(レポート)30%、 授業内での小テストや各回提出のリアクションペーパー40%、発表30%(講義内容や発表に関してのコメント・事例研究やディスカッションへの積極性など)の内容・発表の的確さなどを評価する。 学生による発表の講評および、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 「消費生活論」を履修済みであること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。 3. 配付資料は、各回の出席者のみ配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)						
教科書	『実践的消費者読本 第6版』 民事法研究会 ISBN 978-4-86556-418-1						
参考書	「くらしの豆知識」国民生活センター編集・発行 消費者力検定テキスト「やさしく学べる消費生活」日本消費者協会 「環境社会(eco)検定テキスト(最新版)」東京商工会議所著・編 日本能率協会マネジメントセンター 参考になるHP:消費者庁、国民生活センター、経済産業省、環境省						

科目区分	都市生活学科専門教育科目																																																			
科目名	消費者法																																																			
担当教員	井上 博子					科目ナンバ-	U73090																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	すべての市民は消費者であり、消費者を守る法律を知ることで、トラブルを未然に防ぎ、起こったトラブルを解決する。消費者問題（消費者の権利、消費者支援の政策、契約・取引、消費者情報、事業者との関係、消費者行政、消費者運動）を法的側面から考察し、持続可能な消費者市民社会の課題と進むべき方向性を検討する。																																																			
授業の概要	法体系の中の消費者法の基本的な枠組みと、消費者の権利救済のための法システムについて解説する。多様な法分野および法律群から成り立つ消費者法の中でも、消費者基本法や消費契約法などを取り上げ、各生活分野における消費者トラブルの現状や問題点を考察する。また、消費者被害救済の最前線の状況を知るために、消費生活センターの相談事例や判例から相談現場での法律の活用方法や消費者教育への理解を深める。																																																			
到達目標	①消費者法が社会の中で生成されてきた背景をふまえて、消費者問題の現状を説明できる。（知識・理解） ②消費者法を体系的に理解できるようになる。（知識・理解） ③具体的な消費者問題について、法的解決方法を明快な文章で記述できる。（汎用的技能） ④消費者市民社会の構築に向けての消費者教育の具体例を提案できる。（汎用的技能）																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>消費者法とは</td> <td>・法令の種類・法律の読み方</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>消費者基本法</td> <td>・消費者の権利・消費者政策の理念・消費生活センター</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>消費者庁関連三法</td> <td>・消費者行政の歴史・国民生活センター・消費者庁</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>消費者教育推進法</td> <td>・消費者市民社会とは</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>民法改正と消費生活</td> <td>・民法の原則・民法改正による「18歳成人」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>消費者と契約</td> <td>・契約の成立</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>クーリング・オフ制度</td> <td>・クーリング・オフの利用手順</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>消費者契約法</td> <td>・不当条項規制</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>特定商取引法</td> <td>・訪問販売・通信販売・電話勧誘販売・訪問購入</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>若者と悪質商法</td> <td>・連鎖販売取引・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>紛争解決制度</td> <td>・ADR・民事訴訟・消費生活センター</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>キャッシュレス決済</td> <td>・電子マネー、クレジットカード、キャリア決済、デビットカードについて</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>割賦販売法</td> <td>・クレジットの現状と問題点</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>製造物責任法と被害情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>授業内容のまとめ・総復習と講評</td> <td></td> </tr> </table> <p>※最新の情報や法改正を取り入れるため、テーマの順番や内容が若干変わることがあります。</p>							第1回	消費者法とは	・法令の種類・法律の読み方	第2回	消費者基本法	・消費者の権利・消費者政策の理念・消費生活センター	第3回	消費者庁関連三法	・消費者行政の歴史・国民生活センター・消費者庁	第4回	消費者教育推進法	・消費者市民社会とは	第5回	民法改正と消費生活	・民法の原則・民法改正による「18歳成人」	第6回	消費者と契約	・契約の成立	第7回	クーリング・オフ制度	・クーリング・オフの利用手順	第8回	消費者契約法	・不当条項規制	第9回	特定商取引法	・訪問販売・通信販売・電話勧誘販売・訪問購入	第10回	若者と悪質商法	・連鎖販売取引・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引	第11回	紛争解決制度	・ADR・民事訴訟・消費生活センター	第12回	キャッシュレス決済	・電子マネー、クレジットカード、キャリア決済、デビットカードについて	第13回	割賦販売法	・クレジットの現状と問題点	第14回	製造物責任法と被害情報		第15回	授業内容のまとめ・総復習と講評	
第1回	消費者法とは	・法令の種類・法律の読み方																																																		
第2回	消費者基本法	・消費者の権利・消費者政策の理念・消費生活センター																																																		
第3回	消費者庁関連三法	・消費者行政の歴史・国民生活センター・消費者庁																																																		
第4回	消費者教育推進法	・消費者市民社会とは																																																		
第5回	民法改正と消費生活	・民法の原則・民法改正による「18歳成人」																																																		
第6回	消費者と契約	・契約の成立																																																		
第7回	クーリング・オフ制度	・クーリング・オフの利用手順																																																		
第8回	消費者契約法	・不当条項規制																																																		
第9回	特定商取引法	・訪問販売・通信販売・電話勧誘販売・訪問購入																																																		
第10回	若者と悪質商法	・連鎖販売取引・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引																																																		
第11回	紛争解決制度	・ADR・民事訴訟・消費生活センター																																																		
第12回	キャッシュレス決済	・電子マネー、クレジットカード、キャリア決済、デビットカードについて																																																		
第13回	割賦販売法	・クレジットの現状と問題点																																																		
第14回	製造物責任法と被害情報																																																			
第15回	授業内容のまとめ・総復習と講評																																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心をもつこと。新聞を読み、消費者庁や国民生活センターをはじめとする官公庁のHPをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。 授業前学習：教科書の該当箇所を読み、事前に指定するキーワードについて下調べをする。また、担当する発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成）をする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、配布プリントやレポートをまとめる。詳細は授業内で指示（学習時間2時間）																																																			
授業方法	講義を基本とするが、理解を深めるために視聴覚教材の活用や新聞記事の解説、最新の消費生活相談事例研究などを予定している。また、学生による発表やディスカッションを取り入れる。知識の確認や応用に小テストを実施する。																																																			
評価基準と評価方法	授業内での発表30%、小テスト20%、各回提出のリアクションペーパー20%（講義内容についてのコメント・質問・事例提案など）の内容・記述の的確さなどを評価する。（到達目標①②に関する到達度の確認） 期末テスト（レポート）30%（到達目標②③④に関する到達度の確認） 学生の発表、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週授業で紹介・解説する。																																																			
履修上の注意	1. 「消費生活論」を履修済みであること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。																																																			
教科書	「実践的消費者読本 第6版」 民事法研究会 ISBN 978-4-86556-418-1																																																			
参考書	「くらしの豆知識」国民生活センター編集・発行 「徹底解説 消費生活アドバイザー試験（最新版）」産業能率大学出版部発行 「消費生活アドバイザー受験対策（最新版）」丸善出版 参考になるHP：消費者庁、国民生活センター、経済産業省																																																			

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	消費生活論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U12110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	消費生活の現状を消費者と生産者双方の立場から捉え、消費者が権利の主体として意識を持ち、自ら情報を選択し行動することによって持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立をする。						
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、他人が生産した「モノ」に依存している。また、近年極めて豊かで便利な「サービス」も受けられるようになった。その反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。この講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者、行政、企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための礎としたい。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。【知識・理解】 ②消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を理解することができる。【知識・理解】 ③消費者の権利と責任を實踐していく仕組みを理解することができる。【知識・理解】 ④持続可能な社会の形成を考えることができる。【態度・志向性】 ⑤生活に関する基本的知識を総合して地域生活の質の向上という広い視野に立ち、生活のあり方を提案することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 経済の発展と消費生活（家庭生活） 第2回 消費生活の視点 ―社会の変化と消費生活― 第3回 生活における経済の計画と管理 第4回 財・サービスの選択と意思決定 ―広告と企業活動― 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者 第6回 消費者問題 第7回 消費者の権利と関係法規 第8回 契約と消費生活 第9回 決済手段の多様化と消費者信用 第10回 商品情報と消費者相談 第11回 消費者の自立支援と行政 第12回 消費者教育 第13回 消費生活と環境 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動 第15回 環境問題と消費者の関係（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、図書館等で関連する参考書によって下調べをすること<2時間> 授業後学習：授業内で指示したテーマや課題について各自のノートにまとめておく。自分の発表回について、教員や他の学生からもらったコメントを基に修正を行う<2時間>						
授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（ICTを利用）、一部反転授業を取り入れている。各回共通の形式ではなく、その内容に応じた形式を実施している。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物・各種課題：リアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問・事例提案）の内容記述の的確性を評価する（40%） →目標①～④に対応 プレゼンテーション：各担当箇所のプレゼンテーションの内容、発表態度について評価する（20%）、 →目標⑤に対応 終講課題：知識理解できているか（40%）などによる総合評価 →目標①～⑤に対応						
履修上の注意	教職に関わる科目であるため、主体的に参加する態度だけでなく、人に説明する力をつける練習も行います。消費生活について知識を習得するだけでなく、多様化する消費者に対する理解を深め、更にその内容を第三者（生徒）に分かりやすく伝えられるよう授業を通して学習・習得してください。						
教科書	授業内で紹介する						
参考書	新しい消費者教育―これからの消費生活を考える（2016）神山久美・中村年春（編著）日本消費者教育学会関東支部（監修）慶應義塾大学出版会						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U72220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食行動の心理学						
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動である。この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の心理的な特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論する。母乳の心理的意味、食の嗜好や嫌悪の発達、集団における食行動の変容、食環境の心身に対する影響、食にまつわる行動異常などについて論じる。生涯にわたる自分自身や家族の健康を食の観点から考え、実践できる方法を身につける。						
到達目標	1. 各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を列挙し、説明することができる。[知識・理解] 2. 個人や社会における食問題についてまとめ、自分の考えを述べるすることができる。[知識・理解][態度・志向性]						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 <対面> 2. 離乳期までの食行動(1) -母乳とミルク- <対面> 3. 離乳期までの食行動(2) -母乳の育てる仕組み- <遠隔> 4. 離乳期までの食行動(3) -母乳の心理的側面- <遠隔> 5. 幼児期の食行動(1) -味覚の発達- <遠隔> 6. 幼児期の食行動(2) -食物嗜好と拒否の発達- <遠隔> 7. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(1) -テーマ設定- <遠隔> 8. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(2) -アイデア出し- <遠隔> 9. 食問題をテーマにしたKJ法の活用(3) -発表- <遠隔> 10. 児童期の食行動(1) -特徴と問題点- <遠隔> 11. 児童期の食行動(2) -食卓の絵からの考察- <遠隔> 12. 青年期の食行動(1) -摂食障害- <遠隔> 13. 青年期の食行動(2) -味とニオイの相互作用- <遠隔> 14. 青年期の食行動(3) -食行動と環境要因- <遠隔> 15. まとめ <対面> <p>* 授業回により、<遠隔>が<対面>に変更になる場合があります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する(学習時間：2<時間>)						
授業方法	講義形式で授業を実施する。 授業に関係するテーマについてグループでディスカッションし、まとめ、発表を実施する授業回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <遠隔指定授業>						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：グループディスカッションのレポートや提出物を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。 試験(60%)：授業でとりあげた、各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点を確認し、自分の考えを述べるかについて評価する。到達目標1,2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。						
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。						
参考書	「人間行動学講座2 たべる-食行動の心理学-」 中島義明、今田純雄編 朝倉書店 1996 4800円 「母乳」 山本高治郎著 岩波新書 1983 490円 「未熟児」 山内逸郎著 岩波新書 1992 580円 「子どもと家族とまわりの世界(上) 赤ちゃんはなぜなくの」 D・W・ウィニコット著 星和書店1985 1400円 「知っていますか 子どもたちの食卓 -食生活からからだの心が見える-」 足立己幸 NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト 日本放送出版協会 2000 1500円						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食生活論						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U11020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と安全」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	1) 5大栄養素についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 2) 食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 3) 食生活と健康についての基本的な問題に答えられる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 人の一生と食事 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 第6回 食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬） 第9回 ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境 第14回 食育の意義 第15回 家庭や地域における食育の推進、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする。 （学習時間：2時間） 授業後：配布プリント使い学習内容をノートにまとめる。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義 ただし、「食生活と食文化」の授業時にはグループに分かれて調査学習とプレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	授業における発表（10%）：プレゼンテーション時における積極性・協調性・発表技術で評価する。 到達目標2)の到達度の確認。 課題（40%）：授業内外での課題提出物の内容で評価する。到達目標1)に関する到達度の確認。 期末テスト（50%）：学習内容全般に対する理解度で評価する。到達目標1) 2) 3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 ISBN 978-4-7598-1828-4 適宜プリントを配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食と観光のマーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U73590
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の観光素材を「観光商品・サービス」に取り込み、市場に対して積極的・戦略的にマーケティング活動を行っていくことのノウハウや方向性を示し、食と観光における地域活性化の構造と機能について学ぶ。						
授業の概要	「観光」は、街づくりを中心として、自然・生活文化・歴史風土や保全・環境活動まで含む定義がなされている。したがって、観光学や観光マーケティングを学ぶ上でも「モノづくり、コトづくり、場おこし」、さらに「人づくり」までを考慮することがますます重要になっている。特に、地域固有の価値づくりを発信していくためには地域食を理解し、新しいものへと革新することが求められる。郷土料理や伝統料理を含めた食を中心として地域に集客を図るターゲットを想定し、顧客満足度をあげ、維持して活動することが基本である。そこで、農林水産業者、商工業者、観光事業者などの参画を通じた地域活性化は、その地域の取り組みの成果として、その地域を訪れる観光者が増加することによってはじめて実現されるものであり、地域の様々な取り組みをいかに観光者の行動につなげるかが重要である。						
到達目標	①成長産業の一つである観光産業の振興、雇用の創出、所得の増加について知識が得られる。(知識・理解) ②生活システムにおける食と観光のマーケティングの役割を描くことができる。(汎用的技能) ③日本のみならずインバウンドの取り組みも理解することができる。(態度・志向性) ④観光の難しさ・面白さを理解することができる。(知識・理解)						
授業計画	第1回 観光事業のマネジメント特性ー東京ディズニーリゾートの凄さを知る 第2回 観光事業のイノベーションー楽天トラベルによるオンライン旅行販売 第3回 観光事業のグローバル経営ーH.I.Sの海外進出における国際経営行動 第4回 観光のマーケティング・マネジメント 第5回 観光とWEBビジネス 第6回 観光関連産業の基幹事業；旅行業 第7回 宿泊業ー星野リゾートの収益性と生産性を高めるマネジメント 第8回 航空輸送業ーANAのレベニュー・マネジメントと経営戦略 第9回 鉄道事業 第10回 テーマパーク 第11回 グローバル時代の地域観光インフラ (1) 空港の経営 第12回 グローバル時代の地域観光インフラ (2) IR (統合型リゾート) 第13回 地域の観光まちづくり事業 (食と観光) 第14回 地域ブランドの構築 第15回 地域のインバウンド事業とまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	【授業前】旅行雑誌や旅行パンフレット、旅行広告などを資料を収集し、課題をまとめる (学習時間：2時間) 【授業後】新聞・雑誌必読。授業中に指示された課題をレポート作成する。松蔭manabaで提出 (学習時間：2時間)						
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	・中間テスト (15%) ・授業内発表 (プレゼンテーション) とレポート課題 (15%) ・期末試験 (70%) によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①観光産業の取り組みなど、知識を増やすために新聞やニュースを常に見ておくこと。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③旅行会社のパンフレットなどに触れておくこと ④アクティブラーニング (グループワーク、ディスカッション等) を積極的に取り入れる。 ⑤フィールドワークに伴う交通費や入館料などは、実費とする。						
教科書	高橋一夫・柏木千春編著『1からの観光事業論』、中央経済グループパブリッシング、2017年、ISBN978-4-502-17281-6						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食と農の地域インターンシップ						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U22420
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食卓に上る食べ物が現場でどのように作られているのかを知り、農場から食卓までのプロセスを理解することを目指す。						
授業の概要	自分たちの手で、安心な食と環境づくりについて学びながら、食や環境についての課題を探ります。さらに、技術や専門知識を深めるとともに、将来の夢やキャリア形成を考える機会を提供します。異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力など基礎的な実践力を養い、食・農業に関する理解の深化と実践的な立案・調整能力を身につけます。						
到達目標	①農場から食卓までにプロセスを理解する。(知識・理解) ②安心な食の環境づくりについておけるプロセスを描くことができる。(汎用的技能) ③将来のキャリア形成を考える。(態度・志向性) ④異文化交流をはかりながらコミュニケーション能力を養う。(態度・志向性)						
授業計画	【集中講義】 <本学 事前指導4回：青谷> 第1回 新しい時代の食・農・環境の農学へ 第2回 農業をめぐるグローバルな関係 第3回 日本の食と農の今 第4回 諸外国の農業の実態：「アフリカの農業の今」 <学外でのインターンシップ（課題解決のカギを学ぶ：視察重視）> （第5～7回は、青谷と共に学外実習を行う。第8～12回は、履修生のみで実習を行う。） 第5回 食料・農業と環境の関わり（ファーマーズマーケットの視察） 第6回 歴史の中の日本の農業（ファーマーズマーケット・道の駅などの視察） 第7回 過去より問う環境とのかかわり（中央卸売市場の体験） 第8回 生産の場の環境：（中央卸売市場の体験） 第9回 花卉の現状について：（中央卸売市場の体験） 第10回 農業を通じた異文化交流と食の現状（実習） 第11回 持続可能な社会に求められる人材を目指して（実習） 第12回 農業の展開と環境・資源問題（実習） <本学 学内実習および事後指導3回：青谷> 第13回 プレゼンテーションの作成と学祭での野菜販売（11月を予定） 第14回 プレゼンテーション：実習報告会 第15回 持続可能な社会に求められる人材を目指して						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①農業や食に関する新聞や雑誌の話題をつかんでまとめておくこと。（事前学習：2時間） ②兵庫県の特産品を確認、整理。環境に配慮した取り組みについてレポート作成（事後学習：2時間）						
授業方法	講義と実地研修（インターンシップ）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点（インターンシップの参加も含む）50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）により評価する。到達目標に関する到達度の確認。 プレゼンテーション 30% レポート課題 20%						
履修上の注意	①授業回数の3分の1以上欠席した人は評価基準を失うものとする。 ②学外実習の費用（交通費や入館料、参加費など）は、自己負担とする。						
教科書	資料を配布して学修を進めます。必要に応じて、レジュメを配布します。						
参考書	随時紹介していきます。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食農教育論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72620
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしい食の追求						
授業の概要	この授業では社会や生活の変遷を踏まえ、①“食育から食教育、そして食農教育へ”成長期の子どもから成年・中高年層に対しての生涯食農教育を実践例を学び、②栄養主体から食べ物と食べ方のかかわり=人間らしい食の追求を行う。そして③モノが生産される生産現場から素材を学び、流通・消費までの理解を深める。さらに、④食の商品化・情報化の中で、日本の各地域の食材・調理・味覚・食べ方と、人間関係・コミュニティづくりの関係性について学ぶ。						
到達目標	(1) 農と食のつながりを理解し、現代の日本の食の問題を意識することができる。【知識・理解】 (2) 日本の食材・調理・味覚・食べ方を理解し、伝えることができる。【汎用的技能】 (3) 日本の食文化の変遷や食の現状を踏まえ、心豊かな人間関係・コミュニティづくりの方策を考案できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、人間らしい食とは、食と農 第2回 日本の食と農の昔と今 第3回 食育・食教育の背景 第4回 食農教育とは 第5回 行政の取り組み 第6回 学校の取り組み 第7回 地域社会の取り組み 第8回 直売所の取り組み 第9回 企業の取り組み 第10回 家庭の取り組み 第11回 食農教育指導者に聴く(ゲスト・スピーカー招へい予定) 第12回 これからの食農教育の課題 第13回 食農教育とコミュニティづくり 第14回 人間らしい食とは 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマについての情報収集、関連文献で予習をする。<学習時間：2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容を整理し、自らの現状とあわせて考察する。授業後の提出課題を松蔭manabaで提出する。<学習時間：2時間>						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークも行う。予め松蔭manabaに提示した資料で予習をし、授業ではパワーポイントや映像を用いて解説・講義を行う。各自が現状を把握し、自らの食生活を客観的にふり返し、今後の食農教育やコミュニティづくりに向けた提案ができるように、様々な具体例を紹介する。毎回の授業の後半にはグループでディスカッションを行い、互いの意見を聞く。毎回のテーマに関連した課題を課し、授業後に松蔭anabaで提出する。また、食農教育指導経験のある有機農業者の話聞き、質疑応答の機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末試験 30%：授業内容全般についての理解度、興味・関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート 20%：興味・関心の明確性・具体性。問題点の提示、問題解決に向けての具体的な提案を評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。 受講態度 50%：(毎回の課題については、ここに含める) 理解度、興味・関心の明確性・具体性およびグループワークでの積極性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：質問等については、授業で紹介・解説、または松蔭manabaで対応する。						
履修上の注意	・授業回数の3分1以上欠席した人は、期末試験の受験資格を失うものとする。 ・20分以上遅刻の場合は欠席とする。 ・提出物は提出期限厳守のこと。						
教科書	なし 松蔭manabaに資料を添付、または、資料を配布する。						
参考書	『食と農の社会学』榊瀧俊子・谷口吉光・立川雅司編著、ミネルヴァ書房、ISBN 978-4-623-07017-6 『教育農場の四季』澤登早苗著、コモンズ、ISBN 4-86187-004-6 『食生活のソーシャルインノベーション』田中浩子著、晃洋書房、ISBN 978-4-7710-3424-2						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	中村 衣里					科目ナンバ-	U73450
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性確保の方法および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。食の安全に関する諸問題に適切に対応することができる良識と知識を習得する。						
授業の概要	近年頻発した食品偽装など食品を取り扱う一部業者のモラルの欠如は、消費者と企業・生産者との信頼関係を裏切り、「食の安心・安全」を失墜させる結果となった。本講義では、食中毒や食品添加物を中心に食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	食の安全を科学的根拠に基づいて評価できる【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 食品衛生学総論 食品衛生行政、食品衛生法、食品安全基本法 2 食品と微生物 微生物の種類、増殖・環境条件 3 食品の品質と防止 食品の変質、化学的変質、食品の保存法 4 食中毒（1） 食中毒の分類、発生状況 5 食中毒（2） 細菌性食中毒 6 食中毒（3） ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒 7 経口感染症 2類感染症、3類感染症、人畜共通感染症 8 衛生指標菌と異物 大腸菌群、腸球菌、異物 9 寄生虫 寄生虫症 10 有害汚染物質 カビ毒、農薬、PCB、ダイオキシン、有害元素 11 食品添加物（1） 食品添加物の指定、安全性評価 12 食品添加物（2） 主な食品添加物の有用性と安全性 13 器具と容器包装 材質の特性と衛生 14 食品衛生対策 営業者による衛生管理、HACCP 15 新しい食品の安全性問題 遺伝子組み換え食品、安全性、表示 定期試験 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う教科書の当該箇所を予習する（2時間） ・授業内で指示したテーマについて復習する（2時間） ・「食の安全・安心」について、行政、企業、飲食店、消費者がどのように取り組んでいるのかについて、厚生労働省、消費者庁、食品安全委員会などのホームページを参照して情報を収集しておくこと。 						
授業方法	講義形式の授業である。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験期間中に試験を実施（80%） ・平常点等（20%）平常点等配点内訳：課題レポート（4回）を実施する。 						
履修上の注意	11回以上の出席がない場合、受験資格を失う。 30分以上の遅刻は、欠席扱いにする。						

教科書	Nブックス 新訂 食品衛生学、新訂版第2刷発行、伊藤 武・古賀信幸・金井美恵子、建帛社、ISBN 978-4-7679-0646-1
参考書	

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U72420
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の保存の原理や保存方法、加工の工程、食品添加物などについて学ぶ。						
授業の概要	消費者の嗜好の多様化、健康・安全志向、生活の合理化などから、加工食品の占める割合や価値は高まり、さらに質と量の充実が図られていくと予想される。食品の加工・貯蔵に関する理論や、食品の加工技術、及び加工食品を選択する際に欠かせない食品表示の見方などについて、①植物性食品、②動物性食品、③その他の食品について解説する。						
到達目標	1) 加工食品の利点や欠点を理解して、実生活に応用できる力を身に付ける。【知識・理解】						
授業計画	第1回： 加工の目的、原理、概要 第2回： 農産食品の加工（穀類・イモ類の加工） 第3回： 農産食品の加工（豆類・野菜・果実類の加工） 第4回： 畜産食品の加工（肉類の加工） 第5回： 畜産食品の加工（牛乳・卵の加工） 第6回： 水産食品の加工 第7回： 食用油脂および調味食品 第8回： 嗜好食品およびインスタント食品 小テスト 第9回： 食品の加工法 第10回： 食品の保存法 第11回： 食品の包装 第12回： 加工食品の規格と表示制度 第13回： 加工食品と食品衛生 第14回： 食品業界の現状 第15回： まとめ、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく グループワークのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義 ただし、第12回「加工食品の規格と表示制度」第13回「加工食品と食品衛生」に関してはグループワークの結果発表をふまえて、解説・講義を行う形式とする。						
評価基準と評価方法	授業における発表（10%）：発表時における積極性、グループでの協調性、発表技術で評価する。 到達目標1)に関する到達度の確認。 小テスト（40%）、期末テスト（50%）：学習内容全般に対する理解度で評価する。 到達目標1)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	新食品・栄養科学シリーズ 食品加工学（第2版）食べ物と健康3 化学同人 ISBN 978-4-7598-1117-9						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品加工学実験						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U22430
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各種加工食品を製造することにより、食品加工の原理を深く理解する。 食品の製造に必要な科学的知識を実験を通じて理解し、食品の加工に応用する。						
授業の概要	加工食品は私たちの食生活に不可欠なものである。本実験は加工食品の製造工程を具体的に把握するとともに、その加工原理や貯蔵方法などを科学的に理解することを目的としている。						
到達目標	1) 加工食品を実際に製造することにより、その加工原理および製造方法を述べることができる。 【知識・理解】 2) 加工に必要な機器類の原理を理解したうえで適切に使用して食品加工を行う。【汎用的技能】 3) 実験により得られた結果について論理的な考察を加えることができる。【知識・理解】 4) 科学レポートの作成ルールに基づいた書式・図表を用いてレポートを作成することができる。 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 諸説明 第2回 豆類の加工 みそ仕込み 第3回 乳類の加工 ヨーグルト 《実験1》ヨーグルトのpH測定 種実類の加工 ビーナツクリーム 第4回 いも類の加工 こんにゃく 第5回 菓子類の加工 キャラメル・バタースカッチ 《実験2》砂糖の加熱温度の違いによる変化 第6回 豆類の加工 豆腐 第7回 穀類の加工 うどん 《実験3》グルテンの分離 第8回 乳類の加工 アイスクリーム まとめ1 レポート提出 第9回 乳類の加工 フレッシュチーズ 第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ 《実験4》加熱濃縮による可溶性固形成分の変化測定 野菜類の加工 ビクルス 第11回 肉類の加工 ソーセージ 第12回 菓子類の加工 シュトーレン 《実験5》製パン発酵条件の比較 乳類の加工 バター 第13回 果実類の加工・びん詰めの製造 りんごジャムびん詰め 《実験6》ベーキングパウダーによる膨化試験 第14回 乳類の加工 乳酸飲料 みそ官能評価 第15回 まとめ2 レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実習・課題レポートの準備（学習時間1時間） 授業後：実習・課題レポートの作成・完成（学習時間1時間）						
授業方法	実習および実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み（30%）：実習・実験に対する積極性や協調性、衛生対策の順守などで評価する。 到達目標1）2）に関する確認。 レポート（70%）：実習・実験内容の理解度、データのまとめ方と図表の作成の仕方などで評価する。 到達目標1）3）4）に関する確認。						
履修上の注意	食品アレルギーのある学生は事前に連絡してください。対応します。						
教科書	オリジナルのテキストを配布						

参考書	特になし
-----	------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品学						
担当教員	升井 洋至					科目ナンバ-	U73440
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品について、その科学的性質を総合的に理解する。						
授業の概要	食品は我々の日常生活を健康に維持する上で、栄養に富み、積極的に摂取する食物の素材材料でなくてはならない。そのためには、栄養のみでなく、嗜好的に「おいしく」食べる因子の持つ役割も重要である。味、匂い、色彩などとともにテクスチャーも、これらの重要な要因である。これら因子を視覚、嗅覚、視覚、触覚さらに聴覚など人は五感の総合判断により、「食べる」のである。本講義では、食品の成分と特性について解説する。さらに、食品の味、色、香り、テクスチャー等とおしさとの関連性について解説する。						
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、そして日常の食生活でこれらの食品の科学的特性について、説明できる。(知識・理解) 本講義より、食品から調理加工品をつくり、利用することを理解して、食に関連する課題の解決について提案できる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 授業の概要と説明、食品と食物の違い、食品の成分と働きについて 第2回 食品の分類と食品成分表 第3回 栄養成分(1)水分(2)炭水化物 第4回 栄養成分(3)脂質 第5回 栄養成分(4)たんぱく質 小テスト① 第6回 栄養成分(5)ビタミン(6)ミネラル 第7回 食品の嗜好成分(1)色素成分 第8回 食品の嗜好成分(2)香気成分(3)呈味成分 第9回 食品の機能性成分 小テスト② 第10回 食品の物性、官能検査 第11回 植物性食品 穀類 第12回 植物性食品 豆類、イモ類、野菜類、種実類 第13回 動物性食品 肉類、魚介類 第14回 動物性食品 卵類、乳類 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：講義テーマについて、教科書による予習(学習時間2時間) 授業後学習：講義内容について、要点整理、確認テストによる理解度の確認(学習時間2時間)						
授業方法	講義 講義ごとにmanabaによる確認試験(課題)を実施する。						
評価基準と評価方法	確認試験15%、小テスト20%、試験65%						
履修上の注意	日常生活で食品について、興味、関心をもって、講義の予習、復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の2に満たない場合、原則単位認定は行わない。 遅刻、早退30分以上は欠席とする。						
教科書	イラスト食品学総論(第9版) 東京教学社 ISBN 978-4-8082-6082-8						
参考書	新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論(第3版)食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 八訂 食品成分表 2022、香川明夫/監修、女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1022-6 新版 日本食品大事典 電子版付、杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美 編、ISBN978-4-263-70716-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品機能学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U73470
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生物にとって食品とは本来「成長および生命の維持」という機能を有するものである。しかし、現在の私たちは基本的な機能のみならず様々な機能を求めて食品を摂取している。本授業では、日常的に摂取する食品の機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について説明し、特に三次機能については主な機能とその作用メカニズムについて、実際の食品を例に挙げながら解説する。						
授業の概要	食品のもつ3つの機能（一次機能：栄養性、二次機能：嗜好性、三次機能：生体調節機能）について解説する。特に、三次機能については保健機能食品として認可されている食品素材を中心に、主な機能性とその作用メカニズムについても概説する。						
到達目標	1) 食品の機能性について理解し、解説することができる。【知識・理解】 2) 特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品についての最新の知識を理解し、これらに関わる法律について説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 食品の持つ機能とは 第2回 食品の生体調節機能 活性酸素と生体 第3回 食品の生体調節機能 抗酸化機能 ①活性酸素と疾病 第4回 食品の生体調節機能 抗酸化機能 ②抗酸化機能を持つ食品 第5回 食品の生体調節機能 糖質吸収阻害・腸内環境改善機能 ①難消化性成分の特徴 第6回 食品の生体調節機能 糖質吸収阻害・腸内環境改善機能 ②腸内細菌がヒトに及ぼす影響 第7回 食品の生体調節機能 ミネラル吸収促進・代謝改善機能 第8回 食品の生体調節機能 脂質関連代謝機能 ①多価不飽和脂肪酸の分類・特徴 第9回 食品の生体調節機能 脂質関連代謝機能 ②機能性脂質 第10回 小テスト 第11回 食品の生体調節機能 酵素阻害機能 第12回 食品の生体調節機能 免疫・神経系におよぼす機能 第13回 特定保健用食品 第14回 栄養機能食品、機能性表示食品 第15回 まとめ 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：プレゼンテーションのための資料作成を行う（学習時間：2時間）。 授業後：配布プリント等を使い学習内容をノートにまとめる（学習時間：2時間）。						
授業方法	松蔭manaba、zoomを使用した講義。 ただし、一部の講義はプレゼンテーションの内容をふまえて、解説・講義を行う形式とする。 ＜遠隔指定授業＞						
評価基準と評価方法	小テスト・期末テスト（計60%）：到達目標1）2）の達成度確認。 レポート（30%）：到達目標1）の達成度確認。 受講態度（10%）：プレゼンテーションでの積極性、協調性などで評価する。						
履修上の注意	積極的に学ぶ姿勢が必要です。						
教科書	なし 授業時に資料を配布						
参考書	改定 食品機能学[第2版] 建帛社						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食品の流通論						
担当教員	眞鍋 邦大					科目ナンバ-	U72530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の生産・流通・消費までの流れを具体的かつ総合的に把握することを目的とする。(フードスペシャリスト試験科目)						
授業の概要	食は人々が生きる上で不可欠な存在です。しかしながら現代社会においては、生産の現場から消費者の食卓までの距離が大きく離れると共に、両者をつなぐ流通の仕組みが多様化することで、全体像を把握することが非常に困難になっています。本講義では、食生活の変化とそれに伴う市場の変化、生産・加工・流通に関わる事業者の役割と特徴、主要食品の流通の仕組みについて解説します。その上で、食市場においてますます重要性を増すマーケティングの基礎理論を学ぶことで、私たちが直面する食料消費の課題への理解を深めます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生産現場を理解し、各市場の特徴を説明することができる(知識・理解) 2. 流通プロセスの変化を理解したうえで、現代の流通における課題について批判的に捉えることができる(汎用的技能) 3. 食に関する身近な課題に対して、主体的な行動をとることができる(態度・志向性) 						
授業計画	<p>授業は、フードスペシャリストの指定テキストである「四訂 食品の消費と流通(建帛社)」に沿って進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&食市場の変化(1) [教科書の範囲:P1~3] 2. 食市場の変化(2) [教科書の範囲:P4~16] 3. 食市場の変化(3) [教科書の範囲:P17~30] 4. 食品の流通(1) [教科書の範囲:P31~39] 5. 食品の流通(2) [教科書の範囲:P40~48] 6. 食品の流通(3) [教科書の範囲:P49~60] 7. 外食・中食産業のマーチャンダイジング(1) [教科書の範囲:P61~69] 8. 外食・中食産業のマーチャンダイジング(2) [教科書の範囲:P70~78] 9. 主要食品の流通(1) [教科書の範囲:P79~87] 10. 主要食品の流通(2) [教科書の範囲:P88~99] 11. 主要食品の流通(3) [教科書の範囲:P100~112] 12. フードマーケティング(1) [教科書の範囲:P113~118] 13. フードマーケティング(2) [教科書の範囲:P119~130] 14. 食料消費の課題(1) [教科書の範囲:P131~140] 15. 食料消費の課題(2) [教科書の範囲:P141~152] <p>*上記計画に基づいて進めますが、授業の進行具合により教科書の範囲は多少前後します。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各回の講義で扱う教科書の範囲を上述しておりますので、授業準備として該当範囲を一読しておいてください。また、日ごろから食や農業に関連するニュースや話題に触れるようにしてください。(学習時間:2時間)						
授業方法	<p>授業は、概ね以下のような構成で行います。毎回授業の後半にオンラインの小テストを実施しますので、必ずPC・スマホ・タブレットなど、何らかのツールを持参ください。</p> <p>最初の10分: 前回のふりかえり 次の60分: 講義 残りの20分: 講義内容に沿った小テスト</p> <p>小テストの結果は成績に直結しますので必ず回答するようにしてください。また、講義は教科書の内容に沿ったスライドを用いて行いますが、予習・復習等の学習を充実させるためにも教科書の購入を推奨します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>毎回の小テスト(15回分): 45% 授業への参加態度: 55%</p> <p>毎回の小テスト: 講義内容を理解し、自分なりの考えを深められているかを評価します。 授業への参加態度: 授業への出席を最低条件に、講義への積極的な参加姿勢を評価します。</p> <p>*単位認定の大前提として、授業の総実施回数のうち3分の2(10回)以上の出席を求めます。つまり本科目においては全15回の授業のうち、6回以上欠席した場合には単位認定は行われません。 **なお、30分以上の遅刻も欠席とみなします。</p>						
履修上の注意	本講義はフードスペシャリストの資格受験に必要な科目ですので、授業ではフードスペシャリスト資格受験用のテキストを教科書としながら、発展的な内容にも触れたいと思います。資格試験受験者以外でも、食品の生産や流通、マーケティングに興味のある方、食品業界への就職を検討されている方はぜひご受講ください。						
教科書	四訂 食品の消費と流通 / (公社)日本フードスペシャリスト協会編 / 建帛社 / 2021年 / 978-4-7679-0687-4						

参考書	
-----	--

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食文化論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U73610
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行系の都市の食文化と消費社会におけるのグルメについて、さまざまなテーマから概観する。						
授業の概要	衣食住など、人間の生活行動に関する技術や意識の文化を生活文化という。そのなかでも、食物摂取行動に関する文化を食文化といい、この授業では、食文化の意義と内容、文化から見た日本〜神戸の食、食文化の国際化と交流に焦点を当てる。 またそれぞれの食事・食生活文化を形成させた要因を社会的背景や地理的環境と関連づけて学ぶとともに、時代の変遷に伴って多様化した伝統文化としての食文化を理解し、食文化が地域再生のキーとなることを解説する。						
到達目標	(1)食生活および食の楽しみを文化としてとらえることができる。(態度・指向性) (2)和食、フランス料理、中国料理などの代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。(知識・理解) (3)魅力ある都市の食文化＝グルメについて、情報収集し発信することができる。(知識・理解)						
授業計画	第1回 ガイダンス 「食べること」について考えてみよう 第2回 食文化によって「人間は猿から進化した」 第3回 食文化の文化人類学観点 第4回 料理とは人間にとって何か 第5回 「おいしい」を科学する 第6回 味覚をピュイゼ理論から学ぶ 第7回 情報化される食 第8回 ネット社会と食 第9回 消費社会、都市空間と食 第10回 情報社会と美食、グルメ 第11回 地元神戸の食から和食を知る 第12回 フランス料理について「トレンドをつくる現場、食べる現場」から 第13回 中国料理について 第14回 食料問題と食の安全性。持続可能な食 第15回 授業内容のまとめ。期末課題（試論）提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前、授業後に参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する（90分）。 まちに出て飲食店や市場、スーパーマーケットなどに積極的に行き、さまざまな「食の現場」を知る（120分）。 自分で料理を作ってみて、家族や仲間と一緒に食べて評論してもらおう（120分）。						
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 授業中のノートパソコン持ち込み使用を推奨します。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論（1200字）50%。各回提出のリアクションペーパー（manabaのレポートに書くこと）30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『講座 食の文化 第一巻〜第七巻』 石毛直道監修 (財)味の素食の文化センター 『いま「食べること」を問う』サントリー次世代研究所編、農山漁村文化協会 ISBN-10: 4540062670 『子どもの味覚を育てる 親子で学ぶ「ピュイゼ理論」』ジャック・ピュイゼ著、CCCメディアハウス ISBN-10: 4484171081 『フランス料理の歴史』ジャン＝ピエール・プーランほか著、角川ソフィア文庫 ISBN-10: 4044002320 『中国料理の文化史』張 競著、ちくま文庫 ISBN-10: 4480430695 『「うまいもん屋」からの大阪論』江 弘毅著、NHK出版新書 ISBN-10: 414088357X 『有次と庖丁』江 弘毅著、新潮社 ISBN-10: 4103354119 『食味往来 食べものの道』河野友美著、中公文庫 ISBN-10: 4122060710 『哲学するレストランール』橘 真著、プリコルール						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	色彩学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U72140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。						
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に着ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。						
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる【知識・理解】 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる【汎用的技能】 色と光の関係について科学的に説明することができる【知識・理解】 生活と色に関する諸問題について考察することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：生活と色、色の心理的効果 第2回：色の表示（色の三属性、色名） 第3回：色の表示（マンセルシステム） 第4回：色の表示（PCCS） 第5回：色の表示（オストワルト表色系、NCS） 第6回：三刺激値による色の表示 第7回：まとめと中間試験 第8回：配色技法 第9回：カラーコーディネートの実践① 第10回：カラーコーディネートの実践② 第11回：光と色 第12回：色の生理 第13回：色の測定 第14回：混色と色再現 第15回：まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をプリント（理解しようシリーズ）で確認し、演習課題に取り組む（2.5時間）						
授業方法	講義、一部演習を含む。学外研修（神戸ファッション美術館※予定）あるいはゲストスピーカーによる講義を行う場合がある。						
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回提出のリアクションペーパーの内容、演習課題等を評価する 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修を行う場合、交通費と入館料は自己負担。実施時期は土曜日または補講期間の予定。 2. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 3. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。						
教科書	「生活の色彩学 ―快適な暮らしを求めて―」橋本令子・石原久代 編著（朝倉書店）ISBN:978-4-25-460024-7 「新配色カード199a」日本色研事業株式会社						
参考書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所（中央経済社）ISBN:978-4502445804						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住行動論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U72230
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の「生活」と「住行動」の関わりについて考える						
授業の概要	本講義は、人間にとって最も身近な生活環境である「住まい」を中心に扱う。住まいと人間との関わりから、人間行動とそれに伴う心理状態の変化などの具体例を紹介する。また、都市で発生する諸問題（騒音、日照権、ゴミ問題等）、高齢者や障がい者との共生のための住まいのあり方などを取り上げ、家族、地域、世代等に着眼し、人間関係や諸環境間の関連について、批判的に考察する基礎的能力を養う。さらに、本講義で学んだ内容を、自らの生活環境を改善する実践へと発展させるような展開を図る。						
到達目標	(1) 身近な住環境を批判的に考察し、改善案について間取り図を作成することができる【汎用的技能】 (2) 身近な住環境に潜む問題に気づき住行動からの改善を図ることができる【態度・志向性】 (3) 現在の自分、これからの自分を見据えた住まい方のプランについて述べる【知識・理解、汎用的技能】						
授業計画	第1回 講義形態の確認、住まいに関する関心度アンケート 第2回 身近な住まいへの着眼 第3回 身近な住まいに関するグループワーク（発表含む） 第4回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしに必要な情報） 第5回 家族のライフステージと住まい（一人暮らしの人生設計と住まい） 第6回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・学童期） 第7回 家族のライフステージと住まい（子育て家族の住まい・青年期） 第8回 家族のライフステージと住まい（高齢期の住まい・高齢（単身）世帯） 第9回 家族のライフステージと住まい（多世代同居と住まい） 第10回 共生社会と住まい（ペットと住まい） 第11回 共生社会と住まい（バリアフリー、ユニバーサルデザイン） 第12回 共生社会と住まい（持続可能な社会と住まい）※ゲストスピーカー 第13回 共生社会と住まい（多文化共生と住まい） 第14回 共生社会と住まい（多様な家族形態と住まい） 第15回 住行動に関する終講課題及び講義総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること<2時間>。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと<2時間>。						
授業方法	講義はパワーポイントにそって進め、毎時間ノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、身近な住環境や住まい方等について各自の意見を整理する活動や、それをもってペアワークやグループディスカッションなどを行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業の参加態度・ワークシート記入状況(60%) →到達目標(1)～(3)に対応 ・終講課題(40%) →到達目標(2)および(3)に対応						
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	授業内容に応じて資料を配布する。						
参考書	中根芳一編『私たちの住居学(第2版):サステナブル社会の住まいと暮らし』オーム社(2019年)。ISBN-10:4274223485、ISBN-13:978-4274223488						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	平田 陽子					科目ナンバ-	U11030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と現代の住まいに関する課題の理解						
授業の概要	私たちが毎日暮らしている住居に関する入門科目として、住居の基本概要、および現代の住まいに関する重要事項である高齢者居住、子どもの生活空間、住まいの維持管理、集合住宅での生活などについて理解する。また、居住者増を想定して、住居の間取りを作成する。						
到達目標	住居に関する基本的な知識を持ち、地域生活の質の向上という広い視野に立ち、生活のあり方が説明できる。また、日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取りに対する考察を明快な文章で記述することができる。それらを踏まえて、現代の住まいをめぐる課題について、自分の言葉で議論することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、すまいの色々 第2回 日本の住まいの特徴 第3回 住居の歴史（古代～中世まで） 第4回 住居の歴史（近世） 第5回 住居の歴史（近代） 第6回 住空間の構成 第7回 間取り図の制作 1（家族構成と住まいの条件を考える） 第8回 間取り図の制作 2（マンションの間取り図作成） 第9回 家族の変容 第10回 高齢者の生活空間 第11回 子どもの生活空間 第12回 戸建て住宅の維持管理 第13回 集合住宅をめぐる問題 第14回 住宅の居住水準 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：松蔭manabaに示すキーワードについて、指定した参考図書などで下調べをすること（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間） 日ごろから新聞やテレビで取り扱われる住宅の情報や、街を歩く際には街並みなどにも関心を持って欲しい。						
授業方法	プリントをもとに、パワーポイントを用いた講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業の最後に実施する確認の小テスト（30%）、まとめの試験（50%）、間取り図制作課題（20%）						
履修上の注意	出席を重視する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	中根芳一編著、「私たちの住居学（第2版）」、オーム社、ISBN:978-4-274-22348-8						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	情報社会論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U72040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活、仕事などの身近な問題をテーマに情報社会を社会的に捉えていく						
授業の概要	情報化社会とされる今日、我々は、日常生活における様々な問題を解決するために、情報を正確に捉える力や分析する力が求められている。また「情報」と「職業」の接点を考察することは、自身のキャリア形成を考える際や、就職活動に取り組むときに必要な視点となるといえる。この授業では、急速に発展する情報社会を社会的に捉え、仕事、生活をしていくうえで必要な情報の収集、発信の方法や情報モラルについて考えていく。						
到達目標	(1) 情報社会の諸問題を社会的に捉え、説明できる。【知識・理解】 (2) 情報社会に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得、使用する。【汎用的技能】 (3) 情報社会に対する興味をより具体的なものとして意識し、議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 情報社会の成立 第3回 情報社会の進展 第4回 インターネットの普及 第5回 情報化とプライバシー 第6回 情報モラルとは 第7回 情報社会と職業－情報化がもたらす仕事の変化－ 第8回 若者文化と情報－若者にとって「つながる」とは何か－ 第9回 若者とインターネット 第10回 ネットいじめ問題 第11回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の有効性 第12回 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の危険性 第13回 就職とインターネット 第14回 生涯学習社会とインターネット 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・情報社会に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：2時間）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：2時間）。						
授業方法	本授業は「遠隔指定授業」（数回の対面講義有り）のため、ZOOM、manabaを活用しながら、解説、ディスカッションを行う <遠隔指定授業>						
評価基準と評価方法	・課題試験70%：授業で扱った情報社会に対する理解度、インターネット、SNSに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・レポート30%：内容についてのコメント、質問の記述的的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U01010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	(1) 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している【知識・理解】 (2) 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる【知識・理解 / 態度・志向性】 (3) 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策が提案できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、関連資料や時事問題について調べるなど、下調べをすること。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマや扱われた事柄について復習し、インターネットや図書館で関連する書籍・情報を検索するなど、発展的学習を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	講義形式 パワーポイントに沿って進めるので、毎時間配付するワークシートに要点を整理すること。講義の最後は「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、大人数の講義ではあるが、各自が主体性をもって学べるよう、例えばクリッカーなどのICT教材や動画教材などを積極的に活用する。						
評価基準と評価方法	終講試験(60%) →到達目標(1)および(2)に対応 ワークシート記入状況、受講態度・姿勢(40%) →到達目標(1)～(3)に対応 毎時間配付するワークシートの穴埋めはすべて埋めること。また、「本日の課題」は講義で扱われた専門用語や教示内容を引用し、自らの考えを述べるように努めること。						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は原則として受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	家政学の時間編集委員会. 『楽しもう家政学-あなたの生活に寄り添う身近な学問-』. 2017. 開隆堂. (ISBN: 978-4304021497)						
参考書	各自高等学校で使用していた家庭科の教科書(及び資料集). 他、適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活経済学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U12080
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生活と経済のかかわりを理解させ、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。						
授業の概要	最近メディア報道で経済的諸問題、具体的には国債発行に見る累積赤字、不良債権問題と金融危機、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題、円相場の変動と輸出入の関係、産業の空洞化などが多く取り上げられる。本講義では、失業率上昇や就職率低下などの雇用問題や産業の空洞化など、学生の卒業後の生活とかかわる問題と関連させながら、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について認識させる。						
到達目標	(1)「経済循環における家計の位置づけを家計の可処分所得の分析などの具体的な事例を通して理解し、その説明ができるようになる」【知識・理解】 (2)「生涯にわたる短期・長期の生活設計を行う上での個人の資産管理の基本的な考え方を理解し、それを身近なものとして認識できるようになる」【汎用的技能】 (3)「キャッシュレス社会とその課題について理解し、展望できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～日本の家計の金融行動と日本経済の資金循環 第2回 今日の家計の特徴 第3回 貨幣の時間価値①：貨幣の定義、貨幣の時間価値、機会費用 第4回 貨幣の時間価値②：異なる時点間の価値の比較、単利と複利、終価係数、現価係数 第5回 金利①：金利と利回り、短期金利と長期金利、短期金融市場と長期金融市場、固定金利と変動金利、預貯金と金利、名目金利と実質金利、貸し手と借り手 第6回 金利②：債券価格と金利の逆行関係、債券価格と株式価格の相関関係 第7回 長期の生活設計におけるリスク管理 第8回 生涯賃金と支出 第9回 社会保障制度～中間試験 第10回 個人・家計の負債利用①：負債利用までのプロセス、負債のコスト、負債利用の注意点、多重債務、債務整理 第11回 個人・家計の負債利用②：支払い手段の多様化と様々なカード、クレジットカードの利用と管理、リボリング払いの返済スケジュール 第12回 個人・家計の負債利用③：日本のクレジット統計 第13回 ライフプラン実習 第14回 金融商品①：金融商品の種類とリスク、株式の基本、株式相場指標、株式投資指標 第15回 金融商品②：債券の種類と特徴、債券の利回り計算、債券のリスクと格付け～定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第10～15回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U01040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。[知識・理解] 2. 図表からわかることを文章で表現できる。[汎用的技能] 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。[知識・理解][態度・志向性] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <対面> 2. 感覚の心理学的意味 <対面> 3. 行動と感情 <遠隔> 4. 集団 <遠隔> 5. 人格 <遠隔> 6. 知覚-視覚- <遠隔> 7. 対人魅力 <遠隔> 8. 発達 <遠隔> 9. 記憶 <遠隔> 10. 認知 <遠隔> 11. 感情 <遠隔> 12. 知覚-触覚- <遠隔> 13. 対人関係 <遠隔> 14. 心理学の生活への応用 <遠隔> 15. まとめ <対面> <p>* 授業回により、<遠隔>が<対面>に変更になる場合があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。（学習時間：2<時間>） 授業後学習：授業で指定された課題を松蔭manabaに投稿する（学習時間：2<時間>）						
授業方法	主に講義形式でおこなう。あるテーマについてグループでディスカッションしたものを発表し、それについての解説を行う回もある。 manabaを利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <遠隔指定授業>						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)：授業のなかで随時おこなう。到達目標3に関する到達度の確認。 試験(60%)：授業で解説した内容について説明できるか、図表から読み取ったことを表現し、自分の考えを展開できるかについて評価する。到達目標1と2に関する到達度の確認。						
履修上の注意	3分の2以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。						
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。						
参考書	「視覚世界の謎に迫る—脳と視覚の実験心理学」 ブルーバックス ISBN：978-4062575010 「美人は得をするか 「顔」学入門」 集英社新書 ISBN：978-4087205589 「皮膚感覚と人間のこころ」 新潮社 ISBN：978-4-10-603722-1 「自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義」 大和書房 ISBN：978-4479795315						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	家庭生活に関わる情報の意義や役割、モラルを理解させ情報処理に関する知識と技術を習得させるとともに、家庭生活に関わる情報通信技術と各種ソフトウェアを主体的に活用する能力と態度を育てる。						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うことを目的とする。						
到達目標	①家庭生活に関わる、情報通信技術の基礎知識と各種ソフトウェアの知識と技能を習得する。【知識・理解】 【汎用的技能】 ②Word、Excel、PowerPointを活用しながら、企画書作成、データの分析、加工、これらを基にプレゼンテーション資料を作成し、発表することができる。生活を取り巻く環境を実験や社会調査の手法で、情報ツールを用いて学際的に分析し、地域社会が直面している課題の解決方法を社会へ提案できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 家庭生活における情報化の進展(講義) ブロードバンド通信、モバイル通信、IPアドレス、タブレット端末、スマートフォン、電子書籍リーダー、マルチメディアの現状と将来 第2回 情報モラルとセキュリティ(講義) 第3回 情報通信ネットワーク(課題の設定と情報収集)(講義) 電子メール、SNS、Web情報検索、Webにおける情報発信、データベース、教具としてのソフトウェア 第4回 文章作成演習-生活産業に関わるビジネス文章作成(演習) 第5回 文章作成演習-ヒューマンビジネスに関わる生活産業の企画書作成(演習) 第6回 表計算ソフトの操作①-基礎操作(講義と演習) 第7回 表計算ソフトの操作②-データ入力(演習) 第8回 表計算ソフトの操作③-グラフ作成(演習) 第9回 表計算ソフトの操作④-データ分析(演習) 第10回 表計算ソフトの操作⑤-データ分析(演習) 第11回 プレゼンテーションの基礎(講義と演習) 第12回 プレゼンテーション課題の作成(演習) 第13回 プレゼンテーション課題の実演① 第14回 プレゼンテーション課題の実演② 第15回 家庭生活における情報及び情報活用の意義と倫理的な見方や考え方						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 次回の内容について予習し、担当教員の指定した課題とそのキーワードについて調べる。<2時間> 授業後学習: 授業内で学習した内容について、繰り返し復習する。次の回までに復習をして課題を作成して松蔭manabaコンテンツに投稿する。<2時間>						
授業方法	PCを活用した実習形式である。操作に不安を抱える場合には個別対応を図る。「分からないことはその場で解決」を心がけ、授業外学修を活用し各自のPC習熟度を高めることも目指す。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出: 各授業で学んだ内容を理解しているか、専門用語は適切に用いられているか、PC操作は正確に行われているかなど<70%> →目標①・②に対応 プレゼンテーションの課題と実演: 授業で示した評価基準に基づいた内容の整理が行われているか、聴衆に分かりやすく示そうとしているかなど<30%> →目標②に対応						
履修上の注意	学生の経験等によっては、既習事項や習得技術が異なるため、第1回目にスキル調査を実施する。その結果によっては、授業計画を若干変更することがある。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	データ分析入門						
授業の概要	この授業では、コンピュータソフトとしてWord、Excel、PowerPointなどを用いたプレゼンテーション資料作成などの基本的な情報処理技術の修得を目指す。また、家庭生活における文書作成や家計に関わるグラフ、表作成の基礎を学び、これらの技術を活用し、自身の関心分野について、データを収集、加工することに取り組む。そして、これらを通して、社会問題に対する意識を高めるとともに、疑問を解決するための糸口を見つけ出す力や、生活設計をする力を養うこと、企画の提案や研究成果等を他者に伝える力を養うことを目的とする。						
到達目標	①Word, Excel, PowerPointに関する基本的な知識、技術を修得、応用できる。【知識・理解】 ②Word, Excel, PowerPointを活用しながら企画書作成、データ分析、加工することができる。【汎用的技能】 ③Word, Excel, PowerPointを基にプレゼンテーション資料を作成し発表、討議することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション（講義） 第2回 課題の設定と情報収集（演習） 第3回 統計の読み方と調査方法（演習） 第4回 文章作成演習－ビジネス文章作成（演習） 第5回 文章作成演習－企画書作成（演習） 第6回 表計算ソフトの操作①－基礎操作（講義と演習） 第7回 表計算ソフトの操作②－データ入力（演習） 第8回 表計算ソフトの操作③－グラフ作成（演習） 第9回 表計算ソフトの操作④－データ分析（演習） 第10回 表計算ソフトの操作⑤－データ分析（演習） 第11回 プレゼンテーションの基礎（講義と演習） 第12回 プレゼンテーションの作成－デザイン（演習） 第13回 プレゼンテーションの作成－図表、グラフ（演習） 第14回 プレゼンテーション課題の発表 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・情報技術に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な技術について下調べをして理解を深めておくこと（学習時間：2時間）。 ・自己学習の課題が出た場合、次の授業開始までに提出すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	コンピュータ教室において、演習を中心に行なう。						
評価基準と評価方法	講義中の課題提出70%：授業で示した技術の理解度の評価と到達目標①および②に関する到達度を確認。プレゼンテーション資料の作成と実演30%：発表資料の評価と到達目標③に関する到達度の確認。課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	教科書は使用しない。レジュメなどを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活設計論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、その実践手法であるライフプランニングを行う力を身に付ける。						
授業の概要	多様なライフスタイルの中で自立した個人の確立の必要性を認識し、ライフデザインを行う力を身に付ける。生活課題を探求し、他者との共生や社会の一員として自らの在り方を把握することを目指す。現代社会の抱える問題として夫婦関係に伴うジェンダーの問題、少子化社会における子育ての問題、企業と消費者の情報格差から生じる問題、若者の貧困とキャリアデザインといった生活問題を解決する力を養う。						
到達目標	(1)「多様なライフスタイルの中でライフデザインの重要性を理解するとともに、ライフデザインを数値化した手法であるライフプランニングを身に付けることができる」【知識・理解】 (2)「資金計画、社会保険制度、年金制度を理解し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「マネープランニングによって近未来および未来の生活をシミュレーションすることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～パーソナルファイナンスの意義と基本的特徴 第2回 ライフプランニングの手法：ライフプランニングの手法、ライフプランニングを行う際に利用するツール、ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート 第3回 ライフプランニングの実践：ライフイベント表と個人バランスシートの作成 第4回 資金計画と6つの係数：終価係数、現価係数、年金終価係数、減債基金係数、資本回収係数、年金現価係数 第5回 教育資金計画：こども保険(学資保険)、教育ローン、奨学金制度 第6回 住宅資金計画：住宅ローンの金利、住宅ローンの返済方法、住宅ローンの種類、住宅ローンの繰上げ返済 第7回 社会保険①：社会保険の種類、公的医療保険の基本、健康保険(健保) 第8回 社会保険②：国民健康保険(国保)、後期高齢医療制度、公的介護保険 第9回 社会保険③：労働者災害補償保険(労災保険)、雇用保険 第10回 第1～9回のまとめと中間試験 第11回 リタイアメントプランニングの基本：リタイアメントプランニングと老後生活資金、年金以外の老後収入 第12回 公的年金の全体像①：公的年金制度の全体像、国民年金の全体像、公的年金の給付手続き、公的年金に係る税金 第13回 公的年金の給付①：老齢基礎年金、老齢厚生年金 第14回 公的年金の給付②：障害給付、遺族給付、併給調整 第15回 第11～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U21070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	(1)「実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる」【知識・理解】 (2)「関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「度数分布表やヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる」【汎用的技能】 (4)「母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し、事例研究ができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関～中間試験 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①：第7～9回の復習 第15回 授業のまとめ②：第10～13回の復習～定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読みこむこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第6～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)・(2)・(4)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～5回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(4)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U21070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成、統計的検定の方法について解説する。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	(1)「実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる」【知識・理解】 (2)「関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「度数分布表やヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる」【汎用的技能】 (4)「母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し、事例研究ができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関～中間試験 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ①：第7～9回の復習 第15回 授業のまとめ②：第10～13回の復習～定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読みこむこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第6～13回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)・(2)・(4)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～5回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(4)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活と法						
担当教員	ソ ノリ					科目ナンバ-	U12070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	法は遠くにあるものではない。私たちの日常生活を規律する法を見て、法の考え方を学ぶ						
授業の概要	生活には多様な側面がある。この授業では【都市生活と法】【家族生活と法】【災害と法】という三つの領域に着目して、法は遠くにあるものではなく、私たちの日常生活と密接な関連があることを説明する。日本法の比較のために、韓国法の内容も一部紹介する。						
到達目標	【都市生活と法】【家族生活と法】【災害と法】のそれぞれの領域で法がどのように機能するかを知るために基本的な知識を学ぶ。e-gov法令検索(https://elaws.e-gov.go.jp/)を通じてその法的根拠を探ることができる。都市生活、家族生活、災害を法がどのように規律するのかを理解することで、地域生活の質の向上という広い視野に立ち、生活のあり方を提案することができる。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨ、講義の進め方、アンケートの実施</p> <p>【都市生活と法】</p> <p>第2回 住まいと法1 住宅購入と法</p> <p>第3回 住まいと法2 住宅賃借と法</p> <p>第4回 都市計画と法1 都市施設と都市計画事業</p> <p>第5回 都市計画と法2 区域区分制度</p> <p>第6回 都市計画と法3 市街地再開発</p> <p>【家族生活と法】</p> <p>第7回 婚姻と法</p> <p>第8回 離婚と法</p> <p>第9回 子育てと法</p> <p>第10回 相続と法</p> <p>【災害と法】</p> <p>第11回 日本の災害法制</p> <p>第12回 阪神・淡路大震災と被災者支援</p> <p>第13回 大川小学校津波被災事件と国家賠償法</p> <p>第14回 韓国の法律上の「災難」概念の形成と、2014年セウォル号惨事</p> <p>第15回 COVID-19は災害か？</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・予習 毎回の授業で扱う生活領域について、自分の日常生活とどのような関係があるかを考えてみる。法律用語や法的表現は日常生活の言語と若干の違いがあるため、レジュメを読んで慣れることを目指す(2時間)。 ・復習 レジュメを見直しながら授業の内容を復習する(2時間)。小テストに解答する。 						
授業方法	<p>いくつかの方法を組み合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式 【都市生活と法】と【家族生活と法】は講義形式が中心となる。Manabaを通じて「小テスト」を行う。 ・ディスカッション形式 【災害と法】ではディスカッションを行う。3人が一組になってディスカッションをして、その内容を記録してmanabaのプロジェクトに提出する(11回と15回実施、コースメンバー全員が閲覧可)。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 60%(12回×5%) ・ディスカッション・ペーパー 20%(2回×10%) ・課題提出 20%(課題テーマ:災害とは何か?1000~2000字で自由に記述、提出締切:8月14日) 						
履修上の注意	小テストの締切日は厳守すること。						
教科書	なし、レジュメを配布する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	古濱 裕樹					科目ナンバ-	U01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での今後の学び、また生活や仕事で役立てるための、受験勉強とは異なる化学や生物学を知る						
授業の概要	生活の科学基礎 I は、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活をするにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	(1) 化学と生物学が生活に役立てられることを理解する。【知識・理解】 (2) 衣食住の事象やヒトの振る舞いを科学的な視点で理解することができる。【態度・志向性】 (3) 科学的視点によって、モノの改良・改善や効率的な利用方法の提言、あるいはより良い社会システムの提案を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 化学や生物学をなぜ学ぶのか (以下、各項目の前半が化学分野、後半が生物分野の内容である。) 第2回 物質をミクロの視点で捉える(原子、分子)、消化器系 I 第3回 元素とイオン(塩)、消化器系 II 第4回 酸・塩基、泌尿器系 I 第5回 酸化・還元、泌尿器系 II 第6回 無機化合物 I (典型金属元素)、呼吸器系 第7回 無機化合物 II (遷移金属元素)、循環器系 第8回 無機化合物 III (非金属)、外皮系 第9回 化学結合と化学反応、運動器系 第10回 物質「モル」(モルを使う意味と計算)、感覚器系 第11回 有機化合物 I (脂質、アミノ酸、糖)、神経系・感覚器系 第12回 有機化合物 II (合成低分子化合物)、内分泌系 第13回 有機化合物 III (天然物科学)、免疫系 第14回 有機化合物 IV (合成高分子化合物)、体と心の形成 第15回 総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習: 松蔭manabaコースコンテンツに予習用課題を掲載する。教科書および適切な文献を閲覧し、正しい情報や考えたことをまとめて提出する。(主に化学分野) <2時間> 復習: 松蔭manabaコースコンテンツの復習用課題を掲載する。授業での簡単な解説を聞いたうえで、適切な文献を閲覧し、正しい情報や考えたことをまとめて提出する。(主に生物分野) <2時間>						
授業方法	講義 松蔭manabaコースコンテンツの課題は、受講生同士が閲覧しあえる形式にする、または教員が学生の記述を抜粋してまとめた資料を掲載する、などの方法によって受講生同士の相互作用で学びを深め、視野を広げあうアクティブ・ラーニングに繋げる。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物 100% (内訳: 毎回課す松蔭manabaコンテンツの課題、化学分野50%、生物分野50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。) 課題に対するフィードバックの方法 すべての課題は100点満点で採点し、次回授業時に得点を松蔭manabaを通して通知する。また、授業において提出された課題の講評を伝達する。						
履修上の注意	松蔭manabaコースコンテンツの課題は授業でのコメントをもとに授業時間外に学修して作成するが、その際の参考文献としてインターネットのサイトも使用してよい。ただし、サイトの表現をそのまま使うのではなく、頭で解釈してオリジナルの文章にすること。また、参考にしたサイト等の文献は、必ず注釈に書いておくこと。						
教科書	サイエンスビューー 化学総合資料 四訂版、実教出版、ISBN:978-4-407-34332-8						
参考書	Newton別冊『人体完全ガイド 改訂第2版』、ニュートンプレス、ISBN:978-4315522143						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U01030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会生活の中で消費者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要となる消費者行動の基礎知識と現実問題について学ぶ。						
授業の概要	生活の科学基礎IIは、社会科学の視点から現代の消費社会の実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える。さらに、現実の消費者問題を分析できる力とともに、問題解決の方向性を探る力を養う。						
到達目標	(1)「消費者行動を社会科学の枠組みの中で捉え、その基礎知識を理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「理論上の消費者の最適な行動を学ぶだけでなく、実際、どのような消費者行動を取れば、より豊かな社会生活を営めるかを考えることができるようになる」【汎用的技能】 (3)「消費者問題の実態を学ぶことを通じて、社会科学の枠組みの中でその問題解決策はどのようなものがあるかを考えることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～議論とは何か 第2回 本の読み方: 第3回 社会科学とは何か:アプローチと観点、3つの「述べる」、因果関係と相関関係 第4回 家計に関する基礎概念と家計調査①:家計、収入と支出、物価変動、家計調査 第5回 家計に関する基礎概念と家計調査②:収入の変化、支出の変化 第6回 家計に関する基礎概念と家計調査③:貯蓄の変化、負債の変化 第7回 キャッシュフロー表分析①:キャッシュフローの定義と作成の意義、収入と可処分所得 第8回 キャッシュフロー表分析②:具体的な可処分所得の計算、現状から計算した可処分所得 第9回 キャッシュフロー表分析③:転職して年収が700万円にアップした場合の可処分所得、独立して自営業者(白色申告)になった場合の可処分所得 第10回 第1～9回のまとめと中間試験 第11回 賃金と所得格差①:就業形態の変化、賃金 第12回 賃金と所得格差②:年齢の賃金格差、男女の賃金格差 第13回 賃金と所得格差③:雇用形態の賃金格差、最低賃金・失業給付 第14回 消費者問題:多重債務、債務整理、消費者基本法、子どもを取り巻く消費環境の変化、消費者契約法の目的 第15回 第11～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習:各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間:2時間) ・授業後学習:授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間:2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%):第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%):第1～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%):リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・PC、USB、授業資料を必ず授業に持参すること。 ・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U11170
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概要	価値観が多様化する現代社会においては、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくことが目指されている。このような中で、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。そこで、本講義では、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での支援を考え、生活福祉の観点から課題解決に必要なとされる知識および方法・技能を総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる【知識・理解】 (2) それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べる【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第5回 コミュニケーションの限界 第6回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 ※ゲストスピーカーによる講義 第9回 社会保障と生活福祉 第10回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉を展望する 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各テーマについて関連する書籍・新聞記事などを基に自分の考えを整理しておく。＜2時間＞ 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。＜2時間＞						
授業方法	講義形式 松蔭manabaを積極的に活用する（資料公開、レポート提出など）。 本講義はアクティブラーニング（グループワーク、ペアワーク、ディスカッション等）を積極的に取り入れる。						
評価基準と評価方法	・終講課題（40%） →到達目標（1）および（2）に対応 ・授業ワークシートの記入状況や受講態度などの平常点（60%） →到達目標（2）に対応						
履修上の注意	講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活リスクマネジメント論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U73080
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるリスクに生活者として対応するために、リスクマネジメントの体系的知識とその能力を育成する。						
授業の概要	生活リスクマネジメントについて、現代社会におけるリスクを分類し、その知識の提供とマネジメント能力の育成を行うことを目的とする。自然災害に対する防災・減災(女性の視点からの)、犯罪に対する防犯(特にDVや児童虐待への対処)、消費者被害に対する製品安全(事故や被害実態に対する製品安全への生活者の対処)、食品の安全性(食のグローバル化に伴う問題)について、生活者が能動的にリスク対応するための資源を認識し、問題解決の手法を学ぶ。						
到達目標	(1)「現在社会にはどのようなリスクが存在し、それぞれのリスクにどのように対応するかということを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「リスクマネジメントの体系的な知識を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「生活者の立場から近未来および未来にどのようなリスクマネジメントが必要になるかということを認識できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～生活とリスク 第2回 保険の基本①：リスクマネジメント、保険制度、保険の原則 第3回 保険の基本②：契約者等の保護、保険法と保険業法 第4回 生命保険の基本と商品①：生命保険の仕組み、保険料の仕組み、配当金の仕組み、必要保険額の計算、死亡保障タイプの保険、生死混合タイプの保険 第5回 生命保険の基本と商品②：生存保障タイプの保険、変額保険、主な特約、かんぽ生命、共済の保険商品、その他の保険 第6回 (ゲストスピーカー招聘予定) 第7回 生命保険契約：生命保険契約、保険料の払込み、保険契約の見直し等 第8回 個人の生命保険と税金①：生命保険料を支払ったときの税金、生命保険料控除額、年金保険料控除が受けられる保険契約 第9回 個人の生命保険と税金②：保険金等を受け取ったときの税金、年金保険契約に関する権利評価 第10回 法人契約の生命保険と税金：法人契約の生命保険と税金 第11回 第1～5回および第7～10回のまとめと中間試験 第12回 損害保険の基本と商品：損害保険の仕組み、火災保険、地震保険、自動車保険、傷害保険、賠償責任保険、その他の損害保険 第13回 損害保険と税金：個人の損害保険と税金、法人契約の損害保険と税金 第14回 第三分野の保険：第三分野の保険、医療保険、がん保険、生前給付型保険 第15回 第12～14回のまとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第12～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～5回および第7～10回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製パン実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U22450
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜2~5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	製パンについて基礎的な知識と技能を系統的に身につける。						
授業の概要	この授業では、パンを製品のタイプで分類し、各々の代表的なものを選んで実習を行う。特別招聘講師の指導も受ける。その中で、各種穀類粉末の特性、原材料各々の果たす役割、製造工程などの基礎的な知識と技能を系統的に身につける。具体的には、手ごねソフト系のパン（バターロール、編みパン）、型焼き食事パン（山食パン）、折り込み生地のパン、伝統的な食事パン（フランスパン、ドイツパン）、砂糖の多い生地のパン（菓子パン）などを作る。最終的には、各自が独自のオリジナルパンを考案・計画して、実際に作り、発表する。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 各種穀類粉末の特性、原材料の役割、製造工程などの基礎的な知識を活用して、製パン操作ができる。【汎用的技能】 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、タイプに応じた対応ができる。【汎用的技能】 (4) 習得した技術を用いて、独自のパンを提案（計画、作成）することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項、無発酵パン 第2回 手ごねパン バターロール 第3回 手ごねパン 編みパン 第4回 「特別招聘講師」 シンプルなパン 食パン 第5回 「特別招聘講師」 リッチなパン 折り込み生地のパン 第6回 手ごねパン ハードロール 第7回 手ごねパン 揚げパン 第8回 「特別招聘講師」 シンプルなパン フランスパン 第9回 「特別招聘講師」 リッチなパン 菓子パン 第10回 イタリアのパン 第11回 フランスのパン 第12回 ドイツのパン 第13回 イギリスのパン 第14回 オリジナルパン作成 第15回 オリジナルパンの発表・まとめ ※パンの種類については、その回の代表的なものを挙げている。 ※場合によって、実習内容や順序を変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。＜学習時間：1時間＞ オリジナルパン作成の準備として、書類を作成する。 授業後学習：実習したパンについて、手順や作業のポイント他、レポートを作成する。＜学習時間：1時間＞ ※資料やレポートのやりとりは松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習：パンの作成 発表：第15回 各自が考案・作成したオリジナルパンについて発表する。						
評価基準と評価方法	授業態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（パンの仕上り）から、総合的に評価する。 到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 課題：【オリジナルパン作成】課題について適切な計画を立て、計画に基づき作成できているか。 到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。 到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：質問や課題については、授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「和洋菓子・製パン理論」「製パン理論」の単位修得者が履修できる。 隔週で2回分連続の実習となるため、日程に注意をすること。 実習内容を把握し、実習に適した身支度をした上で、実習に臨むこと。 実習室・試食室へは、許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は、必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。（昼食に充当する試食分を含む）						

教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06106-5 ※この教科書を「製パン理論」でも使用する。
参考書	

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	製パン理論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72490
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパを中心とした世界のパンの製造法を理論的に学ぶ。						
授業の概要	製パンに必要な機械と器具類、基本材料（穀類粉末・イースト・塩・水）と副材料（砂糖や卵や油脂、その他）の知識と役割、計量・混捏・発酵・成形・焼成までの各工程の知識と意義、直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に習得する。そのため、実習とリンクさせながら順を追って学習できるようにする。「経験、技術、コツ」といわれてきた製パン法を理論的に学び、製パン技術を効果的に高められる内容とする。						
到達目標	(1) 製パンに必要な機械と器具類、基本材料と副材料、各工程の意義について説明できる。【知識・理解】 (2) 直捏法と中種法などの代表的製パン法の理論、パンの種類などを体系的に関連づけることができる。【汎用的技能】 (3) 製パン実習に向けて、具体的な製パン法を理論的に習得し、説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、パンの歴史と種類 第2回 製パンの基礎理論 材料と役割 第3回 製パンの基礎理論 製パンの工程 第4回 製パンの基礎理論 発酵 第5回 製パンの基礎理論 焼成 第6回 製パンの基本技術 第7回 ハード系のパン 第8回 ソフト系のパン 第9回 型で焼いたパン 第10回 折り込み生地のパン 第11回 揚げパン 第12回 特殊なパン 第13回 サワー種のパン 第14回 自家製酵母種のパン 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所に通し、松蔭manabaコンテンツに提示する資料を閲覧しておく。 <2時間> 授業後学習：授業の要点と重要箇所の確認・整理をし、松蔭manabaの小テストまたはレポートを提出する。 <2時間>						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。実習で取り上げるパンの作り方について具体的な説明をする。布などを用いて成形の練習をする場合もある。毎回の授業終了前にはまとめの時間を設けて質問に応じ、小テストまたはレポート課題を課す。						
評価基準と評価方法	期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 課題 20%：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。 到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業態度30%：小テストやレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 授業中の作業やグループワークでは、積極性、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：質問や課題については、授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	授業回数3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および松蔭manabaで応じる。						
教科書	『基礎からわかる製パン技術』エコール社 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN:9784388061075 ※この教科書を「製パン実習」でも使用する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	組織論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U72550
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	世の中には非常に多種多様な組織が存在する。私企業の組織に対して「公的組織」という研究領域もある。ただ、組織のモデルとして主張される組織のタイプはいくつか集約されている。組織における人間観では、代表的な組織理論として「伝統的組織論」「近代的組織論」の3つを中心に取り上げ、組織論と言われる分野においてはどのような理論が構築されているのか理解する。						
授業の概要	経営学の組織論の学説史を踏まえながら、現代の経営組織の基礎概念・理論を実践面・実践的な事柄と結びつけながら理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営組織論の基礎概念・理論を実際の企業組織と関係づけながら知識として身につける【知識・理解】 ・身近な組織における諸現象について、学習した知識を応用して理解・解釈することができるようになること【知識・理解】 						
授業計画	第1回 経営学における経営組織論の位置付け 第2回 伝統的管理論（経済人モデル） 第3回 科学的管理法 第4回 人間関係論（社会人モデル） 第5回 近代組織論（自己実現モデル） 第6回 世の中いどのような組織があるのか（株式会社、NPO、公法人、財団など） 第7回 会社の経営とは（企業経営入門） 第8回 会社はどのように世の中の役になっているのか 第9回 人の働く組織はどのように作るのか（組織設計） 第10回 会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略） 第11回 会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス） 第12回 会社は仕事をどんな仕組みで動いているのか（組織形態） 第13回 社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計） 第14回 会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係） 第15回 経営組織論の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企業の組織に関わる新聞などの情報について、感覚を磨くこと。受講者各自の一般の紙媒体の情報をもとにしたトピックスの発表を予定している（各自の学習時間：毎週4時間の授業外学習）。終盤の授業では、小テストを実施するので（おさらいの学習時間：毎週4時間の授業外学習）						
授業方法	講義を基本とするが受講生との対話形式も取り入れる。グループワークをすることもある。授業で見解を求めることがあるが、積極的な発言を期待したい。						
評価基準と評価方法	出席と毎回の授業での記入するシート（40%） 小テスト（60%） より総合的に評価する。						
履修上の注意	講義全体の2分の3の出席が確保できない場合は受講資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席と判定。 受講マナー（私語など）も評価に加味する。						
教科書	授業ごとに資料を配布する						
参考書	順次紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	今までに学んだ生活・消費に関する専門的知識から、主に企業のマーケティングや消費の仕方、ブランド展開等 人との関わり方や仕組みについて取り上げ、自ら論文を作成することができる。						
授業の概要	企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動と いった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけら れるよう、1つ1つ丁寧に取り組むことを目的とする。 色々な事柄のなかから自分の興味・関心のあることから卒業研究のテーマを絞り、その後卒業論文としての構成 をどのように立てるのか具体的に考えていく（テーマを絞り込む）。既にそのテーマでされている先行研究の検 索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーショ ンという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。 この過程では、好奇心旺盛に取り組みながら見聞を広め、主体性・協調性も共に大切になることも学ぶ。						
到達目標	①日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、関心を高めることができる。（知識・理解） ②問題点を見つけ出し調査（定量的・定性的）を進めながら、分析に基づいた考え方をまとめることができる。 （汎用的技能） ③課題を批判的に捉え、論文を作成することができる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第2回. 関心のある分野の領域 第3回. テーマ設定（原則） 第4回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成） 第5回. 資料探しと文献検索の方法① 第6回. 資料探しと文献検索の方法② 第7回. 論文の書き方 第8回. 研究計画の発表① 第9回. 研究計画の発表② 第10回. 研究計画の発表③ 第11回. 研究計画の発表④ 第12回. テーマ決定後の進め方 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ 第14回. 中間発表① 第15回. 中間発表② 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査） 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査） 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査） 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査） 第20回. 文献収集・先行研究批判 第21回. 文献収集とノート作り 第22回. 論文執筆（章立ての確認） 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法 第24回. 研究論文の発表① 第25回. 研究論文の発表② 第26回. 研究論文の発表③ 第27回. 研究結果と考察① 第28回. 研究結果と考察② 第29回. 卒論発表の仕方 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備						
授業外における 学習（準備学習 の内容・時間）	【授業前】興味・関心のあるテーマ、また課題について追及しておくこと（2時間） 【授業後】ゼミでの議論を通し、改めて課題について考えを深めておくこと（2時間）						
授業方法	演習 ・課題解決型学修 ・ディベート ・プレゼンテーション ・フィールドワーク等を取り入れる。						
評価基準と 評価方法	・プレゼンテーションや発表準備（20%） ・論文作成過程における中間評価（分析方法等も含む）（20%） ・卒業論文の内容（60%） など総合的に評価する。						
履修上の注意	①何事にも好奇心旺盛に取り組む ②資料やデータ収集のために学外実習を行うこともある。入場料や交通費等は実費負担である。 ③無断欠席は厳しく対処する（積極的な参加姿勢が大事である）。 欠席する場合は、事前・事後に必ず報告する。						

教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	各自のテーマに併せて、参考文献を紹介する

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバー	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	1～3年生で学んできた都市生活や社会調査に関する専門的知識を踏まえた上で、自らの関心に基づいて問題を設定して研究に取り組み、卒業論文を作成する。						
授業の概要	卒業研究では1～3年生で学んできた都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心を持った領域に関するテーマを取り上げ、その関心に基づいた課題設定を行い研究に取り組む。具体的には、先行研究探索後に残された課題の解決や仮説検証のための「問い」を立てデータを収集し、得られたデータを分析・考察し、卒業論文を執筆する。この授業を通じ、研究という知的営為の意義を理解し、社会に出てからも研究を通じて培った知識や技能を広く活用できるようにする。						
到達目標	(1) 研究の基本的な枠組みを理解し説明できる【知識・理解】 (2) 自分の問題意識に基づいて先行研究を批判的に読み解き、「問い」を立て、独自の答えを導き出す。【汎用的技能】 (3) 知的好奇心・探求心を持って研究に意欲的に取り組むことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 卒業研究論文について 第2回 研究テーマの探索(1) 第3回 研究テーマの探索(2) 第4回 研究テーマの報告 第5回 先行研究の調査(1) 文献資料検索 第6回 先行研究の調査(2) 文献資料の読み方・まとめ方 第7回 「問い」の設定 第8回 研究計画の立て方 第9回 研究計画の作成(1) 第10回 研究計画の作成(2) 第11回 研究計画の報告(1) 第12回 研究計画の報告(2) 第13回 調査内容検討(1) 第14回 調査内容検討(2) 第15回 夏休みの研究スケジュール確認 第16回 卒論の構成と書き方について 第17回 調査データの分析(1) 第18回 調査データの分析(2) 第19回 調査データの分析(3) 第20回 中間報告の準備 第21回 中間報告 第22回 卒業論文執筆(1) 第23回 卒業論文執筆(2) 第24回 卒業論文執筆(3) 第25回 個別指導(1) 第26回 個別指導(2) 第27回 個別指導(3) 第28回 卒要旨作成／研究成果報告準備 第29回 研究成果報告(1) 第30回 研究成果報告(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：自分自身で設定したテーマの文献資料収集のほか、社会調査を用いて論文作成に必要なデータを収集する。＜2時間＞ 授業後学習：研究計画の作成、社会調査、データの整理、各報告の準備については授業外に行う。＜2時間＞						
授業方法	授業は演習形式で行う。 第1～7回目は、先行研究の探索と批判的検討を通じて卒業論文執筆に向けた問題設定に取り組む。 第8～28回目は、これまで学んだ社会調査の手法を確認した上で、自ら設定した課題を明らかにするための研究計画を立てデータを収集し、データの分析・考察を行い卒業論文を執筆する。 第29～30回目は、卒業論文の要旨作成と研究成果の報告を行う						
評価基準と評価方法	各種報告とその内容(20%)：研究に主体的に取り組んでいるかを評価。到達目標(3)の確認。 卒業論文(80%)：研究の枠組みを理解し、「問い」を立て独自の答えを導き出すことができているかを評価。 到達目標(1)(2)の確認。						
履修上の注意	資料やデータ収集のため学外で実習を行うことがある。その際、入場料や交通費などの実費負担を伴うことがある。						

教科書	適宜、プリントを配布する。
参考書	『情報生産者になる』、上野千鶴子著、ちくま新書、2019、ISBN9784480071675

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	家政学・生活学一般に関する研究および論文執筆						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題を取りあげ、自らがその関心に応じた問題を設定し取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	①過去の文献、調査研究報告を整理し、自ら研究計画を立てることができる【知識、理解】 ②情報を主体的、批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーション能力の習得【汎用的技能】 ③自立した人間としての自己の確立と、身に付けた知識・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得【態度、志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (都市生活演習A&Bと卒業研究との関係) 2. テーマ選定と研究倫理 (関心事項の整理と研究倫理について) 3. 文献検索 (文献検索時の工夫) 4. テーマ、関心について① (インターネット検索を中心に) 5. テーマ、関心について② (書籍・新聞を中心に) 6. テーマ、関心について③ (学術論文を中心に) 7. 先行研究の調査① (文献リストとは?) 8. 先行研究の調査② (文献リストの作成) 9. 先行研究の調査③ (文献リストの整理) 10. 調査計画① (量的・質的・混合法の見定め) 11. 調査計画② (アンケート、インタビュー計画の作成) 13. 調査計画③ (アンケート、インタビュー計画の整理) 14. 各自の研究内容の報告と質疑応答① 15. 各自の研究内容の報告と質疑応答② 16. 中間報告会 17. 中間報告会後のディスカッション / フィールドワーク 18. 各自の研究内容に関する個人指導① (進捗状況の共有) 19. 各自の研究内容に関する個人指導② (各自の課題の共有) 20. 各自の研究内容に関する個人指導③ (分析方法の共有) 21. 各自の研究内容に関する個人指導④ (ディスカッションおよび考察) 22. 各種データ分析法の復習 23. 全体での質疑応答&ディスカッション 24. 各自の研究内容に関する個人指導⑤ (論文書式化) 25. 各自の研究内容に関する個人指導⑥ (各章の最終チェック) 26. 各自の研究内容に関する個人指導⑦ (はじめに、おわりにの最終チェック) 27. 各自の研究内容に関する個人指導⑧ (論文修正) 28. 最終報告会① 29. 最終報告会② 30. 総括 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献検索および文献リストの作成、調査の準備～実践、データ分析の補完的作業など <2時間> 授業後学習：調査結果の整理、プレゼンテーション準備など<2時間>						
授業方法	演習形式 松蔭manabaを用いて提出物および各種資料の管理を行うなどプラットフォームとして活用する。また、ICT機器を活用した展開を図り、Office365の活用を積極的に取り入れながら、リアルタイムでのデータ編集を取り入れる。指導形式としては、全体でのディスカッションはもちろん、個人指導を軸として定期的に行われる発表に向けたアクティブラーニングを組み込む。						
評価基準と評価方法	ルーブリック評価に基づき評価する。 主に研究計画書、中間報告書の提出およびプレゼンテーション30%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。卒業論文の最終報告および提出70%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。 課題のフィードバックのコメントは、基本的に翌週の授業において行う。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で2/3以上の出席がない場合、原則として単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・主体的に取り組む、教員への報告等は欠かさないこと。 ・フィールドワークを実施する場合、交通費・入場料については実費負担となる。 						

教科書	授業中に紹介する
参考書	授業中に紹介する

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	食品学および食を通じた地域の活性化に関する研究テーマを各自で設定し、研究に必要な実験・調理・調査を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。						
授業の概要	各自で設定したテーマについて個別指導する。 研究の内容によって調査、試作（調理）、実験を行う。						
到達目標	1) 都市生活演習で得た知識と技術をもとに、卒業研究遂行に必要な実験スキルや調査スキルが活用できる。【汎用的技能】 2) 各自で卒業研究テーマを定め【態度・志向性】、必要な種々の調査、試作、実験ができる【汎用的技能】。 3) 研究テーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考ができる。【知識・理解】 4) 成果を卒業論文としてまとめ、発表することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 卒業研究テーマの候補選定 第3回 文献調査1 第4回 文献調査2 第5回 研究テーマ最終決定 第6回 研究に必要な手法を探る 第7回 研究計画立案 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会1 第15回 各自の研究について 中間報告会2 第16回 後期研究打ち合わせ 第17回 各自の研究について 個別指導 第18回 各自の研究について 個別指導 第19回 各自の研究について 個別指導 第20回 各自の研究について 個別指導 第21回 各自の研究について 個別指導 第22回 各自の研究について 個別指導 第23回 各自の研究について 個別指導 第24回 卒論制作指導 第24回 卒論制作指導 第25回 卒論報告会 準備 第26回 卒論報告会 準備 第27回 卒論報告会 準備 第28回 卒論報告会 準備 第29回 卒論報告発表会 第30回 卒論報告発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：実験・調査などの進捗状況および課題についての報告用資料を準備・作成する（学習時間：1時間） 授業後：個別指導後のまとめを行い、次回実験などに必要な文献等を調べておく 収集した文献、資料などを再度読み、レポートにまとめる（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業（調査・実験・試作・発表）に対する積極性（20%）：到達目標1）2）の到達度で評価する。 卒業論文（60%）：到達目標3）4）の到達度で評価する。 プレゼンテーション（20%）：中間報告会及び卒論報告会での発表内容、質疑応答の的確さなどで総合的に評価する。到達目標3）4）の到達度の確認。						
履修上の注意	研究テーマによっては実験やフィールドワークなど、授業外の時間を使う場合がある。						

教科書	なし
参考書	授業時間に適宜紹介する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	都市生活、都市文化についての研究論文を書く力をつける。						
授業の概要	「都市」すなわち「まち」について自分でテーマを見つけ、研究を進める演習の授業です。テーマはあなたたち自身が、興味や関心、問題意識を持つことながら「具体的な問い」として立ててください。その問いに答えること、すなわちある程度の長さの文章を記述し、図表や写真なども使って、一つの研究論文に仕上げていきます。						
到達目標	<p>(1) 研究論文を書くためにふさわしいテーマを見つけ、設定することができる。(汎用的技能)</p> <p>(2) テーマに応じた、先行研究の文献などを調べたり、社会調査や取材をしたり、データ収集ができる。(汎用的技能)</p> <p>(3) 論文としてリーダブルな文章を書くことができる。(態度・志向性)</p> <p>(4) 研究論文を要約してプレゼンテーションすることができる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>都市生活専攻なので、都市(街・ストリートや店舗)、食(グルメ)、衣(ファッション)など、身近なところからテーマ(自分で立てた問題)を決め、先行研究など必要な文献を読み、現場に出て調査・取材し、論証としてまとめてゆき、自分なりの答えを出すことが、この卒業研究の論文を書くプロセスです。</p> <p>都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、グルメやファッションといった、表現の変数群がむちゃくちゃに入り組んでいるため、単なる文学作品のように「テキスト(書かれた文章)を読み解く」というようにはいきません。</p> <p>だからテーマ、すなわち「立てるべき問い」は、できるだけ絞り込むほうがいいです。</p> <p>そしてそのテーマは、1年間情熱を傾けて取りかかるにふさわしいものを決定してください。</p> <p>研究論文の文章(書き言葉としての言語運用)は、論理的でリーダブル(誰もが読める文)でなければなりません。そのあたりも研究・実践の対象となるので、社会人として世に出たときに役立つような「書くこと」のスキル獲得につながるように留意したいと思います。</p> <p>第1回 オリエンテーション。研究論文を書くために必要なあれこれ 第2回 文章を書くことのメカニズム 第3回 リーダブルな文章を書くこと、読み直すこと 第4回 論文執筆のルール。主語、文体、用字用語、文献引用などのルール 第5回 インターネット情報の扱いについて 第6回 テーマを考え、設定すること 第7.8.9回 テーマ(各自)の発表と講評 第10回 テーマ(各自)の決定 第11回 各自の研究方法について 第12・13・14回 研究論文作成(各自)のプロセス(見通し)発表 第15回 テーマと概要決定</p> <p>第16・17・18・19回 研究プロセスおよび成果発表 第20・21・22・23回 論文第1稿(各自)提出 第24回 論文第1稿返却と手直し指示 第25回 論文チェックと校正 第26回 最終訂正指示 第27回 卒業研究発表についての準備 第28回 卒業研究発表についての確認 第29回 卒業研究発表の予行演習 第30回 卒業研究発表</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>基本的に卒業研究論文を完成させるまでの研究、社会調査、取材、インタビュー、文章執筆など一切のプロセスは、授業時間と教室以外で行われることとなります。</p> <p>授業ではその指導とチェックのみだと思ってください。具体的な授業外における学習は以下です。</p> <p>授業で扱う教科書の当該箇所を予習する(2時間)。</p> <p>授業内で指示した、指導とチェックにしたがって復習する(2時間)。</p>						
授業方法	<p>短期間に一気に仕上げていくのではなく、少しずつ試行錯誤しながら、2022年末(12月)までに、論文として仕上がるように進めていきます。</p> <p>論文の執筆内容、コンテンツの完成度のみならず、リーダブルな文章の書き方、アジェンダやレジュメの作り方なども指導します。</p>						
評価基準と評価方法	研究論文完成までのプロセス、態度、取り組みの熱意(50%)、研究論文自体の完成度(50%)						

履修上の注意	原則としてすべて回に出席すること。欠席する場合はあらかじめ知らせること。
教科書	『最新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』戸田山和久著、NHKブックス、ISBN:9784140912720
参考書	『小田嶋隆のコラム道』小田嶋隆著、ミシマ社、ISBN-10: 4903908356

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題を取りあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画を立てることができる。[知識・理解][態度・志向性] 2. 実験や調査を実行し、データをまとめ、統計的解析ができる。[汎用的技能][態度・志向性] 3. 結果にもとづいた考察をおこない、卒業論文としてまとめ、卒論発表会で発表することができる。[知識・理解][汎用的技能][態度・志向性] 4. 自分の力で計画を立て、主体的に取り組むことができる。[態度・志向性] 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 実験・調査の準備 3. 実験・調査の準備 4. 実験・調査の準備 5. 実験・調査の準備 6. 第1回報告会 7. 実験・調査の実施 8. 実験・調査の実施 9. 実験・調査の実施 10. 実験・調査の実施 11. 実験・調査のまとめ 12. 実験・調査のまとめ 13. 実験・調査のまとめ 14. 第2回報告会 15. 第2回報告会 16. 実験・調査の準備 17. 実験・調査の準備 18. 実験・調査の準備 19. 実験・調査の準備 20. 実験・調査の実施 21. 実験・調査の実施 22. 第3回報告会 23. 実験・調査のまとめ 24. 実験・調査のまとめ 25. 実験・調査のまとめ 26. 実験・調査のまとめ 27. 実験・調査のまとめ 28. 実験・調査のまとめ 29. 第4回報告会 30. 第4回報告会、講評 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。（学習時間：2<時間>）</p> <p>授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、修正、改善する。（学習時間：2<時間>）</p> <p>目安時間に関わらず、自分の納得のいくまで取り組む態度が必要である。</p>						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。報告会の際には進めた箇所までをまとめ発表する。そこでの議論を次のステップに生かして進めていく。						
評価基準と評価方法	<p>報告書や卒論(70%)：報告書、卒業論文、卒論要旨、卒論発表会の実行性、論理性、正確性、独創性などについて評価する。到達目標1, 2, 3に関する到達度の確認。</p> <p>参加の取り組み(30%)：積極性、計画性、粘り強さなどについて評価する。到達目標1, 2, 3, 4に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。						

教科書	なし。
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	授業を通して、論文執筆のための方法や技術を修得し、各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題を取りあげ、自らがその関心に応じた問題を設定し取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程をとおして、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	①過去の文献、調査研究報告を整理し、自ら研究計画を立てることができる（知識、理解） ②情報を主体的、批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーション能力の習得（汎用的技能） ③自立した人間としての自己の確立と、身に付けた知識・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得（態度、志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究、卒業論文について 2. 研究計画の立て方① 3. 研究計画の立て方② 4. 各自のテーマ、関心について① 5. 各自のテーマ、関心について② 6. 各自のテーマ、関心について③ 7. 先行研究の調査① 8. 先行研究の調査② 9. 先行研究の調査③ 10. 調査結果の考察① 11. 調査結果の考察② 13. 調査結果の考察③ 14. 各自の研究内容の報告と質疑応答① 15. 各自の研究内容の報告と質疑応答② 16. 中間報告会① 17. 中間報告会② 18. 各自の研究内容に関する個人指導① 19. 各自の研究内容に関する個人指導② 20. 各自の研究内容に関する個人指導③ 21. 各自の研究内容に関する個人指導④ 22. 中間報告会③ 23. 中間報告会④ 24. 各自の研究内容に関する個人指導⑤ 25. 各自の研究内容に関する個人指導⑥ 26. 各自の研究内容に関する個人指導⑦ 27. 各自の研究内容に関する個人指導⑧ 28. 最終報告会① 29. 最終報告会② 30. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：文献検索、資料収集、調査（学習時間：2時間） 授業後学習：調査結果の整理、プレゼンテーション資料作成（学習時間：2時間）						
授業方法	演習、個人指導を中心とし、定期的に発表を行う						
評価基準と評価方法	ルーブリック評価に基づき評価する。 主に研究計画書、中間報告書の提出およびプレゼンテーション30%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。卒業論文の最終報告および提出70%。到達目標①、②及び③に関する到達度の確認。 課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	主体的に取り組む、教員への報告等は欠かさないこと						

教科書	授業中に紹介する
参考書	授業中に紹介する

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	衣生活学、色彩学等に関連するテーマを取り上げ、卒業論文を作成する。						
授業の概要	前期はテーマを設定し、先行研究の調査、予備実験等をおこなった上で、研究計画を作成する。 後期は定期的に進捗を確認しながら本実験、調査を進め、提出締切日までに卒業論文を完成させる。						
到達目標	各自のテーマに沿って先行研究を調べ、実験や調査を行って知見を得る。【知識・理解】 論理的に文章を組み立て、一定水準の卒業論文を完成させる【汎用的技能】 研究で得られた成果を実生活に役立てる方法を考察する【態度・志向性】						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の調査 1 第3回：先行研究の紹介 2 第4回：先行研究の紹介 3 第5回：テーマの設定と研究計画の検討 1 第6回：テーマの設定と研究計画の検討 2 第7回：テーマの設定と研究計画の検討 3 第8回：予備実験 1 第9回：予備実験 2 第10回：予備実験 3 第11回：研究テーマと研究計画の発表 1 第12回：研究テーマと研究計画の発表 2 第13回：研究テーマと研究計画の発表 3 第14回：研究の実践 第15回：中間発表 第16回：研究の実践 第17回：研究の実践 第18回：研究の実践 第19回：研究進捗状況の確認 第20回：研究の実践 第21回：研究の実践 第22回：研究の実践 第23回：研究進捗状況の確認 第24回：卒業論文執筆の方法 1 第25回：卒業論文執筆の方法 2 第26回：研究進捗状況の確認 第27回：論文の完成 第28回：論文要旨作成 第29回：研究発表準備 第30回：研究発表準備						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間外にも研究を進めていくことが必要となる。（授業前後、180分） 一斉授業の他、必要に応じて個人指導をおこなう。						
授業方法	演習、実験						
評価基準と評価方法	研究への取り組み:50%、卒業論文:50%						
履修上の注意	研究は互いに協力し合いながら計画的にすすめること。 提出期限を守ること。						

教科書	使用しない。
参考書	随時紹介する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、経済的知識とその実践手法を修得し、卒業論文を完成させる。						
授業の概要	卒業研究では1～3学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、学生が関心をもった領域に関する問題をとりあげ、自らがその関心に応じた問題を設定して取り組む。具体的には、先行研究を探索後に残された問題の解決や新しい仮説のための方法を計画、実施し、得られた文献やデータをまとめ、考察する。これらの手続きの最終段階として卒業論文を作成する。この授業で主体的にものごとに取り組み達成していく過程を通して、何かを解明することに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。						
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を金融論あるいは経済学の視点から分析できるようになる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるようになる」【汎用的技能】 (3)「卒業論文を完成させるために必要な経済学的手法を修得することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 卒業論文第1節の見直し 第3回 卒業論文第2節の見直し 第4回 図書館とインターネットを使った資料収集① 第5回 図書館とインターネットを使った資料収集② 第6回 論理的説明と論理的思考①：論理的説明、論理的説明と説明の順序 第7回 論理的説明と論理的思考②：個別の要因と複雑な結果、論理的説明とエビデンス 第8回 エビデンスの提示①：事実資料とエビデンス、エビデンス提示と検証方法の選択 第9回 エビデンスの提示②：データの性格、事実の紹介とエビデンス 第10回 論文作成のルール 第11回 課題提出の準備① 第12回 課題提出の準備② 第13回 課題提出の準備③ 第14回 課題提出の準備④ 第15回 卒業論文第3節の提出 第16回 卒業論文第3節の見直し 第17回 研究成果の自己点検①：結論 第18回 研究成果の自己点検②：脚注、図表、参考文献 第19回 課題提出の準備① 第20回 課題提出の準備② 第21回 課題提出の準備③ 第22回 課題提出の準備④ 第23回 卒業論文の最終チェック 第24回 卒業論文第4節の提出 第25回 卒業論文要旨の作成 第26回 卒業論文要旨のチェック 第27回 卒業研究発表会の準備 第28回 卒業研究発表会の準備 第29回 卒業研究発表会のリハーサル① 第30回 卒業研究発表会のリハーサル②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、課題提出の準備を進めること（学習時間：2時間）						
授業方法	各自が設定した卒業論文のテーマに即した課題に取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（20%）：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標（1）および（2）の達成度を確認する。 ・卒業論文第3節の提出（25%）：卒業論文第3節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。 ・卒業論文第4節の提出（25%）：卒業論文第4節の内容をルーブリックで評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。 ・卒業論文要旨の提出（10%）：卒業論文要旨の内容を評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。 ・卒業論文発表会での口頭あるいはポスター発表（20%）：卒業論文発表会での口頭あるいはポスター発表の内容を評価するとともに、到達目標（1）～（3）の達成度を確認する。						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。
参考書	授業中に適宜、紹介する。

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U22080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データを作成する手法を身に付け説明することができる。【知識・理解】 ②データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【汎用的技能】 ③データの裏側を読み解き、それについて議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定-χ^2検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと(学習時間:2時間)。 ・授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること(学習時間:2時間)。 						
授業方法	<p>演習</p> <p>1人1台のPCを用いて分析、検討を進める</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎のチャレンジ問題(10%) : 授業で示した分析手法の理解度を評価するとともに、到達目標①および③に関する到達度を確認。 ・レポート、小テスト(30%) : データを読み取る力を評価するとともに、到達目標②に関する到達度を確認。 ・期末テスト(60%) : データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価するとともに、到達目標①、②および③の理解度を確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。 						
履修上の注意	<p>復習は必ずすること</p> <p>20分以上の遅刻は欠席扱いとする</p>						
教科書	なし(授業中に資料を配布する)						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調査集計演習						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U22080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	平均値・分散・標準偏差等の基礎的な統計知識を使いながらデータの作成をし、詳細な分析手法を扱い、統計に慣れながら理解することを目標とする。						
授業の概要	定量データや定性データなどの基礎的な資料が読め、平均、分散、標準偏差などの記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができる事を目標とする。エクセルやSPSSなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを使いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。						
到達目標	①データを作成する手法を身に付け説明することができる。【知識・理解】 ②データの違いに気が付き、正しい分析手法を使えるようになる。【汎用的技能】 ③データの裏側を読み解き、それについて議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 関連データの探し方 2. 官公庁統計の収集・整理 3. フィールドワーク論文の読み方 4. エクセルの基礎 エクセルデータの入力 5. エクセルの基礎 平均・分散・標準誤差 6. 相関係数 因果関係と相関関係 7. 相関係数とその検定 8. クロス集計の基礎 9. クロス集計表の検定- χ^2 検定- 10. エクセルによるグラフの作成 11. エクセルとワード ワードによるレポートの作成 12. SPSSによる統計分析 (1) -t検定- 13. SPSSによる統計分析 (2) --一元配置の分散分析- 14. 報告書の作成 15. 報告書の作成						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・社会調査に関するトピックスに関心を持ち、関連文献を活用し代表的な分析手法について下調べをして理解を深めておくこと(学習時間:2時間)。 ・授業内で指示した課題について反復練習を行い、分析手法について理解を深めること(学習時間:2時間)。						
授業方法	演習 1人1台のPCを用いて分析、検討を進める						
評価基準と評価方法	・授業毎のチャレンジ問題(10%) : 授業で示した分析手法の理解度を評価するとともに、到達目標①および③に関する到達度を確認。 ・レポート、小テスト(30%) : データを読み取る力を評価するとともに、到達目標②に関する到達度を確認。 ・期末テスト(60%) : データの性質を読み取り、正しい手法を選択し分析する力を評価するとともに、到達目標①、②および③の理解度を確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	復習は必ずすること 20分以上の遅刻は欠席扱いとする						
教科書	なし(授業中に資料を配布する)						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理科学実験						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U21150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	調理操作に対して興味・関心を持ち、調理科学的な視点を培う。						
授業の概要	加熱方法や加熱時間による食材の変化、切り方の違いによる味の浸透の差異を実験の手法で学修する。						
到達目標	(1) 調理操作が食品に及ぼす影響を理解し、説明できる【知識・理解】 (2) 計量をはじめとする基礎的な調理操作を正しく行うことができる【汎用的技能】 (3) 調理操作による物理的・化学的な影響を踏まえて調理に臨むことができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 諸注意その他 第2回 計量 重量と容積の関係 第3回 廃棄率① 野菜の下処理と廃棄率 第4回 食品の変色と防止法 フランシング処理他、褐変防止方法の効果の確認 第5回 廃棄率② 魚の下処理と廃棄率、浸透圧による吸水・脱水、形状と組織の変化 第6回 加熱の科学・基礎① 炊飯工程と米の糊化条件の確認、米の組成と粘りの関係 第7回 加熱の科学・基礎② 大根の煮え方（食紅の浸透圧実験） 第8回 加熱の科学・基礎③ 調味時期とその食味 第9回 実験結果プレゼンテーション・考察（第2回から8回までの実験結果のまとめ・班による発表） 第10回 加熱の科学・応用① 卵液希釈度・調味料の量や食味への影響 第11回 加熱の科学・応用② 鍋の材質・炒め油の量と調味時間の関係 第12回 調味の科学① 相乗効果、だし素材、浸漬・加熱方法による食味の違い 第13回 調味の科学② 汁物の塩分含量測定 第14回 調味の科学③ 混濁要因の検証、ルウの炒め加減と食味 第15回 実験結果プレゼンテーション・考察（第10回から14回までの実験結果のまとめ・班による発表）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、データの整理や結果のまとめは授業内に行うが、松蔭manabaにて資料の提示やレポートの提出、およびグループごとのプレゼンテーションの準備を行うために次の時間を要する。 授業前準備学習：実験内容に目をとっておく。＜学習時間：30分＞ 授業後学習：（毎回）レポートの作成、（2回）グループ発表の準備。＜学習時間：30～60分＞						
授業方法	実験：実験内容説明後、グループごとに実験を行い、データ整理、結果についてのディスカッションを行う。各自、実験記録をもとにレポートを作成し、松蔭manabaに提出する。 プレゼンテーション：第9回と第15回にグループごとのプレゼンテーションを行い、要点を整理する。						
評価基準と評価方法	授業態度（実験、発表への取り組み）50%、レポート（実験ノートを含む）50% 授業態度：実験の取り組み、グループ作業への参加度、グループ発表の内容より、総合的に評価する。 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 レポート：実験結果をもとにレポートが作成できているか、実験記録、結果、考察を総合的に評価する。 到達目標（1）（3）に関する到達度の確認。 フィードバックの方法；授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「調理学」を履修していることが望ましい。 実験内容を把握し、実験に適した身支度をした上で臨むこと。（実験用白衣を着用：各自購入） 実験室へは許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実験のため全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守。実験後のレポート提出を以ってその回を受講したこととする。						
教科書	『調理学実験書』、小川宣子・真部真里子編著、光生館、ISBN 978-4-332-05044-5						
参考書	『調理学』、（公社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、ISBN 978-4-7679-0524-2 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U12130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調理について理解し、調理をするために必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	エネルギー量、たんぱく質量などで表される必要栄養量を、食事という実際に食べられる形に変える仕事を調理という。さらに調理は、最も好ましい状態で食べ物が食されるようにすることで、必要な栄養を充足させるだけでなく、おいしく心理的にも満足させるものでなくてはならない。調理学では、調理をするために必要な知識、すなわち食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを学ぶ。						
到達目標	(1) 食事設計の基本知識、食素材の調理性、調理操作による組織または物性と栄養成分の変化などを理解する。 【知識・理解】 (2) 状況に合わせた食事設計ができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理の意義、食べ物の嗜好性 第2回 おいしさの演出 第3回 食事設計 第4回 調理操作—非加熱操作と器具 第5回 調理操作—加熱操作と器具 第6回 調理操作—熱源の種類と加熱機器・器具 第7回 炭水化物を多く含む食品の調理性 第8回 たんぱく質を多く含む食品の調理性 第9回 ビタミン・無機質を多く含む食品の調理性 第10回 成分抽出素材の利用と調理性 第11回 調理と摂食機能 第12回 安全性への配慮 第13回 調理から加工への展開 第14回 消費と流通への展開 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の該当箇所に通し、松蔭manabaコンテンツに提示する資料を閲覧しておく。 <2時間> 授業後学習：授業の要点と重要箇所の確認・整理をし、松蔭manabaの小テストまたはレポート課題を提出する。 <2時間>						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。講義では教科書をもとにパワーポイントや映像を用いる。後期の調理科学実験や次年度の調理実習を踏まえて、調理操作や変化について具体的に説明をする。授業の終わりには質疑応答、および各回の項目についてまとめの時間をとり、授業後提出課題とする。また、2日間の食事を記録する課題によって、自らの食生活・調理内容を客観的にふり返し、好ましい食事設計についてグループワークを行う。また、表計算を食事計画に活用することも行う。資料の提示や課題の提出には、松蔭manabaを活用する。						
評価基準と評価方法	期末試験 40%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート課題20%：2日間の食事記録の取り組み方、客観的な振り返りの積極性を評価する。 到達目標(2)に関する到達度の確認。 受講態度 40%：各回提出課題により、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：授業時および松蔭manabaで対応する。						
履修上の注意	授業回数3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は、欠席とする。 提出物は、提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および松蔭manabaで対応する。						
教科書	『調理学 第2版』 (公社)日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 ISBN:9784767906560						
参考書	映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、 ISBN 978-4-8103-1395-6 『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、 ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	橋本 多美子					科目ナンバ-	U12140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	基本的な調理操作の実習を行い、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を習得する。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技術を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 基本的な調理方法、調理の特異性、調理の意味、調理の可能性について理解する。【知識・理解】 (2) 基本的な調理技術を習得し、調理に対する興味を広げる。【汎用的技能】 (3) 食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 白玉団子① 第2回 炊飯、だしのとり方①、青菜の茹で方、お茶 第3回 行事食①炊きおこわ、茶碗蒸し、白玉粉②草もち、お茶 第4回 炊き込みご飯、潮汁、和え物、お茶 第5回 おばんざい<魚の扱い①煮魚、おから、だしのとり方②味噌汁>、ご飯、お茶 第6回 魚の扱い②手開き：フライ、タルタルソース、ミネストローネ、ゼリー①アガー、パン 第7回 魚の扱い③三枚おろし：ムニエル、粉ふき芋、コンソメスープ、ゼリー②ゼラチン、パン 第8回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麺の茹で方①パスタ、パン、コーヒー 第9回 小麦粉②ブラウnlルウ・ハンバーグステーキ、付け合わせ、スープ、パン 第10回 小麦粉③わんたんスープ、酢豚、白飯、花茶 第11回 中華ちまき、豆腐入りコーンスープ、寒天①杏仁かん、烏龍茶 第12回 行事食②お寿司、麺の茹で方②そうめん、寒天②、お茶 第13回 青椒牛肉絲、卵のスープ、和え物、白飯、プーアル茶 第14回 小麦粉④ケーキ・サレ、スープ、紅茶 第15回 総復習・まとめ(炊飯、汁物、茶、他)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。<学習時間：1時間> 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材などについてレポートを作成する。<学習時間：2時間> ※資料やレポートは松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業態度 50%、提出物 40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果(料理の仕上がり)から、総合的に評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。 【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時や松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「調理学」の単位取得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						

参考書	<p>映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6 『これからの調理学実習』、新調理研究会編、オーム社、ISBN 978-4-274-06997-0</p> <p>※上記の他、必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。</p>
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	調理実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U12140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	基本的な調理操作の実習を行い、自らの食生活と結びつけ、食生活の自立に必要な知識と技術を修得する。						
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合的技能を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を修得する。また、食事計画から食卓構成を実習するプロセスでは、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。						
到達目標	(1) 基本的な調理方法、調理の特異性、調理の意味、調理の可能性について理解する。【知識・理解】 (2) 基本的な調理技術を習得し、調理に対する興味を広げる。【汎用的技能】 (3) 食生活に対する自信を培い、自らの食を省み、食の自律を促す。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、調理実習の心得、基本的操作、お茶の入れ方 白玉団子① 第2回 炊飯、だしのとり方①、青菜の茹で方、お茶 第3回 行事食①炊きおこわ、茶碗蒸し、白玉粉②草もち、お茶 第4回 炊き込みご飯、潮汁、和え物、お茶 第5回 おばんざい<魚の扱い①煮魚、おから、だしのとり方②味噌汁>、ご飯、お茶 第6回 魚の扱い②手開き：フライ、タルタルソース、ミネストローネ、ゼリー①アガー、パン 第7回 魚の扱い③三枚おろし：ムニエル、粉ふき芋、コンソメスープ、ゼリー②ゼラチン、パン 第8回 小麦粉①ホワイトルウ・若鶏のクリーム煮、麵の茹で方①パスタ、パン、コーヒー 第9回 小麦粉②ブラウnlルウ・ハンバーグステーキ、付け合わせ、スープ、パン 第10回 小麦粉③わんたんスープ、酢豚、白飯、花茶 第11回 中華ちまき、豆腐入りコーンスープ、寒天①杏仁かん、烏龍茶 第12回 行事食②お寿司、麵の茹で方②そうめん、寒天②、お茶 第13回 青椒牛肉絲、卵のスープ、和え物、白飯、プーアル茶 第14回 小麦粉④ケーキ・サレ、スープ、紅茶 第15回 総復習・まとめ（炊飯、汁物、茶、他）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。<学習時間：1時間> 授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材などについてレポートを作成する。<学習時間：2時間> ※資料やレポートは松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	授業態度 50%、提出物 40%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）から、総合的に評価する。 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。 【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確にしているかを評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時や松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「調理学」の単位修得者が履修できる。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ、持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが、実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費10,000円を徴収する。						
教科書	『たのしい調理—基礎と実習—』第5版、山内知子他著、医師薬出版株式会社、ISBN 978-4-263-70653-4						

参考書	<p>映像で学ぶ『調理の基礎とサイエンス』、松崎政三・藤井恵子・寺本あい編著、学際企画、ISBN 978-4-906514-86-1 『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN 978-4-8103-1395-6 『これからの調理学実習』、新調理研究会編、オーム社、ISBN 978-4-274-06997-0</p> <p>※上記の他、必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。</p>
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域ブランド論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	U72520
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域の豊かな生活文化を表す価値、すなわち多様な地域ブランドの理解を深め、地域の課題を考える。						
授業の概要	地域ブランドとは、経済のグローバル化が進展し、世界が一つの市場に統合されていく中で、地域が自らの個性や強みなどローカル特性に徹底的にこだわり、地域にしかできないこと、つまり地域固有の価値を明確にして、世界に対して発信していく取り組みを考える。 具体的には、農林水産業・食品産業・伝統工芸産業・観光サービス業・商業などの分野で幅広い展開が行われていることを講義で理解する。 以上のようなケーススタディを通して、本講義ではブランドの理論、手法、実践例、活用方法を学ぶ。						
到達目標	①地域ブランドの概念について政府機関の考え方を踏まえながら企業ブランドとの関係性について知識と理解を深めることができる。(知識・理解) ②地域ブランドの構築に際して形成すべき要素・構成について理解し、アイデアを深めていく。(汎用的技能) ③ブランドの対象となるものに付与すべき価値や機能について考え、地域の課題を考えることができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 地域ブランドの概念と構成 第2回 地域ブランドの意味と役割 第3回 ブランドのマネジメント 第4回 地域ブランドの分析視覚：地域空間のブランディング 第5回 地域ブランドの分析視覚：地域産品のブランド論 第6回 地域ブランドの付与条件 第7回 地域ブランドの製品選択 第8回 地域ブランドの市場選択 第9回 地域ブランドのダイナミズム：大阪産(もん) 第10回 地域ブランド資源としての地域産品 第11回 地域ブランドのマネジメントの特徴 第12回 地域ブランドと観光地の集客イベント事業 第13回 地域ブランドの競争 第14回 地域ブランドの共創(プレゼンテーション) 第15回 地域固有性とブランディング						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	①地域の情報誌や駅構内にあるフリーペーパーなど資料を収集し、まとめる。(学習時間：2時間) ②授業中に指示された課題をレポートしつつ、地元(自分が住んでいる市町村)の観光実態を把握すること。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 ・課題解決型学修を取り入れる。 ・プレゼンテーションを行う。						
評価基準と評価方法	・各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問・アイデア)などにより評価する。(10%) ・レポート課題への取り組みとプレゼンテーションの評価(30%) ・期末試験(60%)						
履修上の注意	①授業中配布するプリントは、各回の出席者のみ配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布)。 ②講義全体の2/3の出席が確認できない場合は、受講資格を失う。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ③アクティブラーニング(グループワーク、ディスカッションなど)を積極的に取り入れる。 ④学外実習(見学)を伴うこともあるため、入館料や交通費等は自己負担となる。						
教科書	なし ※授業中、プリントを配布する。						
参考書	『地域マーケティングの核心』佐々木茂・石川和男・石原慎士編著、同友館 ISBN978-4-496-05089-3 『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤ごず恵編著、ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-07975-9 『1からの観光』高橋一夫・大津正和・吉田順一編著、中央経済社 ISBN978-4-502-67410-5						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	地域連携論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12160
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形で進む地域連携の具体例を知り、市民的成熟に基づいたコミュニティづくりを考える。						
授業の概要	本講義は、現代社会における地域が抱える諸問題について、いかにして関係諸機関が連携を図り、その問題解決を行うかについて学ぶ。 前半は、資本主義や社会制度、行政の取り組みから地域連携を考え、後半はコミュニティづくりや、ソーシャル・ビジネスの具体的事例、NPOや市民団体等による先駆的な実践を紹介する。 また、本学科が地域と連携して行っている活動についても紹介し、大学の地域貢献についても触れる。 官民による多様な実践例から、身近な生活をよりよくする地域連携のあり方について考察する。						
到達目標	(1) コミュニティにおいての市民的成熟を身につけることができる。(知識・理解) (2) 地域のコミュニティづくりに参画することができる。(態度・志向性) (3) 地域のコミュニティづくりの具体案を出すことができる。(知識・理解)						
授業計画	前半は「地域連携」の社会的意義、考え方を概論、後半は講師がこれまで関わってきたり取材してきたさまざまなNPOやTMOなどの組織、地域団体、組織、ネットワークの実例をリアルに紹介し、それを理解し考察する。 第1回 この地域連携論でなにをやるのか。オリエンテーションに代えて 第2回 コロナ禍の新自由主義～個人主義から地域連携へ 第3回 「公共」「共同体」そして「地域連携」 第4回 地域コミュニティを「日本の農村型コミュニティ」から見る。 第5回 中間共同体＝「中景」について 第6回 自己責任を問うことと「社会的共通資本」 第7回 ソーシャル・キャピタルの観点 第8回 岸和田だんじり祭りと地域連携 第9回 地元灘区の「灘区のnaddistー「地元と生きる」 第10回 尼崎南部再生研究室（尼崎市）の取り組み 第11回 市民と落語家が作った「天満天神繁昌亭」（大阪市北区） 第12回 農業と地域連携 第13回 NPO「食と農の研究所」（灘区）の取り組み。 第14回 神戸松蔭女子学院大の地域連携。 第15回 自分の地域連携例をまとめる。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画に関連するテーマに応じて参考書を読み、さまざまなメディアから情報を収集する（学習時間90分）。 授業後学習：授業計画にあがった事例の地元をその都度歩くこと、地域イベントなどに参加すること（学習時間120分）。						
授業方法	毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料を配布します。 毎回のリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 授業中のノートパソコン持ち込み使用を推奨します。 実際のフィールドワークにつながるように、大阪～阪神間～神戸の実例を中心に講義する。 学期中に、自分が知り得た地域連携の実例、タイムリーな地域イベントに参加して、それをレポートすること。						
評価基準と評価方法	期末レポート「わたしが知る地域連携（1200字）」（50%）。各回提出のリアクションペーパー（30%）、授業でのコール&レスポンス（20%）						
履修上の注意	3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。						
教科書	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツをアップし、レジュメや資料を配布します。						
参考書	『NHKテキスト 100分で名著 カール・マルクス 資本論』 斎藤幸平著、NHK出版 ISBN:9784142231218 『人口減少社会のデザイン』 広井良典著、東洋経済、ISBN-10: 4492396476 『コミュニティを問い直す』 広井良典著、ちくま新書、ISBN-10: 4480065018 『ソーシャル・キャピタル入門～孤立から絆へ』 稲葉陽二著、中公新書、ISBN-10: 412102138X 『奇跡の寄席 天満天神繁昌亭』 堤成光著、140B、ISBN-10: 4903993043 『ローカリズム宣言』 内田樹著、deco ISBN:9784906905164 『メイドイン尼崎本』 ティーエムオー尼崎						

参考書	『南部再生へ 尾崎南部地域の情報誌』（フリーマガジン） HP『ナダタマ』 http://www.naddist.jp
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ処理法I						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U23090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	質問紙調査で得られたデータの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方とともに、各種分析法とその分析手順について学習する。特に、分散分析、重回帰分析、因子分析について詳しくとりあげる。						
授業の概要	社会学・経営学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。使用するデータは「社会調査基礎演習I」で得られた質問紙調査であり、統計ソフト（SPSS）を用いて、このデータで実際に多変量解析を行う。解析の方法は、重回帰分析を中心として、その後データの構造や仮説によって、分散分析や共分散分析、t検定あるいはパス解析や因子分析、数量化理論の適用など、少なくとも2・3種類の統計手法を体験させる。						
到達目標	(1)「質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析することができるようになる」【知識・理解】 (2)「今までのデータ知識とは違う読み取り方ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「得られたデータから現状を理解し、問題点を捉えることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～多変量解析とは 第2回 多変量を要約する：多変量データの種類 第3回 データセットの作成方法：SPSSの基本操作 第4回 記述統計の作成方法：SPSSによる記述統計 第5回 分散分析とは：3つ以上のグループで平均値を比較するための手法 第6回 分散分析の適用方法：一元配置の分散分析、二元配置の分散分析 第7回 分散分析を体験する：SPSSによる分散分析～中間試験 第8回 重回帰分析とは：説明変数が2つ以上の回帰分析 第9回 重回帰分析の適用方法：最小二乗法、偏回帰係数の解釈、決定係数、決定係数の有意性検定、変数選択 第10回 重回帰分析の問題点：多重共線性とその対応方法 第11回 重回帰分析を体験する：SPSSによる重回帰分析 第12回 因子分析とは：複数の観測変数の中から共通因子を抽出するための手法 第13回 因子分析の適用方法：探索的因子分析、確認的因子分析 第14回 因子分析を体験する：SPSSによる因子分析 第15回 授業のまとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること（学習時間：2時間）						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、課題を提示する。その課題について周囲と協力しながら取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・定期試験（30%）：第8～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験（30%）：第1～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点（40%）：リアクションペーパー（講義内容に基づいた練習問題）と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	データ処理法II						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U23100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インタビューすること、インタビュー記事を書くことを実践的に学ぶ。						
授業の概要	質的社会研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には各自でデータを収集し、整理・分析したレポートを作成する。質的社会調査の一連のプロセスを経験することを通じて、基礎的な力を身につけ、実際に質的社会調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになることが目的である。						
到達目標	<p>(1) 質的社会調査の方法として取材とインタビューを理解し、実際に行うことができる。(知識・理解)</p> <p>(2) インタビュイー（インタビューを受ける人）との十全なりレーションシップを取ることができる。(汎用的技能)</p> <p>(3) インタビューした内容を情報化、記述することができる。(汎用的技能)</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的、内容、進め方、評価の方法など）</p> <p>第2回 情報化社会とメディア</p> <p>第3回 情報と情報化。ジャーナリズム</p> <p>第4回 質的調査と量的調査。質的社会調査の方法</p> <p>第5回 インタビュアー（聞き手）とインタビュイー（話し手）</p> <p>第6回 インタビューの方法。フィールドワークと生活史調査</p> <p>第7回 新聞・雑誌媒体のインタビュー記事</p> <p>第8回 インタビューを情報化する</p> <p>第9回 取材、コミュニケーションとインタビュー</p> <p>第10回 インタビュー取材の準備の実際</p> <p>第11回 アポイントとインタビュー取材項目</p> <p>第12回 インタビュー取材の実施</p> <p>第13回 インタビュー記事を書く</p> <p>第14回 インタビュー記事の講評と手直し</p> <p>第15回 インタビュー記事を完成させる</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：新聞や雑誌、ネットなどのさまざまなメディアのインタビュー記事を読むこと。予習として身近にある、その日の新聞、その週の週刊誌のインタビュー記事欄を読む（学習時間90分）。</p> <p>授業後学習：講義で取り上げた実際のインタビュー記事を熟読する（学習時間60分）。</p> <p>実際にインタビューを行うための手続きを行い、記事を書く（学習時間60分）</p>						
授業方法	<p>編集者／著述家として、実際にインタビュー記事書いている実例をもとに講義する。</p> <p>毎回授業前にmanabaのコースコンテンツに授業内容をアップ、レジュメを配布し、それらをもとに講義する。</p> <p>インタビューを実際に行き、記事を作成する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験は実施しない。課題提出（取材、インタビュー記事作成 約2000字または約4000字）70%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言30%。</p>						
履修上の注意	<p>出席が3分の2に満たない者には単位認定をしません。</p>						
教科書	<p>『インタビュー』木村俊介著、ミシマ社 ISBN-10: 4903908968</p> <p>『質的社会調査の方法』岸政彦ほか著、有斐閣ストゥディア ISBN978-4-641-15037</p> <p>『人生最後のご馳走』青山ゆみこ著、幻冬舎 ISBN978-4-344-02826-5</p> <p>その都度、資料として複写配付しますので、必ずしも購入する必要はありません。</p>						
参考書	<p>『インタビュー術！』永江朗著、講談社現代新書、ISBN-13: 978-4061496279</p> <p>『人物ノンフィクション 表現者の航跡』後藤正治著、岩波現代文庫、ISBN-13: 978-4006031879</p>						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	特別調理実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U23470
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3~4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	この特別調理実習では、伝統食や季節感のある食文化および多様な世代のニーズに対応する献立作成と調理技術を修得し、将来の豊かな食生活や食文化の伝承につないでいくことをテーマとする。						
授業の概要	この特別調理実習は、家庭科教職課程の必修教科でもあるため、構成については高校の指導要領を考慮した。日常食を中心に学ぶ「調理実習」に引き続き、特別調理実習では、行事食・供応食、幼児と高齢者の食事、体調を整える食事についての調理実習を行い、調理の理論と技術を深める。具体的には、各食事の献立作成において、栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮し、喫食者と食事の目的にあわせて調理をすることによって、その重要性を理解し、それぞれの調理操作やもてなし方について学ぶ。						
到達目標	(1)季節ごとの行事食や供応食といった伝統食の特長、および食事の目的や喫食者の多様なニーズに対応した献立作成や調理の工夫について理解する。【知識・理解】 (2)食事の目的や喫食者に応じて、調理の工夫や技術など習得したことを活用できる。【汎用的技能】 (3)将来的には自立した豊かな食生活を営むことが出来るようになることを目指す。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、お茶と和菓子、水菓子のおもてなし</p> <p>第2回 おもてなしの松花堂弁当（春の香り）</p> <p>第3回 祝膳：赤飯と尾頭付き</p> <p>第4回 祝膳：端午の節句の祝膳</p> <p>第5回 咀嚼・嚥下に考慮して①：離乳食</p> <p>第6回 咀嚼・嚥下に考慮して②：幼児食</p> <p>第7回 野菜と豆類たっぷりの精進料理</p> <p>第8回 なつかしの家庭料理①：薄味でおいしい食事</p> <p>第9回 なつかしの家庭料理②：揚げ物じょうずに</p> <p>第10回 なつかしの家庭料理③：食物繊維たっぷりの食事</p> <p>第11回 『特別招聘講師』による調理実習</p> <p>第12回 咀嚼・嚥下に考慮して③：高齢者食</p> <p>第13回 咀嚼・嚥下に考慮して④：長寿を慶ぶ祝膳</p> <p>第14回 パーティー料理：テーブルマナー</p> <p>第15回 まとめ、パーティー料理：ティーパーティ</p> <p>※実習内容の詳細は、第1回オリエンテーションにて伝える。 実習の順番は、変更することがある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。＜学習時間：1時間＞</p> <p>授業後学習：実習の手順、調理の要点、使用した食材などについてレポートを作成する。＜学習時間：2時間＞</p> <p>※資料の提示やレポートの提出は松蔭manabaを活用する。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<p>授業態度40%、提出物40%、小テスト20%</p> <p>授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（料理の仕上がり）から、総合的に評価する。</p> <p>到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。</p> <p>到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>【課題レポート】課題について適切なレポートが作成できているか。</p> <p>到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>小テスト：食事の場面や喫食者に応じた献立作成や調理の工夫、調理操作ができていないかを評価する。</p> <p>到達目標(2)に関する到達度の確認。</p> <p>フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。</p>						
履修上の注意	<p>「調理学」および「調理実習」の単位修得者が履修できる。</p> <p>実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で実習に臨むこと。</p> <p>実習室・試食室には許可された物のみ持ち込みを可能とする。</p> <p>実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが実習時間となる。</p> <p>全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。</p> <p>20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は必ず連絡をすること。</p> <p>提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。</p> <p>実習着購入については、ポータルにて連絡をする。</p> <p>実習費10,000円を徴収する。</p>						
教科書	『調理学実習』第2版、大谷貴美子・饗庭照美・松井元子・村元由佳利編、講談社、ISBN978-4-06-514095-6						

参考書	<p>『たのしい調理—基礎と実習—』第4版、水谷令子他著、医師薬出版、ISBN978-4-263-70517-9 ※上記は「調理実習」のテキスト</p> <p>『NEW 調理と理論』、山崎清子・島田キミエ・渋谷祥子・下村道子・市川朝子・杉山久仁子著、同文書院、ISBN978-4-8103-1395-6</p> <p>※必要に応じて松蔭manabaで紹介をする。</p>
-----	---

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活インターンシップI						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U13180
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	1. 就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え、実行することができる。【態度・志向性】 2. 社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <p>第1回 インターンシップの意義（意義・目的の確認）：青谷 第2回 インターンシップの現状について（ビジネスマナー・心構え）：青谷 第3回 自己分析と企業分析①プレゼンテーション：青谷 第4回 自己分析と企業分析②プレゼンテーション：青谷</p> <p>【夏休み中実習】</p> <p>第5回～第13回 現地実習（実習時間は10日間（1日8時間）を原則とする。</p> <p>【事後学習】</p> <p>第14回 インターンシップの振り返り（業界・業種の特徴とまとめ：プレゼンテーション）青谷 第15回 インターンシップの振り返り。総括（業界・業種の特徴とまとめ：プレゼンテーション）青谷</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験実習を行う。 【実務経験のある教員等による授業】 企業が、学生自身の適性や適職を発見したり、今後のキャリアの形成に役立てたりするために、就業体験を行う。日程については、後日連絡をする。						
評価基準と評価方法	事前レポート（10%）、事後レポート（10%）、事前指導（10%）、事後指導（10%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
履修上の注意	1. 事前指導・事後指導に必ず参加すること。 2. 研修は、夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 3. 実習に伴う交通費や宿泊費などは自己負担する。 4. 事前レポート事後レポートの遅延提出、未提出は単位認定不可となります。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活インターンシップII						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U13190
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	NPOや市民活動団体、ボランティア団体など非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と、その現場での10日間の体験を行う。						
授業の概要	NPOなど非営利組織で仕事をするために必要な知識（社会の捉え方や働き方）の習得と体験を通してキャリアアップにつなげることを目指す。 本講義では、①営利組織と非営利組織の違いについて考え、②社会に出て働くことの意義とその働き方について考えを深める。③非営利組織の実態や職場のルール、マナーを学ぶための業務体験実習を行う。④体験を通して、社会人としての心構えを学び、豊かな自己表現力を身につけるとともに、⑤自分に適した幅広い視野で職業選択ができることや、⑥自らの人生設計が組み立てられるようにする。						
到達目標	<p>(1) 「仕事とは何か」「社会で働く」ことを考えることができる。(態度・志向性)</p> <p>(2) 利益や営利、経済合理性追求だけではない、現在進行形の「地域活動」と「働く場」を理解することができる。(態度・志向性)</p> <p>(3) 専攻の分野が地域社会でどのように役立つかを考えることができる。(態度・志向性)</p> <p>(4) 様々な業界・業種の実態や職場・地域のルール、マナーを理解し、就職などのキャリアデザインに活かすことができる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <p>第1回 実習先の事業と研修内容の確認</p> <p>第2回 実習先への提出書類の作成</p> <p>第3回 「企業」と「NPO」はどういうところか、何が違うか。そこで「働く」とは</p> <p>第4回 仕事の基本、ビジネス・マナーと話し方のマナー</p> <p>【夏休み中（実習先により異なるが7月末～9月中旬の期間のうち2週間（10日間）実習予定）</p> <p>第5～14回 インターンシップ現地実習</p> <p>第15回 実習のまとめと報告</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ実習、派遣研修先の活動内容をよく調べて、理解しておく（5時間）。 インターンシップで何を実習し、なにを学ぶのかを考えておく（5時間）。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	事前の準備とその姿勢（20%）、事後報告レポート（20%）、実習先の研修態度と授業参加姿勢など総合的評価（60%）						
履修上の注意	授業への積極的な参加が重要です。 実習すなわち派遣研修は夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 実習中は、実習先の指導に従い、実習先・大学ともに報告・連絡・相談を密にすること。 実習に伴う交通費などは自己負担となる。						
教科書	プリントを配布 都市コミュニティ研究室 シーラボ https://www.clab.company/post/intern01						
参考書	随時紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②デジタル社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 【テーマ】 地域や企業の成り立ちから現在に至るまでのプロセスを学び「伝統・文化の継承」を軸にブランドの視点から理解を深めていく。 その上で、次世代につなぐ新たな取り組みをするために創造性を膨らませ、商品企画に取り組む。 企画書の創出には、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で、総合的なブランド・マーケティングでまとめていく。 最終的には実務家に向けプレゼンテーションが実施できるよう目指していく。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、応用しながら実践することができる。(態度・志向性) ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。(知識・理解) ③調査データを読み取り、商品につなげ工夫することができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回. 演習で取り上げるテーマと取り組み方法 第2回. マーケティングを実践することの意義 第3回. 調査目的の明確化① 第4回. 調査目的の明確化② 第5回. 調査枠組みの検討① 第6回. 調査枠組みの検討② 第7回. 質的調査を行うための仮説設定 第8回. 量的調査を行うための仮説設定 第9回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施(テープおこし) 第12回. アンケート調査の実施(学内・学外にて) 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【授業前】課題設定を行うためにも人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨き、まとめておくこと(学習時間:2時間) 【授業後】議論やディスカッションを通して、課題について考え(アイデア)、まとめる(レポート作成も含める)(学習時間:2時間)						
授業方法	演習 ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワーク						
評価基準と評価方法	企画力(アイデア出し)のまとめかた(20%) グループディスカッション(20%) レポート(30%)、プレゼン発表などによる総合評価(30%)						
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは実費負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要! ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニング(ディスカッション、グループワークなど)を積極的に取り入れる。						
教科書	なし(必要に応じて資料を配布する)						

参考書	随時紹介する（参考書リストは授業中に配布します）
-----	--------------------------

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	本授業は、社会調査の企画から実査、分析、報告書作成、プレゼンテーションに至る一連の過程を実践的に習得する。						
授業の概要	この授業では、社会調査の手法を用いてデータを収集し、現代社会における人々の意識や行為を実証的に把握することを目的とする。「都市生活演習A」では、質的調査法を用いてデータを収集しデータの分析と考察を行う。調査結果は授業内で報告した後、報告書としてまとめる。これら一連の過程を通じ、実証研究の知識や技能を習得し、論理的思考力を養う。尚、本授業の調査テーマは「現代女性のライフスタイル」である。						
到達目標	この演習を通じ、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法の習得を目指す。 (1) 質的調査の専門的な知識と技法を理解する。【知識・理解】 (2) 質的調査の企画から実査、分析、報告までを実際に行うことができる。【汎用的技能】 (3) 社会調査に積極的に参加し、社会の実情を把握することができる。【態度・志向】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 課題設定に向けた文献・周辺リサーチ（既存データの分析）(1) 第3回 課題設定に向けた文献・周辺リサーチ（既存データの分析）(2) 第4回 調査企画の作成(1) 第5回 調査企画の作成(2) 第6回 調査企画の発表 第7回 インタビュー対象者の決定/依頼文作成/インタビューの質問項目の作成と検討(1) 第8回 インタビューの技法/インタビューの質問項目の作成と検討(2) 第9回 インタビュー実査 第10回 インタビュー・データの反訳 第11回 インタビュー・データの分析(1)/お礼状の作成/インタビュー調査を振り返る 第12回 インタビュー・データの分析(2) 第13回 インタビュー・データの分析(3) 第14回 中間報告の準備 第15回 中間報告/夏休みの課題の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：調査に関する資料収集のほか、学外でフィールドワークを行う。＜2時間＞ 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。＜2時間＞						
授業方法	授業は演習形式で行う。まず、少人数のグループに分かれ、グループのテーマに関する既存データを収集・読解し課題設定を行う。次に、設定した課題に基づいて質問項目を作成した後、調査を実施しデータを収集する。収集したデータはエクセルで整理・図表化し、分析・考察を行う。最終的に、まとめた内容はパワーポイントを用いて報告するほか、報告書としてまとめる。						
評価基準と評価方法	授業態度（10%）：授業に主体的に取り組んでいるかを評価。到達目標(3)の確認。 授業の課題（30%）：調査の手続き・技法に基づいて課題に取り組んでいるかを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。 授業内での中間報告（60%）：報告態度や内容を総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認。						
履修上の注意	出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 学外でのフィールドワークに伴う交通費などの実費負担がある。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	『よくわかる質的社会調査 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009、ISBN9784623052738 『よくわかる質的社会調査 プロセス編』、谷富夫・山本努編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623058440						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	この授業では、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいた社会調査報告書を作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成のスキル、方法を身につけることが目的である。テーマは「大学生の価値観や生活環境」に焦点をあて、各自の興味関心に基づいて決める。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 (1) 量的調査および質的調査の技法を理解する。【知識・理解】 (2) 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（調査の進め方） 第2回 既存の文献調査 第3回 既存の文献調査 第4回 量的調査の検討① 第5回 量的調査の検討② 第6回 量的調査の検討③ 第7回 質的調査の検討① 第8回 質的調査の検討② 第9回 質的調査の検討③ 第10回 混合研究法の検討① 第11回 混合研究法の検討② 第12回 混合研究法の検討③ ※フィールドワーク 第13回 インタビュー調査項目の作成① 第14回 インタビュー調査項目の作成② 第15回 インタビューの実施						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、関連資料や時事問題について調べるなど、下調べをすること。＜2時間＞ 授業後学習：授業内で指示したテーマや扱われた事柄について復習し、インターネットや図書館で関連する書籍・情報を検索するなど、発展的学習を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	演習 テーマごとに資料分析、報告書の作成、プレゼンテーションについて学生が主体となって行う。また、インタビュー調査は学生や友人、家族、地域の人々に依頼をして調査対象者を確保し、アンケート調査やインタビュー調査の結果をまとめて分析し、報告書の作成を進める。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（40%） →到達目標(1)および(2)に対応 ・レポート（60%） →到達目標(1)～(3)に対応 授業内課題は、その次の授業で返却し解説する。レポートについては、到達目標(1)～(3)にしたがい、知識、能力、態度に関する評価および社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にもコメントを加え、より社会調査の技法が習得できるようにフィードバックを行う。						
履修上の注意	・授業への参加が重要なので出席、参加態度、姿勢を重視する。 ・資料やデータ収集のためフィールドワークを行う場合、交通費や入場料の実費負担がある。 ・欠席する場合は事前連絡を行うこと。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	授業中、適宜指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 また、このテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	本演習は、4年次の卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。 原則的には個別指導とし、研究の内容によって調査、試作（調理）、実験をグループで行う。 成果は授業終了時に発表し、演習の仕上げとする。						
到達目標	1) 次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について理解する。【知識・理解】 2) 新商品提案などに必要とされる試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。 【知識・理解】【汎用的技術】 3) 成果をレポートにまとめ、さらに効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技術】 4) 自身の持つ興味・関心を具体的な研究テーマに反映することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 効率的な研究計画の立て方 第3回 文献の調査方法 第4回 学術論文の読み方 第5回 研究テーマを決める 第6回 研究に必要な手法を探る 第7回 研究計画を立てる 第8回 各自の研究について 個別指導 第9回 各自の研究について 個別指導 第10回 各自の研究について 個別指導 第11回 各自の研究について 個別指導 第12回 各自の研究について 個別指導 第13回 各自の研究について 個別指導 第14回 各自の研究について 中間報告会 第15回 後期研究打ち合わせ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、中間報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料取集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験						
評価基準と評価方法	授業態度（30%）：到達目標2）4）の達成度の確認。 プレゼンテーション（70%）：到達目標1）2）3）4）の達成度の確認。						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合がある。 試作・実験時は2コマ続きの変則的な授業時間になる可能性もある。						
教科書	なし						
参考書	授業時に適宜紹介する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちにとってかけがえのない「都市」、そして現代の都市を支える「情報」について考察し、それを各自に引きつけて研究テーマを策定し、小論文レポートにまとめる。						
授業の概要	「都市」および「街」について自分でテーマを見つけ、研究する演習の授業。 都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、芸能、グルメやファッションといった、入り組んだ表現の変数群のひとつずつに着目し解釈する必要がある。 身近で具体的な都市、自分の地元となる街、魅力を感じるエリア、あるいは都市においてのさまざまな現象や流行から、それらの表現を抽出し考察することによって、代替不可能な独自の都市生活と都市文化を描き出す。						
到達目標	(1) 都市・街を読み解く感性が身につく。(汎用的技能) (2) 実際の都市のさまざまな様相をフィールドワークや質的社会調査を通じて体験、理解する。(態度・志向性) (3) 自分の「地元」となる「街」の都市情報を記述、編集し、発信することができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この演習の方法を説明します。 第2回 都市・街の読み解き方 第3回 都市・街の地方性 第4回 都市・街のでき方 第5回 おしゃれな街、おいしい街。神戸を例に 第6回 都市・街の表現、現象、流行 第7回 都市と郊外、都会といなか 第8回 広告空間、消費空間としての都市 第9回 情報化、記号化、ブランド化される都市・街 第10回 研究テーマの出し方 第11回 質的社会調査、取材、インタビューの方法 第12回 文献とどう接するか。文献を読むことと渉猟 第13回 レポートや小論文の書き方。文献の引用 第14回 研究テーマの作成 第15回 研究テーマの決定						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：都市や街(自分の地元や神戸が望ましい)の文物や都市文化、現象や流行について表現された文章、写真、アートなどを読むこと(学習時間90分) 授業後学習：実際に街に出て、歩き、見て、感じたことを書いたり、写真や動画を撮ったり、スケッチする=フィールドワーク(学習時間120分)						
授業方法	講義と各自またはグループでの演習、フィールドワークなどの質的社会調査。 研究テーマ策定とパワーポイントによる展開案作成。 manabaでのやりとりをこの演習のプラットフォームにします。 授業中のノートパソコン持ち込み使用を推奨します。						
評価基準と評価方法	試験は実施しません。研究テーマとその展開案60%。授業への参加意識と参画態度40%。						
履修上の注意	社会調査とくにフィールドワークを行う。 発言を求められたら、必ず発言すること。 3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。 神戸市街、あるいは受講者の地元などでのフィールドワークやインタビューの予定あり。交通費や入場料は実費負担となる。						
教科書	その都度、指定し、プリントも配布します。						
参考書	『新版 論文の教室 レポートから小論文まで』戸田山和久著、NHK出版、ISBN-10：4140911948 『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口浩之著、新曜社、ISBN-10：4788513455 『質的社会調査の方法 - 他者の合理性の理解社会学』岸政彦ほか著、有斐閣 ISBN-13: 978-4641150379 『歩いて読み解く地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社 ISBN978-4-7615-2707-5						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心をもつ領域で卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマ設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら実際に学生自ら実施し、レポートにまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。心理学実験の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。						
到達目標	1. グループで実験を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]						
授業計画	1. ガイダンス 2. レポートの書き方 3. 文献検索の仕方 4. 研究における留意点 5. テーマの設定 6. 実験計画法(1)-解説- 7. 実験計画法(2)-実施- 8. 心理学実験法(1)-解説- 9. 心理学実験法(2)-実施- 10. 実験の実施 11. データ処理(1)-解説- 12. データ処理(2)-実施- 13. 統計(1)-解説- 14. 統計(2)-実施- 15. まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこなう。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2<時間>)						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	なし。プリントを適宜配布する。						
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を応用し、地域貢献に結びつける。共同プロジェクトやイベントを通じて地域社会から学ぶ。						
授業の概要	神戸市の農業生産者等との共同プロジェクトとして、農産物を使ったコラボ商品を開発する。SNSを使って地域の農産物のプロモーション活動を行う。ネイチャークラフトワークショップを企画する。						
到達目標	プロジェクトの中で役割を果たしながら、得意なことを生かし、不得意なことにも向き合えるようになる。【態度・指向性】 都市生活専修で学んだ専門知識を再確認し、応用できるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：ガイダンス、花卉生産者との共同プロジェクト 企画打ち合わせ 第2回：花のカラーコーディネーション実習① 第3回：花のカラーコーディネーション実習② 第4回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト① カラーコンサルタント資料作成 第5回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト② カラーコンサルタント資料作成 第6回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト③ カラーコンサルタント資料作成 第7回：伊川谷花き生産者との共同プロジェクト④ カラーコンサルタント資料プレゼンテーション 第8回：花の楽しみ方の情報発信① 第9回：花の楽しみ方の情報発信② 第10回：花の楽しみ方の情報発信③ 第11回：花の楽しみ方の情報発信④ 第12回：ネイチャークラフトワークショップの企画 第13回：ネイチャークラフトワークショップの準備① 第14回：ネイチャークラフトワークショップの準備② 第15回：ネイチャークラフトワークショップの準備③						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外実習（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）						
授業方法	演習、実験、実習、学外実習						
評価基準と評価方法	平常点80%、課題20% 平常点はプロジェクト等への取り組みを総合的に評価する。						
履修上の注意	授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 交通費等自己負担あり。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習A						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。						
授業の概要	都市生活演習Aは、4年次に都市生活に関する領域の中から学生が関心を持つ領域で、卒業研究を行うために必要となる基本的な知識の習得および研究法の習得を目的としている。先行研究からテーマを設定する方法、研究方法の選択、得られたデータをまとめる方法などを学びながら、実際に学生自ら実施し、レポートをまとめ、発表する。それらの過程を通して、自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行できる基礎的な能力を身につけることが期待される。						
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるようになる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自己紹介① 第3回 自己紹介② 第4回 論文とは：論文とは、論文の構成、本論のまとめ方、3種類の文 第5回 序論、本論、結論：序論、本論、結論の役割 第6回 研究とは：研究に始めるにあたって、研究テーマの決定、研究の目的と学術的意義、問題の立て方と回答様式 第7回 図書館とインターネットを使った資料収集① 第8回 図書館とインターネットを使った資料収集② 第9回 論文作成のルール① 第10回 論文作成のルール② 第11回 課題提出の準備① 第12回 課題提出の準備② 第13回 課題提出の準備③ 第14回 課題提出の準備④ 第15回 卒業論文第1節の提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、課題提出の準備を進めること（学習時間：2時間）						
授業方法	各回のテーマに即した課題に個人あるいはグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（50%）：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。 ・卒業論文第1節の提出（50%）：卒業論文第1節の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の遅延などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	①地域活性化につながるブランド・マーケティングの在り方を理解し、商品企画・開発を目指す。 ②社会の変化を捉え消費者のニーズを把握する。						
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 【テーマ】 神戸のみならず、他府県の抱える課題について取り組み、解決策を導く。 前期と同様に、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を把握し、その上で自らの企画を提案する。その提案には、行政をはじめ関連業界の担当者や実務家の前で実践することを目指す。						
到達目標	①商品の企画・立案の方法を学び、より具体的に実践することができる。(態度・志向性) ②マーケティングの方法論をどのように実践するのか理解することができる。(知識・理解) ③調査データを読み取り、具体的な商品につなげることができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回. アイデア創出方法 第2回. グループディスカッションでアイデアをまとめる 第3回. 商品開発の企画・立案の方法①(制作) 第4回. 商品開発の企画・立案の方法②(プレゼン) 第5回. マーケティングの企画書作成(マーケティングの理論展開) 第6回. 本調査実施①(フィールドワーク): アイデアのまとめ方 第7回. 本調査実施②(フィールドワーク): アイデアと理論展開の関係性 第8回. 本調査分析(データ入力と集計、分析)① 第9回. 本調査分析(データ入力と集計、分析)② 第10回. 中間プレゼンテーション① 第11回. 中間プレゼンテーション② 第12回. 企画書作成 第13回. プレゼン準備と最終確認 第14回. 最終プレゼン発表① 第15回. 最終プレゼン発表②						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【授業前】課題設定をしっかりと行うために、人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に変化していることの観察力を磨いておくこと。またプレゼンテーションの知識を身につけていくために練習をし、レポートにしてまとめておくこと(学習時間: 2時間) 【授業後】ディスカッションを通して、分析や調査方法などを考え、アイデアをまとめていく(学習時間: 2時間)						
授業方法	演習 ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィールドワークを取り入れる。						
評価基準と評価方法	企画力(アイデア出し)(20%)、グループディスカッション(20%)、レポート(30%)、プレゼン発表などによる総合評価(30%)						
履修上の注意	①グループ作業をするので各自責任を持って挑んでください。 ②授業への積極的な参加が重要。 ③データ収集や現場視察のため学外実習もある。入場料や交通費などは自己負担となる。 ④好奇心旺盛に楽しむことが必要! ⑤固定観念を持たないで前に進みましょう。 アクティブラーニングを積極的に取り入れる。 ⑦学外実習に伴う交通費や入館料、参加費等は自己負担となる。						
教科書	なし(必要に応じて資料を配布する)						
参考書	随時紹介する(参考書リストは授業中に配布します)						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	本授業は、社会調査の企画から実査、分析、報告書作成、プレゼンテーションに至る一連の過程を実践的に習得する。						
授業の概要	この授業では、社会調査の手法を用いてデータを収集し、現代社会における人々の意識や行為を実証的に把握することを目的とする。「都市生活演習B」では、量的調査法を用いてデータを収集しデータの分析・考察を行う。調査結果は授業内で報告した後、報告書としてまとめる。これら一連の過程を通じ、実証研究の知識や技能を習得し、論理的思考力を養う。尚、本授業の調査テーマは「現代女性のライフスタイル」である。						
到達目標	この演習を通じ、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法の習得を目指す。 (1) 量的調査の専門的な知識と技法を理解する。【知識・理解】 (2) 量的調査の企画から実査、分析、報告まで実際に行うことができる。【汎用的技能】 (3) 社会調査に積極的に参加し、社会の実情を把握することができる。【態度・志向】						
授業計画	第1回 アンケート調査の質問項目検討(1) 第2回 アンケート調査の質問項目検討(2) 第3回 アンケート調査のデータ整理 第4回 アンケート調査の分析(1) 第5回 アンケート調査の分析(2) 第6回 アンケート調査の分析(3) 第7回 中間報告の準備 第8回 中間報告 第9回 報告書の構成/仮報告書の作成(1) 第10回 仮報告書の作成(2) 第11回 仮報告書の作成(3) 第12回 仮報告書の返却 第13回 報告書の仕上げ(1) 第14回 報告書の仕上げ(2) 第15回 最終報告書の提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：調査に関する資料収集。<2時間> 授業後学習：授業で出された課題に取り組む。<2時間>						
授業方法	授業は演習形式で行う。まず、少人数のグループに分かれ、グループのテーマに関する既存データを収集・読解し課題設定を行う。次に、設定した課題に基づいて質問項目を作成した後、調査を実施しデータを収集する。収集したデータはエクセルで整理・図表化し、分析・考察を行う。最終的に、まとめた内容はパワーポイントを用いて報告するほか、報告書としてまとめる。						
評価基準と評価方法	授業態度(10%)：授業に主体的に取り組んでいるかを評価。到達目標(3)の確認。 授業の課題(10%)：調査の手続き・技法に基づいて課題に取り組んでいるかを総合的に評価。到達目標(1)(2)の確認 授業内での中間報告(40%)：報告態度や内容を総合的に評価する。到達目標(1)(2)の確認。 報告書(40%)：社会調査の知識・技法の習得や報告書の内容を基に総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)の確認。						
履修上の注意	出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 学外でのフィールドワークに伴う交通費などの実費負担がある。						
教科書	適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』、大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著、ミネルヴァ書房、2016、ISBN9784623066544 『小論文・レポートの書き方——パラグラフ・ライティングとアウトラインを鍛える演習帳』、野田直人、人の森、2020、ISBN9784990717018						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。						
授業の概要	この授業では、実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生たちにとって身近な生活のテーマである「若者の仕事観、文化的価値観」に焦点をあてる。						
到達目標	この演習は、4年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。 (1) 量的調査および質的調査の技法を理解する。【知識・理解】 (2) 既存の調査の2次分析及び比較、新規の調査の計画・実施・分析・報告ができる。【汎用的技能】 (3) フィールドワークに積極的に参加し、問題解決の提案を積極的に行う。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 インタビューの実施 第2回 収集データのファイル作成① 第3回 収集データのファイル作成② 第4回 収集データの検討① 第5回 収集データの検討② 第6回 収集データの検討③ 第7回 データの集約と分析結果の検討① 第8回 データの集約と分析結果の検討② ※フィールドワーク 第9回 調査報告書の作成① 第10回 調査報告書の作成② 第11回 調査報告書の作成③ 第12回 調査報告書の発表① 第13回 調査報告書の発表② 第14回 プレゼンテーション準備 第15回 最終プレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業外学習：調査に関する資料を収集する。<2時間> ・収集データのファイルや報告書の作成については授業外の時間も活用すること。<2時間>						
授業方法	演習 テーマごとに小グループを作り、資料分析、報告書の作成、プレゼンテーションについて学生が主体となって行う。また、インタビュー調査は学生や友人、家族、地域の人々に依頼をして調査対象者を確保し、アンケート調査やインタビュー調査の結果をまとめて分析し、報告書を作成し、社会調査士の資格取得のため社会調査協会へ調査報告書を提出する。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題 (40%) →到達目標(1)および(2)に対応 レポート (60%) →到達目標(1)～(3)に対応 授業中の課題については、その次の授業で返却し解説する。レポートについては、到達目標(1)(2)(3)にしたがい、知識、能力、態度に関する評価及び社会調査報告書としての完成度を評価する。報告書の作成途中にも、コメントを加えより社会調査の技法が習得できるようにフィードバックを行う。						
履修上の注意	・授業への参加が重要なので出席、参加態度、姿勢を重視する。 ・資料やデータ収集のためフィールドワークを行う場合、交通費や入場料の実費負担がある。 ・欠席する場合は事前連絡を行うこと。						
教科書	プリントを配付する						
参考書	授業中、適宜指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通じて地域の活性化に貢献することができる新しい商品の提案や食品素材の提案を行う。 またこのテーマを遂行するためのプレゼンテーション技術や論理的な思考に基づいた提案方法を修得する。						
授業の概要	本演習は、都市生活演習Aでの成果をもとに、さらに複雑な調査や実験を実施することが可能になるような知識と技術の習得を目的としている。 これにより、4年次の卒業研究を行うために必要となる知識の習得および研究法の習得を目指す。原則的には各自で設定したテーマを個別指導するが、研究の内容によっては調査、試作（調理）、実験をグループで行う。						
到達目標	1) 次年度の卒業研究に必要な種々の調査方法について適切に選択できる。【知識・理解】 2) 試作、実験の方法などの知識と技術を基礎から積み上げ、修得する。【知識・理解】 3) 成果をまとめ、効果的なプレゼンテーションができる。【汎用的技能】 4) 食に関わる事柄について興味・関心を持ち、自身の研究テーマを設定できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 各自の研究について 個別指導 第2回 各自の研究について 個別指導 第3回 各自の研究について 個別指導 第4回 各自の研究について 個別指導 第5回 各自の研究について 個別指導 第6回 各自の研究について 個別指導 第7回 各自の研究について 個別指導 第8回 研究のまとめ方について 第9回 報告会 準備 第10回 報告会 準備 第11回 報告会 準備 第12回 報告会 準備 第13回 報告会 準備 第14回 報告発表会 第15回 まとめ 次年度卒業研究にむけて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習科目のため、原則として授業時間内にデータ整理、考察などのすべての学習を行う。 ただし、報告会（プレゼンテーション）のための準備（資料収集・レジュメ作成）は授業外に行う。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義、演習、実習、実験 実験・実習に関しては曜日・時限を変更して2コマ連続で実施する場合がある。						
評価基準と評価方法	授業態度（70%）：積極性、協調性などで評価する。到達目標2）、4）の確認。 プレゼンテーション（30%）：報告会の準備・プレゼンテーション及び質疑応答の的確さについて総合的に評価する。到達目標1）3）4）の確認。						
履修上の注意	研究テーマによってはフィールドワークなど、授業外の時間も使う場合あり						
教科書	なし						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	私たちにあってかけがえのない「都市」、そして現代の都市を支える「情報」について考察し、それを各自に引きつけて研究テーマを策定し、小論文レポートにまとめる。						
授業の概要	「都市」および「街」について自分でテーマを見つけ、研究する演習の授業。 都市を解読することは、都市空間、店舗、デザインや音楽、芸能、グルメやファッションといった、入り組んだ表現の変数群のひとつずつに着目し解釈する必要がある。身近で具体的な都市、自分の地元となる街、魅力を感じるエリア、あるいは都市においてのさまざまな現象や流行から、それらの表現を抽出し考察することによって、代替不可能な独自の都市生活と都市文化を描き出す。						
到達目標	(1) 都市・街を読み解く感性が身につく。(汎用的技能) (2) 実際の都市のさまざまな様相をフィールドワークや質的社会調査を通じて体験、理解する。(態度・志向性) (3) 自分の「地元」となる「街」の都市情報を記述、編集し、発信することができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 前期・都市生活演習Aで決定した研究テーマの再検討 第2回 研究テーマの再検討2 第3回 社会調査、フィールドワークの準備 第4回 社会調査、フィールドワークの実施1 第5回 社会調査、フィールドワークの実施2 第6回 研究テーマの確認と調整 第7回 小論文を書くことについて 第8回 小論文の構成1 第9回 小論文の構成2 第10回 研究テーマの再確認と再調整 第11回 調査報告発表の準備1 第12回 調査報告発表の準備2 第13回 調査報告発表1 第14回 調査報告発表2 第15回 調査報告発表3						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：都市や街(自分の地元や神戸が望ましい)の文物や都市文化、現象や流行について表現された文章、写真、アートなどを読むこと(学習時間90分) 授業後学習：実際に街に出て、歩き、見て、感じたことを書いたり、写真や動画を撮ったり、スケッチする(学習時間120分)						
授業方法	講義と各自またはグループでの演習、フィールドワークなどの質的社会調査。 研究テーマ策定とパワーポイントによる展開案作成。 パワーポイントのシートに対応したワードによるレポート文章作成。 manabaでのやりとりをこの演習のプラットフォームにします。 授業中のノートパソコン持ち込み使用を推奨します。						
評価基準と評価方法	研究テーマとその展開案60%。授業への参加意識と参画態度40%。						
履修上の注意	社会調査とくにフィールドワークを行う。 発言を求められたら、必ず発言すること。 3分の2以上の出席に満たない学生には単位を認めません。 神戸市街、あるいは受講者地元でのフィールドワークやインタビューなどの予定あり。交通費や入場料は実費負担となる。						
教科書	その都度、指定し、プリントも配布します。						
参考書	『新版 論文の教室 レポートから小論文まで』戸田山和久著、NHK出版、ISBN-10 : 4140911948 『コピペと言われないレポートの書き方教室』山口浩之著、新曜社、ISBN-10 : 4788513455 『質的社会調査の方法 ― 他者の合理性の理解社会学』岸政彦ほか著、有斐閣 ISBN-13: 978-4641150379 『歩いて読み解く地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社 ISBN978-4-7615-2707-5						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学研究法の習得						
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Aの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大しレベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマに関する研究の計画を立て実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。 心理学調査の心理学研究法に関する演習であり、心理学に関する研究法の基礎知識の習得を目的とする。						
到達目標	1. グループで調査を立案し、計画的に進めていくことができる。[態度・志向性] 2. 先行研究からテーマを考え、データを図表にまとめ、統計処理をおこない、レポートにまとめたり発表することができる。[汎用的技能][態度・志向性]						
授業計画	1. ガイダンス 2. 実験計画法(1)-解説- 3. 実験計画法(2)-実施- 4. 心理学調査法(1)-評価対象について- 5. 心理学調査法(2)-評価項目について- 6. 心理学調査法(3)-評価用紙の作成- 7. 調査(1)-準備- 8. 調査(2)-実施- 9. データ処理(1)-解説- 10. データ処理(2)-逆転項目の処理- 11. 統計(1)-記述統計の方法- 12. 統計(2)-推測統計の方法- 13. 統計(3)-多変量解析の方法- 14. 報告 15. まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献講読、調査や発表の準備をおこなう。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業時間で仕上がらなかった実験のまとめや、レポートを作成する。(学習時間：2<時間>)						
授業方法	実習・演習形式でおこなう。 授業は一連の研究の流れに沿って進める。先行研究からテーマ設定する方法、実験計画法、実際に実験もしくは調査を行う際の心理学実験法、得られたデータ処理に関する統計処理法を教員が解説した後に、学生がグループでその手続きに則って実施し、レポートにまとめ、発表し、それに対しさらに教員が解説を加え定着を図る。 manabaを利用し小テストやアンケートなどにデータ入力をおこなう授業回もある。						
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(40%)：グループ活動における積極性、協調性を評価する。到達目標1に関する到達度の確認。 レポート(60%)：図表の適切さ、統計処理の適切さを、考察の論理性を評価する。到達目標2に関する到達度の確認。松蔭manabaに提出された課題は松蔭manabaでフィードバックする。						
履修上の注意	毎回出席することが原則である。都合により欠席する場合は、教員に事前に連絡し、次回までに補っておくようにする。 必要な資料やデータの収集のため、学外で授業を行う場合があるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	なし。プリントを適宜配布する。						
参考書	「心理学マニュアル 要因計画法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821967 「心理学マニュアル 質問紙法」 北大路書房 ISBN: 978-4762821097						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活での学び（主に衣生活学系の科目および色彩学）を生かした地域連携活動の実施						
授業の概要	神戸市の農業生産者等との共同プロジェクトとして、ウールの原毛の活用した製品の試作、花卉生産者と共同開発した花苗のプロモーション活動と、花苗を使った大学構内の色彩計画と行う。また、卒業研究のテーマ設定に関する課題に取り組む。						
到達目標	都市生活専修で学んだ専門知識を応用して、地域連携活動を計画することができる。【汎用的技能】 地域連携活動やワークショップを通して、実践的態度を養い新たな視点を得る【態度・指向性】 卒業研究のテーマ設定に向けて文献調査等を行い、方向性を定める【態度・指向性】						
授業計画	第1回：地域連携1～摩耶山のイベント準備（ネイチャークラフト） 第2回：地域連携2～灘区のイベント準備（ビオラ苗の寄せ植えワークショップ）① 第4回：地域連携2～灘区のイベント準備（ビオラ苗の寄せ植えワークショップ）② 第5回：地域連携2～灘区のイベント準備（ビオラ苗の寄せ植えワークショップ）③ 第6回：地域イベント（寄せ植えワークショップ） 第7回：松蔭中高バザー、松蔭祭、販売店でのイベント準備① 第8回：松蔭中高バザー、松蔭祭、販売店でのイベント準備② 第9回：地域連携活動のプロモーション活動① 第10回：地域連携活動のプロモーション活動② 第11回：ゲストスピーカーによる寄せ植え講座 第12回：ウールの原毛の活用③ 第13回：地域連携活動の振り返り、自己評価 第14回：卒業研究に向けてのディスカッション① 第15回：卒業研究に向けてのディスカッション②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	企画案作成と試作品と商品の製作（2時間） 学外実習（時期はプロジェクトの進捗状況等による）や時間外の活動など、授業時間外（土日）の学習（2時間）						
授業方法	演習、実習、学外実習、ゲストスピーカーによるワークショップ						
評価基準と評価方法	平常点:80点、課題:20点 平常点はプロジェクト等への参加度、課題への取り組み等を総合的に評価する。						
履修上の注意	授業時間外の活動にも可能な限り参加すること。 交通費等自己負担あり。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活演習B						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバー	U0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家計レベルから世界レベルまで、各自の関心に合わせた経済問題に取り組み、その過程で経済的知識とその実践手法の修得を目指す。						
授業の概要	都市生活演習Bは、都市生活演習Aの成果をもとに、さらに都市生活に関する複雑な調査や実験を実施することが可能になるよう、規模を拡大し、レベルアップした研究法を習得し、実行力を身につけることを目的としている。規模の拡大に伴い、複数の学生で協力して実行していく場合もある。それらの過程を通して、最終的には自分で都市生活に関わるテーマを選び、その研究計画を立てて実行でき、発展させることのできる能力を身につけることが期待される。						
到達目標	(1)「社会にどのような経済問題が存在するかを見つけ出し、その原因を明らかにするために、どのような理論・データ分析が必要になるかを理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「各自が取り組んでいる経済問題を具体的かつ詳細に説明できるようになる」【汎用的技能】 (3)「各自が4年次で作成する卒業論文のために必要な研究手法を修得することができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 先行研究のレビュー：先行研究と文献情報、文献情報の把握、先行研究の内容点検、先行研究の整理・要約 第3回 理論と分析枠組：理論、分析枠組 第4回 コピペ、引用、脚注：コピペ、文化庁の「引用における注意事項」、本学のガイドライン「論文・レポート・作品等提出に関する注意」、引用、脚注、WORDでの脚注と文末脚注の挿入 第5回 テーマ発表の準備① 第6回 テーマ発表の準備② 第7回 テーマ発表の準備③ 第8回 テーマ発表① 第9回 テーマ発表② 第10回 テーマ発表③ 第11回 課題提出の準備① 第12回 課題提出の準備② 第13回 課題提出の準備③ 第14回 課題提出の準備④ 第15回 卒業論文第2節の提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：研究テーマの内容を見直し、課題提出の準備を進めること（学習時間：2時間）						
授業方法	各回のテーマに即した課題に個人あるいはグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（50%）：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・テーマ研究の発表（10%）：テーマ研究の内容を評価するとともに、到達目標(2)および(3)の達成度を確認する。 ・卒業論文第2節の提出（40%）：卒業論文第2節の内容を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 神戸の食文化と街の成長と発展① 第3回 神戸の食文化と街の成長と発展② 第4回 神戸の食文化の発展と課題について考える— 疑問を抱きながら問題意識を高めていく — 第5回 神戸の産業①：食と観光と貿易 第6回 神戸の産業②：経済関連 第7回 神戸市の抱える課題 (食と産業、観光の面から) (ゲストスピーカー) (UB合同) 第8回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第9回 フィールドワーク (企業訪問) (UB合同) 第10回 社会科学の研究手法①：テーマ設定 第11回 社会科学の研究手法②：構想固め 第12回 社会科学の研究手法③：課題発見 (企画・立案) 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 前期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと (学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること (学習時間：2時間)						
授業方法	各回のテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題 (40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標 (1) および (2) の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表 (60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標 (1) および (3) の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介① 第3回 自己紹介② 第4回 都市二まちを記述・表現することの基礎 (UL合同) 第5回 社会学とは (UL合同) 第6回 経済学とは (UL合同) 第7回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第8回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第9回 社会科学の研究手法③：事実確認 第10回 社会科学の研究手法④：論理的解釈と結論 第11回 パワーポイントの使い方 第12回 プロジェクトの決定① 第13回 プロジェクトの決定② 第14回 プロジェクトの決定③ 第15回 プロジェクトの決定④						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと（学習時間：2時間） ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること（学習時間：2時間）						
授業方法	各回のテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題（40%）：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表（60%）：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介① 第3回 自己紹介② 第4回 都市一まちを記述・表現することの基礎 (UL合同) 第5回 社会学とは (UL合同) 第6回 経済学とは (UL合同) 第7回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第8回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第9回 社会科学の研究手法③：事実確認 第10回 社会科学の研究手法④：論理的解釈と結論 第11回 パワーポイントの使い方 第12回 プロジェクトの決定① 第13回 プロジェクトの決定② 第14回 プロジェクトの決定③ 第15回 プロジェクトの決定④						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回のテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習A						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U0207A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Aの目的は、自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てるとともに、個々の研究テーマにそくした基本的な技法、論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることにある。						
授業の概要	前半は自己分析を行い、現在の自分の力を認識し、将来の進路に基づきどのような力をつけるべきかについて計画を立てる。その計画において3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすか分析する。あわせて個々の研究テーマにそくした研究の基本的な技法の習得を目指し、文章理解力、文章作成能力、資料解釈力、数理的基礎力など基礎的な力を獲得する。後半はグループ討議・発表、個別調査などの授業形式を用いつつ、専門分野のレポート・実験ノート、論文作成の手法を身につける。						
到達目標	(1)「個々の研究テーマにそくした基本的な技法を習得することができる」【知識・理解】 (2)「論文、レポート、実験ノートの作成手法を身につけることができる」【汎用的技能】 (3)「自己分析を行い、3年次演習が設定しているテーマがどのような役割を果たすかを念頭に置いて、将来の進路に基づいた学習計画を立てることができるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UL合同) 第2回 自己紹介① 第3回 自己紹介② 第4回 都市一まちを記述・表現することの基礎 (UL合同) 第5回 社会学とは (UL合同) 第6回 経済学とは (UL合同) 第7回 社会科学の研究手法①：テーマと問題意識の設定 第8回 社会科学の研究手法②：先行研究のサーベイ 第9回 社会科学の研究手法③：事実確認 第10回 社会科学の研究手法④：論理的解釈と結論 第11回 パワーポイントの使い方 第12回 プロジェクトの決定① 第13回 プロジェクトの決定② 第14回 プロジェクトの決定③ 第15回 プロジェクトの決定④						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションすること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回のテーマに即した課題にグループワークによって取り組むこと。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：リアクションペーパーで内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：リハーサルおよび本発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス (UB合同) 第2回 社会科学の研究手法①：先行研究の把握 第3回 社会科学の研究手法②：事実確認と論理的解釈 第4回 研究テーマの設定と準備① 第5回 研究テーマの設定と準備② 第6回 中間プレゼンテーション① (UB合同) 第7回 中間プレゼンテーション② (UB合同) 第8回 最終プレゼンテーションに向けての内容の修正 第9回 調査実施 (調査票作成) 第10回 調査実施 (分析と結果) 第11回 定性的調査の方法 第12回 定性的調査の実践 第13回 プレゼンテーション①：チーム発表 (UB合同) 第14回 プレゼンテーション②：チーム発表 (UB合同) 第15回 後期のまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと (学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること (学習時間：2時間)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 学外研修・見学③ 第5回 プロジェクトの発表準備① 第6回 プロジェクトの発表準備② 第7回 プロジェクトの発表準備③ 第8回 プロジェクトの発表準備④ 第9回 プロジェクトの発表準備⑤ 第10回 プロジェクトの発表準備⑥ 第11回 プロジェクトの発表① 第12回 プロジェクトの発表② 第13回 プロジェクトの発表③ 第14回 プロジェクトの発表④ 第15回 プロジェクトの発表⑤						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：2時間)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 学外研修・見学③ 第5回 プロジェクトの発表準備① 第6回 プロジェクトの発表準備② 第7回 プロジェクトの発表準備③ 第8回 プロジェクトの発表準備④ 第9回 プロジェクトの発表準備⑤ 第10回 プロジェクトの発表準備⑥ 第11回 プロジェクトの発表① 第12回 プロジェクトの発表② 第13回 プロジェクトの発表③ 第14回 プロジェクトの発表④ 第15回 プロジェクトの発表⑤						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：2時間)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活プロジェクト演習B						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U0207B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市生活プロジェクト演習Bの目的は、都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、プロジェクトをデザインする力を身につけるとともに、問題解決能力を高め、3年次演習で取り組むべき具体的な課題を発見することにある。						
授業の概要	都市生活プロジェクト演習Aで習得した基本的な力を土台として、さらにプロジェクトをデザインする力を身につける。3年次の演習の内容を紹介しつつ、たとえば、ゲストスピーカーを招いたり、現地調査(フィールドワーク)を組み入れたりするなど、問題解決能力を高める授業を展開する。問題の発見、問題の明確化、情報の収集、アイデアの創出、アイデアの評価、解決策の提示といった過程において、3年次の演習で取り組むべき具体的な課題を、受講生ひとりひとりが主体的に発見し決めていくことになる。						
到達目標	(1)「プロジェクトをデザインする力を身につけることができる」【知識・理解】 (2)「問題解決能力を高めることができる」【汎用的技能】 (3)「3年次演習で取り組むべき具体的な課題を見つけ出すことができる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 学外研修・見学① 第3回 学外研修・見学② 第4回 学外研修・見学③ 第5回 プロジェクトの発表準備① 第6回 プロジェクトの発表準備② 第7回 プロジェクトの発表準備③ 第8回 プロジェクトの発表準備④ 第9回 プロジェクトの発表準備⑤ 第10回 プロジェクトの発表準備⑥ 第11回 プロジェクトの発表① 第12回 プロジェクトの発表② 第13回 プロジェクトの発表③ 第14回 プロジェクトの発表④ 第15回 プロジェクトの発表⑤						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：研究テーマに関係する文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：研究テーマの内容をグループでディスカッションし、成果発表の準備を進めること(学習時間：2時間)						
授業方法	グループワークあるいは実習・フィールドワークによって、各プロジェクトチームがそれぞれ設定したテーマに取り組み、最終的にその成果発表(プレゼンテーション)を行う。						
評価基準と評価方法	・授業中の課題(40%)：成果発表までの取り組み姿勢とリアクションペーパーの内容を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・プロジェクトの成果発表(60%)：中間発表および最終発表の内容を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。原則として欠席は認めない。 ・欠席した場合は、必ず担当者に相談すること。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・必要な資料やデータの収集のため、学外でフィールドワークを行うことがある。それにかかる入場料や交通費などは実費負担。						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U01050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観し、具体的な都市を読み解く。						
授業の概要	前半は、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例(=駅前など)を取り上げながら、「まちを読み解く」ことを主眼に、都市の成り立ちも含めたハード面や、都市生活上のソフト面を解説し、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。 後半は、都市生活の基底、すなわち高度に発達した情報システムを軸とした消費社会と欲望、資本制と価値、交換・贈与、公共、都市生活における実名性と匿名性などから、都市生活〜文化を考察する基礎知識と態度を身につける。						
到達目標	(1) 近代〜現在の都市生活を知り、自分にとっての「まち」を考察することができる。(知識・理解) (2) 高度情報化社会の中の「まち」を情報化、記述し、都市情報を発信することができる。(知識・理解) (3) 「まちづくり」に参画することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 この都市生活論で学ぶこと 第2回 まちを読み解く1 「まちヨミ」してみよう(まちを読み解いていこう) 第3回 まちを読み解く2 「まちヨミ」の切り口。何から読み解くか 第4回 まちを読み解く3 みなさんの「駅前」から読み解く→中間試験 第5回 まちのでき方。大阪/アメリカ村・南船場・堀江・中崎町 神戸/トアウエスト・乙仲通りを例に 第6回 インターネットが都市生活に入ってきた 第7回 コンビニ的消費社会と都市空間 第8回 情報化、記号化、広告化される都市空間 第9回 「ブランドもの」から考える都市と消費社会 第10回 おカネと都市における交換と贈与システム 第11回 都市生活と消費者 第12回 都市生活と公共 第13回 「自分のまち」と居場所。実名性、匿名性 第14回 都市生活と情報リテラシー 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: あらかじめ授業計画のテーマについて、参考書を読み、自分なりの考察を深めておくこと(学習時間90分) 授業後学習: 街(例えば神戸や自分の居住地)についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること(学習時間120分)。						
授業方法	毎回、授業前にmanabaのコースコンテンツに、テキストや資料、レジュメなどをアップします。それをもとに授業を進めます。毎回授業が終わると、リアクションペーパーがわりの「レポート」をmanabaへオンラインで書いてください(書くテーマや字数は毎回指示します)。manabaがこの授業のプラットフォームになります。						
評価基準と評価方法	中間試験と期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答(コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	BYODを前提に講義をするので、ノートパソコンを持ち込んで利用すること。出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	その都度、manabaのコースコンテンツなどを通じて資料を用意します。						
参考書	『歩いて読み解く地域デザイン 普通のまちの見方・活かし方』山納洋著、学芸出版社 ISBN978-4-7615-2707-5 『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコプス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナル・スティグレル著、新評論 ISBN-10: 4794807430 『愛と経済のロゴス カイエ・ソバージュⅢ』中沢新一著、講談社選書メチエ、ISBN-10: 4062582600						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市文化演習						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U73130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地元神戸を題材にさまざまな視点から都市文化を考える。						
授業の概要	この授業では、地元である神戸を題材に都市文化のありようを考察する。具体的には、学生自身で神戸の都市文化に関するテーマを設定し、インタビュー調査や観察法などフィールドワークを用いてその実態を詳細に調べ、神戸独自の都市文化とはどのようなものか、なぜそのような文化が発展してきたのかを考える。						
到達目標	(1) 神戸の都市文化を理解する。【知識・理解】 (2) 神戸の都市文化の様々な様相をフィールドワークを通じて発見する。【態度・志向】 (3) 収集したデータに基づき、神戸の都市文化を読み解く力を身に付ける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 都市・街・文化の読み解き方 第3回 フィールドワークとは何か 第4回 テーマ設定(1) 神戸の都市文化をとらえる視点を考える 第5回 テーマ設定(2) / フィールドワークの準備(1) 第6回 フィールドワークの準備(2) 第7回 フィールドワークの実施(1) 第8回 フィールドワークによる調査データの整理(1) 第9回 フィールドワークによる調査データの整理(2) 第10回 フィールドワークの実施(2) 第11回 フィールドワークによる調査データの整理(3) 第12回 調査結果発表の準備(1) 第13回 調査結果発表の準備(2) 第14回 調査結果発表(1) 第15回 調査結果発表(2)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：神戸の歴史や文化に関する文献資料の収集・読解。<2時間> 授業後学習：実際に神戸の街を歩いて街の様子を観察する。<2時間>						
授業方法	演習形式で行い、作業はグループワークを中心に進める。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度(40%)：フィールドワークへの参加態度やグループワークへの取り組みについて評価。 到達目標(2)の確認。 調査結果報告(60%)：フィールドワークで得られたデータを基に神戸の都市文化を読み解き、発表できているかを評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。						
履修上の注意	出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 欠席者については、事前連絡者のみ翌週にレジメを渡す。 学外実習に伴う交通費などの実費負担がある。 新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはフィールドワークが実施できないことがある。 本科目は次年度以降「都市文化論」が引き継ぐ。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	『フィールドワーク増訂版——書を持って街へ出よう』、佐藤郁哉、新曜社、2007、ISBN9784788510302						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市文化論						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	U12060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	都市に生成する文化を様々な視点から考える。						
授業の概要	この授業では、都市の文化を様々な視点に基づいて調査しそのありようを考える。人口や産業が集中する都市では、消費、流行、メディアなどにおいて独自の文化を形成してきた。こうした都市に生成する「都市文化」の諸相を、学生自ら独自の視点でとらえ現代の都市文化について考える。						
到達目標	(1) 都市文化とは何かを理解する。【知識・理解】 (2) 都市文化の様々な様相について、特定の視点に基づいてフィールドワークを通じて発見する。【態度・志向】 (3) 収集したデータに基づき、都市文化を読み解く力を身に付ける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 「都市」とは何か、「文化」とは何か 第3回 「都市文化」ととらえる視点 第4回 テーマ設定 第5回 フィールドワークの準備 第6回 フィールドワークの実施 第7回 フィールドワークによる調査データの整理(1) 第8回 フィールドワークによる調査データの整理(2) 第9回 都市文化を考える(1) 第10回 都市文化を考える(2) 第11回 都市文化を考える(3) 第12回 都市文化を考える(4) 第13回 都市文化を考える(5) 第14回 都市文化を考える(6) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：都市文化に関する文献資料の収集・読解。<2時間> 授業後学習：実際に都市を歩いて街の様子を観察する。<2時間>						
授業方法	講義と演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加態度(40%)：フィールドワークへの参加態度について評価。到達目標(2)の確認。 調査結果報告(60%)：フィールドワークで得られたデータを基に都市文化を読み解き、発表できているかを評価。到達目標(1)(2)(3)の確認。						
履修上の注意	出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 欠席者については、事前連絡者のみ翌週にレジメを渡す。 履修者の人数によってはグループワークを行う。 フィールドワークに伴う交通費などの実費負担がある。 新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはフィールドワークが実施できないことがある。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	『フィールドワーク増訂版——書を持って街へ出よう』、佐藤郁哉、新曜社、2007、ISBN9784788510302 『無印都市の社会学——どこにでもある日常空間をフィールドワークする』、近森高明・工藤保則編、法律文化社、2013、ISBN9784589035318						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	発酵学						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバ-	U73460
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発酵によって作られる様々な食品について、その製造原理、歴史、食文化的な背景を学ぶ。 本学の地元・灘における酒造りの歴史、製造技術の変遷について知識を深める。						
授業の概要	ヒトは古来から微生物を利用して発酵食品を作ってきた。本講義では、①微生物とヒトとの関わり方の歴史、②微生物の生物学的な分類および形態や性質の特徴、③発酵食品と食文化 について概説する。さらに、各種発酵食品の製造方法ならびに食文化的な背景について個別に解説する。						
到達目標	1) 微生物利用による食品製造についてその原理、利用する微生物の説明ができる。【知識・理解】 2) 各種発酵食品について、その食品の生まれた地域の気候、風土、食文化も併せて説明ができる。【知識・理解】 3) 地元・灘の日本酒製造の歴史を理解し、日本酒の製造法・品質管理について述べるができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 はじめに 発酵と腐敗 第2回 微生物の分類と性質 第3回 発酵食品と食文化 第4回 酒類 ①総説 第5回 酒類 ②清酒・焼酎 第6回 酒類 ③ビール・ワイン 第7回 酒類 ④ウイスキー・ブランデー・その他の酒類 第8回 発酵調味料 ①味噌・醤油 第9回 発酵調味料 ②食酢・みりん・魚醤油 第10回 その他の発酵食品 ①納豆・漬物・水産発酵食品 第11回 その他の発酵食品 ②発酵乳製品・パン 第12回 世界の発酵食品 現代の発酵技術を用いた食品製造 第13回 期末テスト 第14回 灘五郷の歴史と現在の酒造技術 (ゲストスピーカー招へい) 第15回 学外研修(酒蔵見学)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：学習項目についてあらかじめ決められた内容を調べ、プレゼンテーション資料を作成する。 また、学外研修の前には「灘五郷」の歴史について調べておく(学習時間：2時間) 授業後：授業時に配布したプリントを再度読み返し、指示した内容についてレポートにまとめる。 (学習時間：2時間)						
授業方法	松蔭manabaとzoomを使用する。 学外研修・ゲストスピーカーによる講義の際は対面授業となる。 講義：ただし、第4回から11回は各回テーマに沿った学生プレゼンテーションを行い、その発表をふまえて解説・講義を行う。 学外研修：日本の伝統的な酒造りと最新の醸造技術について見学する(所要時間：約4時間)。 <遠隔指定授業>						
評価基準と評価方法	レポート(40%)：灘五郷の歴史と地理的背景、日本酒の製造についてのレポートで評価する。 到達目標3)の確認。 期末テスト(50%)：到達目標1)2)の確認。 授業時の態度10%：主体的な学習が行われているかなどで評価する。到達目標1)、2)の確認。						
履修上の注意	学外研修は西郷(神戸市灘区大石付近)の酒蔵見学を予定している。交通費は各自負担となる。						
教科書	なし 授業時にプリントを配布						
参考書	発酵食品学 小泉武夫編著 講談社						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス演習						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U73070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「パーソナルファイナンス理論」に引き続き、パーソナルファイナンスの基礎知識を習得するとともに、ペアワークあるいはグループワークによってその実践能力を育成する。						
授業の概要	キャッシュフロー表を始めとしたファイナンシャルプランを作成するとともに、単利・複利、割引計算などの金利の知識を身につける。また、悪質取引などのケース分析、株式学習ゲーム、リスクマネジメントゲームなどを使い、金融制度や社会制度の理解をはかる。同時に、学生が主体的に問題を発見するために、ファイナンシャルクリニックを訪ね、インタビューすることによって、情報を収集し、ケーススタディやアンケート調査などの手法を使って、問題を分析する。グループで討議することによってコミュニケーション能力を高める。						
到達目標	(1)「パーソナルファイナンスを実践するために必要となる知識を具体例や数値計算によって理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特に不動産、相続・事業継承)を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「ペアワークあるいはグループワークによって、パーソナルファイナンスの実践を身近なものとして認識できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 不動産の基礎知識：不動産の種類と権利、不動産に関する調査、不動産価格に関する調査 第3回 不動産取引：宅地建物取引業法、不動産の売買契約、不動産の貸借契約 第4回 不動産に関する法令：都市計画法、建築基準法、区分所有法、農地法、国土利用計画法 第5回 不動産にかかる税金①：不動産取得税、登録免許税、消費税、印紙税、固定資産税、都市計画税 第6回 不動産にかかる税金②：譲渡税、不動産所得 第7回 不動産の有効利用：不動産の有効活用の種類、不動産投資と利回り、不動産の有効活用の事業方法 第8回 第2～7回のまとめと中間試験 第9回 マネープランニング・ゲーム①：20代、30代のマネープランニング 第10回 マネープランニング・ゲーム②：40代、50代のマネープランニング 第11回 贈与と法律、税金：贈与の意義と贈与契約、贈与の種類、民法の規定、贈与税の課税、財産と非課税財産、贈与税の計算、相続時精算課税制度、贈与税の申告と納付 第12回 相続と法律：相続人と相続分、代襲相続、遺産分割、相続の承認と放棄、遺言 第13回 相続税：相続税、相続税の課税財産、相続税の非課税財産、債務控除、相続税の計算、相続税の申告、相続税の納付 第14回 相続財産の評価：不動産以外の評価、不動産の評価 第15回 第11～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第2～7回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	パーソナルファイナンス理論						
担当教員	前田 直哉					科目ナンバ-	U73060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	個人がライフプランに基づいた目標を実現するために必要となるパーソナルファイナンスの基本的知識を習得する。						
授業の概要	個人がライフプランに基づいた目標を実現するために、合理的に資産・負債を管理する方法を学び、貯蓄や資金運用、ローン、年金、保険、税金、相続などの金融活動とそれに関連する市場や取引、商品サービスなどを学ぶことによって市民的資質を育成する。パーソナルファイナンスの領域として、個人の資産管理(ファイナンシャルプランの作成、資産の運用、借入、リスクへの備え)、金融制度の理解、経済環境の理解、社会制度の知識を身につける。						
到達目標	(1)「ライフプランに基づいた目標を達成する上での、パーソナルファイナンスの重要性を理解できるようになる」【知識・理解】 (2)「パーソナルファイナンスの基礎知識(特にタックスプランニング)を習得し、その具体的説明ができるようになる」【汎用的技能】 (3)「パーソナルファイナンスとは学生時代から実践できるものであると認識できるようになる」【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス～所得税の基本：税金の種類、所得税の基本 第2回 各所得の計算①：利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得 第3回 各所得の計算②：給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得 第4回 課税標準の計算：課税標準の計算、損益通算、損失の繰越控除 第5回 (ゲストスピーカー招聘予定) 第6回 所得控除①：基礎控除、配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除、障害者控除、寡婦(寡夫)控除、勤労学生控除、社会保険料控除 第7回 所得控除②：生命保険料控除、地震保険料控除、小規模企業共済等掛金控除、医療費控除、雑損控除、寄附金控除 第8回 税額の計算と税額控除：税額の計算、税額控除、復興特別所得 第9回 所得税の申告と納付：確定申告、源泉徴収、青色申告 第10回 第1～4回および第6～9回のまとめと中間試験 第11回 個人住民税、個人事業税：個人住民税の申告と納付、個人事業税の申告と納付 第12回 法人税の概要と計算①：法人税の基本、益金、損金 第13回 法人税の概要と計算②：法人と役員との取引、税額の計算、法人税の申告と納付、決算書、法人住民税と法人事業税、法人成りのメリットとデメリット 第14回 消費税：消費税の基本、納税義務者、税額の計算、消費税の申告と納付 第15回 第11～14回のまとめと定期試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前準備学習：各回授業で取り上げる内容とキーワードについて、その関係文献を図書館で見つけて、読み込むこと(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業内で指定したテーマ・課題についてレポートを作成し、松蔭manabaコースコンテンツに提出すること(学習時間：2時間)						
授業方法	各回設定のテーマについて講義し、練習問題を出す。その練習問題にペアワークあるいはグループワークによって答えること。						
評価基準と評価方法	・定期試験(30%)：第11～14回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(3)の達成度を確認する。 ・中間試験(30%)：第1～4回および第6～9回で取り上げた内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)および(2)の達成度を確認する。 ・平常点(40%)：リアクションペーパー(講義内容に基づいた練習問題)と松蔭manabaコースコンテンツへの提出物で内容の理解度を評価するとともに、到達目標(1)～(3)の達成度を確認する。						
履修上の注意	・欠席回数数が5回を超えた場合には、期末試験を受ける資格を与えない。 ・出席確認時に不在だった場合は、その回は欠席とする。 ・講義中に無許可で退出した場合は、欠席扱いとする。 ・公共交通機関の運休などでやむをえない事情により欠席したとき、証明書を提出した場合に限り、考慮の対象とする。						
教科書	特に使用しない。manabaに授業資料のファイルをアップするので、事前に必ずプリントアウトして、授業に持参すること。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	ヒューマンリソースマネジメント論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバー	U72570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の雇用、人材育成に関する問題について経営・社会学の視点から捉えていく						
授業の概要	現代社会の雇用をめぐる諸問題について概観し、企業を構成する「ヒト」に焦点をあて、企業の人材マネジメントの仕組みを学ぶ。授業では雇用管理、報酬管理、労使関係に注目しながら、若年層雇用問題や大卒就職活動など、学生の身近なテーマを取り扱い、キャリア開発についての理解を深めていく。また、企業の雇用システムの面から、働き方改革や、ワーク・ライフ・バランスについて学ぶことは、自分らしい生き方、働き方を考えるための重要な知識になるといえ、こうした視点からも課題について考察する。						
到達目標	(1)企業の雇用、人材育成に関する事柄を経営・社会学の視点から捉え、説明できる。【知識・理解】 (2)雇用や人材育成に潜むリスクについて理解し、適切な情報の収集、発信方法を習得、使用する。【汎用的技能】 (3)雇用や人材育成に対する興味をより具体的に意識し、議論することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入-企業の雇用問題とは- 第2回 学校から社会への移行問題 第3回 日本型人事制度・運用の特徴 第4回 労働者の義務と権利 第5回 賃金、報酬、労働時間の管理 第6回 労使関係管理 第7回 正社員雇用を考える 第8回 若年層雇用問題 第9回 大卒就職活動をめぐる諸問題 第10回 新卒採用と中途採用 第11回 労働のグローバル化 第12回 仕事とジェンダー 第13回 ワーク・ライフ・バランスの考え方 第14回 「働き方改革」について 第15回 まとめ-社員の企業におけるライフサイクル-						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・企業の雇用、人材育成に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと(学習時間:2時間)。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと(学習時間:2時間)。						
授業方法	講義を中心としつつ、グループワークやディスカッションを行う						
評価基準と評価方法	・課題試験70%:授業で扱った企業の雇用問題に対する理解度、若年層雇用に対する自らの興味・関心の明確性、具体性について評価するとともに、到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・レポート30%:内容についてのコメント、質問の記述の的確性を評価するとともに到達目標(1)から(3)に関する到達度の確認。 ・課題のフィードバックのコメントは、翌週授業において紹介、解説する。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72170
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。						
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。						
到達目標	代表的な被服材料の種類と特徴を説明することができる【知識・理解】 アパレル製品の消費性能と被服材料との関係を説明することができる【知識・理解】 身の回りのアパレル製品について、消費者の視点から考えを述べる【知識・理解】						
授業計画	第1回：はじめに 被服材料と消費性能 第2回：糸の種類と構造 1 糸の分類 第3回：糸の種類と構造 2 恒重式番手 第4回：糸の種類と構造 3 恒長式番手とより構造 第5回：布の組織と種類 1 織物 第6回：生地見本帳の作成 第7回：生地見本帳の説明 第8回：まとめと中間試験 第9回：布の組織と種類 2 編物 第10回：その他の被服材料 1 不織布、天然皮革 第11回：その他の被服材料 2 合成皮革、毛皮 第12回：その他の被服材料 3 レース、羽毛 第13回：復習と期末試験 第14回：まとめ 第15回：学外研修、課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、動画視聴、演習、学外研修（神戸ファッション美術館※予定）						
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回提出のリアクションペーパーの内容、演習課題等を評価する 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	1. 学外研修の交通費と入館料は自己負担。実施は授業時間外になることがある。 2. 履修の対象者 被服材料学実験を希望する場合は、被服材料学（講義）も履修しなければならない。 3. 前期開講の被服繊維学は、被服材料学の基礎となる内容なので、可能な限り受講することが望ましい。 4. 授業時に課題を出すことがあるので、積極的に取り組むこと						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U23130
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験						
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明し、よりよい衣生活に生かしていく上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。						
到達目標	測定器類の使い方を身につけ、正しく測定をすることができる。【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる。【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：繊維の鑑別—顕微鏡による繊維の観察 第2回：繊維の鑑別—繊維の燃焼性と比重 第3回：繊維の鑑別—染色法、混用率測定 第4回：糸の太さ 第5回：糸の撚り 第6回：織物の基本構造 第7回：編物の基本構造 第8回：織物の水分率 第9回：布の吸水性 第10回：布の防しわ性と剛軟性 第11回：布の保温性、糸の引張強さ 第12回：布の通気性と引き裂き強さ 第13回：布のドレープ性と摩擦強さ 第14回：布のピリング 第15回：布の撥水性、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点：40% レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。						
履修上の注意	1. 履修の対象者：被服材料学（講義）を履修した学生を対象とする。 2. 実験科目であるので、遅刻、欠席をしないようにすること。 3. 必要に応じて白衣を着用すること。 教員の連絡先：hana[at]shoin.ac.jp ※[at]を@に置き換える。 オフィスアワー：前期（月）13:10~14:40。後期（火）10:40~12:10（11号館2階の研究室）						
教科書	「衣服材料学実験」松梨久仁子、平井郁子 編著、朝倉書店 ISBN 9784254606348						
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院 ISBN 9784810311044						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服心理学						
担当教員	牛田 好美					科目ナンバ-	U72210
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えていきます。						
授業の概要	人が被服を着用する目的には、身体保護や体温調節など、身体内部の生理的平衡状態を保ち、生命維持や健康増進をめざすことがあります。それに加えて、社会的、心理的な目的もあります。すなわち、被服によって自己を確認したり、変身願望を充足させたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したり、性的なアピールをしたりします。この授業では、こうした社会的・心理的效果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考える力を養います。						
到達目標	(1)被服の社会的・心理的機能を理解することができる【知識・理解】 (2)日常生活をより良くするために、被服の社会的・心理的效果を考え、被服に関する行動を行うことができる【汎用性技能】						
授業計画	第1回 被服への社会心理学的アプローチ 第2回 被服と自己意識 (1) ボディ・イメージとは 第3回 被服と自己意識 (2) 社会で形成されるボディ・イメージ 第4回 被服と対人認知 (1) 印象形成 第5回 被服と対人認知 (2) 自己管理、自己呈示、役割理論 第6回 被服と非言語的コミュニケーション 第7回 被服と対人行動 第8回 被服と集団行動 第9回 被服とジェンダー 第10回 流行の普及と採用 第11回 個人発表 (1) 第12回 個人発表 (2) 第13回 個人発表 (3) 第14回 前期授業の質疑応答 第15回 前期試験とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。 授業前準備学習：各回授業で扱うテーマのキーワードについて下調べをする(学習時間2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間)						
授業方法	対面で行います。 主に、講義形式でおこないますが、テーマに沿った個人発表(プレゼンテーション)もおこないます。 必要に応じて資料を配布します。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(30%)、個人発表とレポート(40%)、試験(30%)により総合的に評価します。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパーの内容・記述的確さ等を評価します。 個人発表(プレゼンテーション)とレポート：授業内容から各自テーマを設定し、調べた内容を発表およびレポートにまとめ提出してもらいます。調べた内容の深さや広がりについて評価します。 試験：授業で扱ったテーマに対する理解度を評価します。						
履修上の注意	授業に関する連絡は、manabaのコースニュースを使用して行いますので、必ず確認してください。						
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ8 高木修(監修) 被服行動の社会心理学 神山進(編)北大路書房 ISBN:9784762821615						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明することができること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の洗浄理論を説明することができる【知識・理解】 ・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。【知識・理解】 ・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。【知識・理解】 						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習、衣料品の品質管理（ゲストスピーカー）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、動画視聴、ゲストスピーカーによる講義等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回提出のアクションペーパーの内容等を評価する 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中のアクションペーパーは、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士（ISBNなし）						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバー	U22110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	被服の洗濯・洗浄と染色に関する実験						
授業の概要	日常の被服管理において、洗濯は最も中心的な役割を果たす。本実験では、洗剤の主成分である界面活性剤の作用と洗濯の諸条件、色素の分解（漂白）や吸着（染色）、染色物の色の落ちにくさ（堅ろう度）に関する実験を行う。						
到達目標	実験器具の使い方を身につけ、正しく実験をすることができる【汎用的技能】 実験結果を読み取り、適切に評価・考察することができる【汎用的技能】 指定された方法に従ってレポートを作成することができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：界面現象 第3回：界面活性剤の性質と作用 第4回：石けんの製造 第5回：洗浄試験、水洗濯、ドライクリーニング 第6回：精練・漂白・増白 第7回：しみぬき 第8回：洗濯に伴うトラブル 第9回：西洋茜による染色 第10回：酸性染料、直接染料による染色と染色条件の検討 第11回：反応染料による三原色配合染色 第12回：分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第13回：建て染め染料による染色 第14回：染色堅ろう度試験 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成など、すべての学習をおこなう。ただし、授業時間内で完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	個人またはグループによる実験						
評価基準と評価方法	平常点：40%、レポート：60% 平常点には実験への取り組み、グループ内でのディスカッションへの参加度により総合的に評価する。						
履修上の注意	被服整理学も併せて履修すること。 遅刻、欠席をしないこと。 安全な靴を着用し、必要に応じて白衣を着用すること。						
教科書	テキスト（プリント）配布						
参考書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	U72160
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる【知識・理解】 ・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる【知識・理解】 ・着用目的に合った繊維素材を選択することができる【知識・理解】 						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する（1.5時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をまとめプリントで確認する（2.5時間）						
授業方法	講義、動画視聴等を含む。						
評価基準と評価方法	平常点:40%、試験:60% 平常点は各回提出のアクションペーパーの内容等を評価する。 試験は中間と期末の2回実施する。						
履修上の注意	授業中のアクションペーパーは、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U72500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物のおいしさについての基礎的な知識を持ち、食べる人がこの食に対して何を求めているのかの要望を察知してコーディネートすることを考える！（フードスペシャリストの資格試験科目）						
授業の概要	食に関する様々な場において複雑な状況を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することがフードコーディネートには求められている。その活動範囲は、家での食卓だけでなくレストランや食品を販売するスーパーやデパ地下、食に関する情報を発信するイベントやテレビ、広告などの企画、また知識や技術を伝達する食育、さらには店舗経営など極めて広い。 食に関する場面において満足できる状態を演出するということは、「美味しいものを食べる」だけでなく、「美味しいものを美味しく食べる」あるいは「美味しいものを美味しく食べさせる」ことであり、食物自体の美味しさに加えて食べる人の体調やその食物に対する心情、食べる環境などが関わる総合的な場面を構築することである。 そこで本講義では、世界無形文化遺産に登録された和食をはじめ、イタリアンや中国料理など世界各国の食生活や食文化を学び、昔の経験に基づいて築かれた伝統技術（例えば包丁の扱い方やテーブルマナー）や知識の理解を深め、食生活の楽しさを演出できる工夫を考える。 さらに昨今大きな課題である食育、食の安全性について現状を理解するとともに、なぜこのような問題が生じたのかを考えていく。						
到達目標	①食には幅広い役割（体をつくる役割、コミュニケーションを育むための場、教育の場、楽しむ場、その他）があることを理解し、実践出来るようになる。（態度・志向性） ②食教育で使用できる楽しい教材を考え、応用することができる。（知識・理解） ③楽しい食空間を演出できるようコーディネート力をつける。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 フードコーディネートの基本理念 第2回 食事の文化（日本の食事の歴史） 第3回 食事の文化（外国の食事） 第4回 食卓のコーディネート 第5回 食卓のサービスとマナー（日本料理のサービスとマナー） 第6回 食卓のサービスとマナー（中国料理・西洋料理・その他のサービスとマナー） 第7回 メニュープランニングの要件 第8回 食空間のコーディネート（理論） 第9回 食空間のコーディネート（実践：フィールドワーク） 第10回 フードサービスマネジメント（マネジメントの基本と起業する意義） 第11回 フードサービスマネジメント（投資計画の作成・収支計画の作成・売上） 第12回 食企画の実践コーディネート（食企画の流れ）プレゼンテーション 第13回 食企画の実践コーディネート（食企画に必要な基礎スキルと実践現場の現状）プレゼンテーション 第14回 食育の現状問題と課題 第15回 フードコーディネートの今後の課題とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、教科書の必要な箇所を読んでおくこと。また、食に関する資料を集めてまとめておくこと。（学習時間：2時間） 授業後：授業中に指示された内容を復習をし、出された課題についてレポートを作成する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義 ・課題解決型学修 ・実習（店舗視察と設計のため）を取り入れることもある。						
評価基準と評価方法	レポートとプレゼンテーション（各1回ずつ）20%、小テスト20%（1回）、期末テスト60%						
履修上の注意	①20分以上の遅刻は欠席扱いとする ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ②学外実習を行うこともある。それに伴う交通費や入場料などは自己負担となる。 ③アクティブラーニング（グループワーク、ディスカッション）を積極的に取り入れる。						
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「三訂 フードコーディネート論」ISBN:978-4-7679-0440-5						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	川口 真規子					科目ナンバー	U23490
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	フードスペシャリストの概念を理解し、フードスペシャリストとして活躍できうる知識を修得する。						
授業の概要	フードスペシャリストが持つ専門性と役割について概説する。また、食物学、食品官能評価・鑑別などのフードスペシャリスト資格認定試験に出題される分野についてのまとめと試験対策も行う。						
到達目標	1) フードスペシャリストが持つ専門性について理解する。【知識・理解】 2) フードスペシャリスト資格認定試験に合格しうる知識を修得する。【知識・理解】 3) フードスペシャリストとして必要とされる学問領域を総合的・俯瞰的に理解した上で、食に関わる様々な問題についてその解決法を探求できる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	第1回：フードスペシャリストの概念 第2回：人類と食物 第3回：世界の食 第4回：日本の食 第5回：現代日本の食生活・食品産業の役割 第6回：食品の品質規格と表示 第7回：食情報と消費者保護 第8回：まとめ①、小テスト 第9回：「フードスペシャリスト論」過去問の傾向と対策 第10回：資格試験問題演習と解答・解説① 第11回：資格試験問題演習と解答・解説② 第12回：資格試験問題演習と解答・解説③ 第13回：資格試験問題演習と解答・解説④ 第14回：資格試験問題演習と解答・解説⑤ 第15回：まとめ②、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところを読み、演習問題についてはあらかじめ解いておく。（学習時間：2時間） 授業後：過去問題演習で不正解だった箇所を再度を解きなおし、関連する内容について教科書でもう一度学習しておく。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、演習 演習の際にはあらかじめ過去問を解いておき、授業時間は問題の正誤の解説を行う。また、関連する内容についての講義も行う。						
評価基準と評価方法	小テスト（40%）、期末テスト（50%）：講義内容の理解度の確認を行う。到達目標1) 2) 3) の到達度を確認する。 授業態度（10%）：演習時における積極性などで評価する。到達目標2) の到達度を確認する。						
履修上の注意	授業外における学習をしっかりと行うこと。						
教科書	四訂フードスペシャリスト論第7版 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0714-7 2021年版フードスペシャリスト資格試験過去問題集 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 ISBN 978-4-7679-0658-4						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	保育・看護学						
担当教員	寺村 ゆかの					科目ナンバ-	U72020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。						
授業の概要	高齢化、少子化、核家族化が一般的となった現代、若い夫婦が健全な生活を営むのには多大の努力が必要である。出産や死亡は病院が普通となり、医学の進歩により家庭での看護の意義も変容してきた。育児では家庭が主体であることに変わりはないが、保育所や幼稚園も無視できない。本講義では、乳幼児の発育、家族の発達過程で生じるさまざまな健康の問題に対し、解決方法や家庭での看護のあり方、具体的な看護技術について学ぶ。さらに、より健康的なライフスタイルを獲得するためには何が必要かを考える。						
到達目標	(1) 子どもの発達や健康、さらに現代の子育て家庭が抱える課題について説明することができる。(知識・理解) (2) 地域生活の質の向上という観点から、子育て支援のあり方を提案することができる。(知識・理解)						
授業計画	第1回 授業のオリエンテーション／保育とは何か 第2回 成長と発達 第3回 妊娠期の女性（母親）の心身の変化と胎児の成長・発達 第4回 新生児・乳児期の心身の成長・発達 第5回 幼児期の心身の成長・発達 第6回 乳幼児期の人間関係の発達 第7回 乳幼児の健康（かかりやすい病気と家庭での看護）管理（家庭での看護実習） 第8回 乳幼児期におこりやすい事故とその予防 第9回 子どもへの接し方 第10回 子どもの遊びの発達 第11回 子どもの文化 第12回 家庭保育の現状と課題 第13回 保育サービスの現状と課題 第14回 地域の子育て支援の現状と課題 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：毎回の講義中、次回の講義内容に関係する「キーワード」を提示するので、それについて次回の授業までに自己学習をしておく。授業ではその「キーワード」についての質問を行い、受講者の意見等を求めるので、答えられるように準備しておく。＜学習時間2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を復習し、それに関する新聞記事や文献等を読む。＜学習時間2時間＞						
授業方法	講義では、まず前回の時間に作成したミニレポートの内容を全員で振り返り共有することから始める。準備学習で調べたキーワードをもとに意見交換を行いながら、それぞれの回のテーマについて内容を展開していく。子どもの病気に対するケアや現代の子育て家庭が抱える課題などの事例検討の際には、演習（グループワークもしくはペアワーク）を行う。						
評価基準と評価方法	①毎回（1回～14回）の授業内で提出するミニレポート又は小テスト（70%） ②最終レポート（30%）。 ①と②の合計（100%）で評価する。 授業内での提出物：ミニレポート（講義内容についての理解や気づき、意見など）の記述内容の的確さを評価する。最終レポート：授業で扱った内容について統合的に理解が深まっているか、子育てに対する関心や支援のあり方について意見が述べられているか等で評価する。到達目標(1)および(2)についての到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法： ミニレポートの内容や意見・質問については、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数が、開講日数の2/3に満たないものには単位取得が認められない。 授業中の携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止する。						
教科書	なし。 毎回レジュメを配布する。						
参考書	「保育の心理学」伊藤篤 編著（2017）ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07956-8 「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」小林美由紀 編著（2018）診断と治療社 ISBN:978-4-7878-2330-4						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	ホスピタリティーと産業						
担当教員	平井 拓己					科目ナンバ-	U73600
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	産業におけるホスピタリティーの価値の考察						
授業の概要	ホスピタリティーをさまざまな角度から取り上げ、産業におけるホスピタリティーの価値を考察する。産業とホスピタリティーとの関連の深さから産業群は大きく5群に分けられるか、最上位の医療・介護事業、宿泊産業、外食産業旅行産業、観光・レジャー産業から代表的な企業を数社取り上げ、その企業の発展あるいは消滅にホスピタリティーかどのように関連したのか調査した結果を考察し、上質なホスピタリティーの実践につなげる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティーに関わる業界を理解し、それぞれの特徴や課題について論じることができる。(知識・理解) ・ホスピタリティーの発想を理解し、自身の生活において実践することができる。(態度・志向性) 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ホスピタリティーとは 3. 産業発展の歴史とホスピタリティー 4. 観光・レジャー産業(1)企業事例(テーマパーク) 5. 観光・レジャー産業(2)企業の基本 6. 宿泊産業(1)企業事例(旅館) 7. 宿泊産業(2)企業の組織 8. 外食産業(1)企業事例(ファミリーレストラン) 9. 外食産業(2)FCの仕組み 10. 旅行産業(1)企業事例(航空会社) 11. 旅行産業(2)企業研究の方法 12. 医療・介護産業(1)企業事例(病院) 13. 医療・介護産業(2)経営理念とホスピタリティー 14. ホスピタリティーにおける課題 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：経済紙などを読み、毎回の授業時に提出する質問項目(キーワード)を考えまとめる。(学習時間：1時間)</p> <p>授業後学習：授業中に示す「お題」(授業内容に関連する自主研究)についてまとめて、次回授業時に提出する。(学習時間：3時間)</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>授業内で紹介する映像や新聞記事をもとに、それらの内容についての質問項目について考え、小レポートを作成、提出する。作成にあたり、テーマによってグループワークを行う。受講者数によっては、各自で企業研究を行い発表する機会を設ける。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点(毎回提出物があります) 40%</p> <p>中間レポート及び期末試験またはレポート 60%</p>						
履修上の注意	<p>授業は定刻に開始するため受講者には時間厳守を求めます。遅刻は減点の対象となります。</p> <p>講義中の携帯電話などの使用は厳禁とします。</p> <p>教室内では帽子を脱いで下さい。</p> <p>以上守っていただけない場合及び他の受講者に迷惑となる行為を行う受講生は、退出していただきます。</p>						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	講義中に指示します。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する。						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながら、さらに昨今のWEBマーケティングの新しさを取り入れながら理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①マーケティングの仕組みについて興味・関心を高めることができる。（知識・理解） ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。（知識・理解） ③商品開発の裏側を読み解き、自らの企画・開発力を実践することができる。（汎用的技能） ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。（態度・志向性） ⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 マーケティングの基本概念 第4回 戦略的マーケティング 第5回 製品のマネジメント 第6回 価格のマネジメント 第7回 広告のマネジメント（WEB他） 第8回 広告のマネジメント（メディア他） 第9回 チャンネル戦略の基本 第10回 サプライチェーンのマネジメント 第11回 営業のマネジメント（プロモーションのマネジメント）；ゲストスピーカーを招聘予定 第12回 顧客関係づくりのマネジメント 第13回 顧客理解（構築）のマネジメント（デジタル社会の在り方） 第14回 ブランド構築のマネジメントと組織の在り方 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】流行のものや話題のものを常に把握し、資料を収集しながらまとめる。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください）（学習時間：2時間） 【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。授業中に指示された課題についてレポートを作成（学習時間：2時間）						
授業方法	【対面授業】 講義 ・課題解決型学修 ・反転授業 ・ディスカッション、ディベートを取り入れた授業を実践する。 【実務経験のある教員等による授業】 マーケティング&リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。						
評価基準と評価方法	・中間テスト（20%） ・授業内での提出物（レポートも含む）（20%） ・期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ③新聞は必読						
教科書	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第4版』中央経済社、2020年 ISBN978-4-502-32771-1						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和食文化研究						
担当教員	湯木 潤治					科目ナンバ-	U73630
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	茶懐石の作法や流れについての知識を習得できる。						
授業の概要	<p>「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されて以来、日本文化としての「和食」に世界的な注目が集まっている。「和食」といえば料理内容に関心が集まりやすいが、登録された「和食」とは「日本人の伝統的な食文化」である。</p> <p>本講義では、伝統的な「日本人の食文化」がどのようなものであったかを、ハレとケ、日本の四季と食文化の関係、行事食、米食、酒、食器とはし、食事の場としつらえ、地域と食文化などの内容で解説する。現代の私たちが「和食の文化」をどのように受け継ぎ、活かすことができるかを考えることを目的とする。</p>						
到達目標	<p>(1) 食文化が日本の四季とどのように結びつき、伝統文化を醸成してきたかについて説明できる【知識・理解】</p> <p>(2) 茶懐石の歴史や文化的側面を考察しながら、懐石の作法や流れが身に附く【汎用的技能】</p> <p>(3) 季節感を得て、「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れることができる【態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶懐石とは 2. 茶懐石の起源 3. 茶懐石の歴史 4. 茶懐石の心 5. 茶懐石の作法 6. 茶懐石の料理の器 7. 茶懐石の流れ 8. 茶懐石のすすめ方・いただき方 9. 飯 実演 10. 汁物 実演 11. 向付 実演 12. 煮物 実演 13. 焼き物 実演 14. 預け鉢 実演 15. 茶懐石と日本の食文化（実習含む） 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：茶懐石に関連した書籍が多く出版されているので、1冊読んで、時代的背景や文化的側面に対する理解を深めておくとよい。（予習2時間）</p> <p>授業後学習：授業で示したテーマ・課題について報告文を作成する（復習2時間）</p>						
授業方法	講義：前半は、各項目に沿って講義、ビデオを使用して理解を深めてもらう、後半は、料理を作りながら、調理の仕方、だしの引き方など日本料理の基礎を学んでもらう。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物 50%：各回でのリアクションペーパーによって茶懐石の作法や流についての知識を問い、到達目標（1）および（2）に関する到達度を確認する。</p> <p>レポート提出 50%：到達目標（1）および（3）に関して「一期一会」に代表されるような精神的な考え方を取り入れたレポートが作成できているかどうか確認する。</p> <p>両方を総合的に見て判断する</p>						
履修上の注意	失格条件：レポート未提出及び授業を1/3以上欠席したもの 実習のために材料費を受益者負担として徴収する。学外で研修する場合は、交通費や入館料が必要な場合があります。						
教科書	特に使用しない。（プリントを配布する）						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子実習						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U22440
学期	後期隔週B	曜日・時限	月曜2~5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生地を中心に基本的な製菓技術を実習し、和洋菓子製作の基礎を修得する。						
授業の概要	この授業は和菓子と洋菓子について、衛生面への認識を深めながら実習を行う。和菓子では、餡作りから基本的な和菓子（饅頭・団子・大福、季節の菓子）を中心に生地作り、包餡、寒天の扱い、道具の扱いを身につける。洋菓子では、特別招聘講師の指導も受け、基本の生地（スポンジ生地、バター生地、タルト生地、パイ生地）作りやデコレーションも行う中で、基本的な作業（混ぜる、泡立てる、こねる、のばす、切る、等）を修得する。最終的には、各自が独自のオリジナル菓子を考案・計画して、実際に作り、発表する。						
到達目標	(1) 衛生面に注意しながら、基本的な作業ができる。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 和菓子では包餡を身につけ、洋菓子では基本の生地を作成できる。【汎用的技能】 (3) 基本的な作業を確実にマスターし、デコレーションできる。【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実習前の注意事項、焼き菓子 第2回 「特別招聘講師」洋菓子 スポンジ生地 第3回 「特別招聘講師」洋菓子 デコレーション、マジパン細工 第4回 「特別招聘講師」洋菓子 タルト生地 第5回 「特別招聘講師」洋菓子 バター生地 第6回 和菓子 和菓子 粒餡・潰し餡 第7回 和菓子 和菓子 大福・饅頭 第8回 和菓子 漉し餡 第9回 和菓子 団子、羊羹 第10回 洋菓子 パイ生地 第11回 洋菓子 シュー生地 第12回 和菓子 白餡 第13回 和菓子 練切 第14回 オリジナル菓子作成 第15回 オリジナル菓子の発表・まとめ ※菓子の種類については、その回の代表的なものを挙げている。 ※場合によって、実習内容や順序を変更することがある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習内容について、教科書の該当箇所を読み、概要を把握しておく。＜学習時間：1時間＞ オリジナル菓子作成の準備として、書類を作成する。 授業後学習：実習した菓子について、手順や作業のポイント他、レポートを作成する。＜学習時間：1時間＞ ※資料やレポートのやりとりは松蔭manabaを活用する。						
授業方法	実習：菓子の作成 発表：第15回 各自が考案・作成したオリジナル菓子について発表する。						
評価基準と評価方法	授業態度50%、提出物20%、課題20%、小テスト10% 授業態度：実習の取り組み、グループ作業への参加度、実習結果（菓子の仕上がり）から、総合的に評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 提出物：【実習後のレポート】実習結果をもとにレポートが作成できているか、作業内容の記録、結果、考察を総合的に評価する。 課題：【オリジナル菓子作成】課題について適切な計画をたて、計画に基づき作成できているか。 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト：指定した基本的な調理操作を正確に行っているかを評価する。 到達目標(1)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	「和洋菓子・製パン理論」「和洋菓子理論」の単位修得者が履修できる。 隔週2回分連続の実習となるため、日程に注意をすること。 実習内容を把握し、調理に適した身支度をした上で、実習に臨むこと。 実習室・試食室へは許可された物のみ持ち込みを可能とする。 実習後・試食後の後片付けと実習室・試食室の清掃終了までが実習時間となる。 全回出席を原則とし、出席回数が開講日の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とし、遅刻・欠席の場合は、必ず連絡をすること。 提出物は、提出期限厳守。実習後の実習レポート提出をもって、実習を受講したこととする。 実習着購入については、ポータルにて連絡をする。 実習費 7,000円を徴収する。						

教科書	『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2017） ※これらの教科書を「和洋菓子理論」でも使用する。
参考書	『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014）

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	和洋菓子・製パン理論						
担当教員	松木 宏美					科目ナンバ-	U72650
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	和洋菓子・パン製造の実践に活かせる知識や理論を科学的に修得する。						
授業の概要	和洋菓子や・パンを作るためには、材料の選定・準備、作業の実施と各工程の見極めが重要となる。そこには、物理的、化学的な理由だけではなく、地理的、歴史的な背景がある。この授業では、和洋菓子やパン製造の基礎知識（歴史、分類、材料、作業工程、器具・道具）や理論（材料の役割、作業工程の意義、膨化のしくみ）、衛生的な取扱いなどの学ことによって、和洋菓子・パン製造について科学的、体系的に学ぶ。さらに理論と実習とをリンクさせながら、実践に活かせる知識としての修得を目指す。						
到達目標	(1)和洋菓子・パン製造の基礎知識や理論、衛生的な取扱いを理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)製法や素材選びなど製造現場での基本的な知識を体系的に関連づけることができる。【汎用的技能】 (3)和洋菓子・パン製造のコツとカンに類する部分を科学的知識として説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、和洋菓子・パンの概要 第2回 歴史と種類 第3回 材料の基礎知識 ① 粉（小麦、米、他） 第4回 材料の基礎知識 ② 糖類 第5回 材料の基礎知識 ③ 乳製品、油脂 第6回 材料の基礎知識 ④ 卵、他 第7回 作業工程 ① 第8回 作業工程 ② 第9回 膨化のしくみ 第10回 基本の生地 ① 第11回 基本の生地 ② 第12回 製菓・製パン道具と器具の役割 第13回 菓子・パンの周辺 お茶・食器 第14回 オリジナル菓子・パンに向けて 衛生的な取扱い 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所に通し、松蔭manabaコンテンツに提示する資料を閲覧しておく。 <2時間> 授業後学習：授業の要点と重要箇所の確認・整理をし、松蔭manabaの小テストまたはレポートを提出する。 <2時間>						
授業方法	主として講義形態で授業を行う。グループワークをすることもある。講義では実習で使用する教科書を参考にしてパワーポイントや映像を用いる。理論と関連づけて、実習で取り上げる菓子やパンの作り方について具体的な説明をする。布や小麦粉粘土で成形の練習をすることもある。毎回の授業終了前にはまとめの時間を設けて質問に応じ、小テストまたはレポート課題を課す。						
評価基準と評価方法	期末試験50%：授業内容全般についての理解度、興味関心の有無について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 課題 20%：課題に対して積極的に調べ、レポートを作成していることを評価する。 到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業態度30%：小テストやレポートにより、理解度、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 授業中の作業やグループワークでは、積極性、興味・関心の明確性・具体性について評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 フィードバックの方法：授業時および松蔭manabaにて対応する。						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 提出物は提出期限厳守のこと。 質問には、授業時および松蔭manabaで応じる。						
教科書	検討中、未定の場合は松蔭manabaのコースコンテンツを活用して資料を配布する。 ※「和洋菓子実習」「製パン実習」では、下記の参考書をそれぞれ教科書として使用する。						
参考書	『基礎からわかる製パン技術』、エコール辻 大阪 辻製パンマスターカレッジ、吉野精一著、柴田書店、ISBN 978-4-388-06107-5 ※上記を「製パン実習」の教科書として使用する。 『洋菓子教本』、日本菓子教育センター洋菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2017） 『決定版 和菓子教本』、日本菓子教育センター編、誠文堂新光社、ISBN 978-4-416-81293-8 ※上記2冊を「和洋菓子実習」の教科書として使用する。 『和菓子教本』、堀正幸著、日本菓子教育センター和菓子編集委員会編、日本菓子教育センター（2014）						